
久喜市

栗橋宿本陣跡Ⅱ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

2020

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 本陣の家紋（揚羽蝶文）を表した鬼瓦（第26号土壙出土）



2 鍋島焼（第1085号土壙出土）

卷頭図版 2



1 第 30 号土壙出土磁器



2 第 1032 号土壙出土陶器・土器

序

埼玉県の北東県境を流れる利根川は、日本一の流域面積を誇る大河川です。「刀祢河泊」と万葉集にもその名が見えるように、古くから人や物資が行きかう交通路として利用され、親しまれてきました。現在も生活用水や産業用水の供給源として、私たちは利根川から多大な恩恵を受けています。

しかし、その一方で利根川はたびたび恐ろしい水害を引き起こし、流域に生活する人々に計り知れないダメージを与えてきました。

国土交通省では、このような災害を引き起こす利根川の氾濫を未然に防ぐため、堤防を拡幅し強化する首都圏氾濫区域堤防強化対策事業を実施しています。

本事業地のある加須・羽生・久喜市内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った久喜市の栗橋宿本陣跡もそのひとつです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

江戸時代に日光道中の宿場であり、商人や職人の住まいが並んでいた栗橋宿は、利根川を渡る房川渡しに栗橋関所が置かれた交通の要衝として栄えていました。宿場の北側には本陣がおかれ、大名や旗本の宿泊施設として使用されてきました。「栗橋宿本陣跡」は、この本陣の敷地と、隣接する宿場町を含む遺跡です。

今回の調査では本陣敷地周辺の火災に伴う焼土の広がりなどが明らかになりました。中にはセットで保管されていた皿が火災に遭い、重なり合って被熱した状態で出土した例もあり、当時の暮らしぶりを、火災の時点で切り取って生々しく物語っています。また、高級磁器である鍋島焼の皿や、本陣池田家の家紋が付いた鬼瓦など、多くの遺物が出土し、本陣の実態を示す貴重な発見となりました。

これらの発掘調査成果をまとめた本書が、埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料、また、今後の学術研究の基礎資料として活用されることを願っています。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、久喜市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 藤 田 栄 二

例 言

1 本書は久喜市に所在する栗橋宿本陣跡の発掘調査報告書である。本書では調査範囲のうち、北半部の本陣敷地想定範囲について報告する。

2 遺跡の代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

栗橋宿本陣跡 (No. 86 - 007 第1次)

久喜市栗橋北二丁目 3432 - 1 他

平成 25 年 5 月 15 日付教生文第 2 - 2 号

栗橋宿本陣跡 (No. 86 - 007 第2次)

久喜市栗橋北二丁目 3432 - 1 他

平成 25 年 11 月 1 日付教生文第 2 - 44 号

栗橋宿本陣跡 (No. 86 - 007 第3次)

久喜市栗橋北二丁目 3432 - 1 他

平成 26 年 6 月 20 日付教生文第 2 - 15 号

栗橋宿本陣跡 (No. 86 - 007 第4次)

久喜市栗橋北二丁目 3441 - 1 他

平成 27 年 4 月 30 日付教生文第 2 - 2 号

3 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課(当時)が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。

発掘調査事業(平成 25 ~ 27 年度)

「利根川上流河川改修事業における平成 25 年度埋蔵文化財発掘調査」(第1次)

「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・久喜地区)における平成 25 年度埋蔵文化財発掘調査」(第2次)

「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・久喜地区)における平成 26 年度埋蔵文化財発掘調査」(第3次)

「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・久喜地

区)における平成 27 年度埋蔵文化財発掘調査」(第4次)

報告書作成事業(平成 28 ~ 令和元年度)

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成 28 年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成 29 年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成 30 年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成 31 年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」

5 発掘調査、整理報告書作成事業は I - 3 に示した組織により実施した。

栗橋宿本陣跡第1次発掘調査は、平成 25 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで実施し、木戸春夫、栗岡潤、小野美代子、林雅恵が担当した。

第2次調査は、平成 25 年 11 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで実施し、木戸、栗岡、小野、林が担当した。

第3次調査は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで実施し、栗岡、村山卓、小野、水村雅功が担当した。

第4次調査は、平成 27 年 4 月 1 日から 7 月 31 日まで実施し、栗岡、小野が担当した。

整理・報告書作成事業は、平成 28 年 4 月 1 日から令和元年 12 月 31 日まで実施し、村山、小野、久永雅宏が担当した。

報告書は令和 2 年 3 月 23 日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 460 集として印刷、刊行した。

6 発掘調査における基準点測量は、第1次調査を株式会社ジオプランニング、第2・3・4次調査を株式会社東京航業研究所に委託した。空中写真撮影は、第1次調査を株式会社シン技術コンサル、第3次調査を中央航業株式会社、第4次

- 調査を株式会社東京航業研究所に委託した。
- 7 発掘調査における自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボ、整理作業における自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
 - 8 発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は村山が行った。巻頭図版用の遺物撮影は、小川忠博氏に委託した。
 - 9 文字資料の釈文は、久喜市教育委員会・久喜市立郷土資料館の協力を得た。
 - 10 出土品の整理と図版作成は、村山、小野、久永が行い、木製品については矢部瞳、金属製品については瀧瀬芳之、石器・石製品については水村・入江直毅の協力を得た。また、町並みの復元、文献調査にあたっては、劔持和夫の協力を得た。
 - 11 文献調査に際して、久喜市立郷土資料館より「栗橋宿往還絵図」に関する資料提供を受けた。

- 12 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を村山が行った。
 - 13 本書の編集は村山が行った。
 - 14 本書にかかる諸資料は、令和2年4月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
 - 15 発掘調査と本書の作成に際し、下記の機関・方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝致します。(敬称略)
- 久喜市教育委員会 江戸遺跡研究会
江戸在地土器研究会
池尻 篤 石井たま子 井上美奈子 永越信吾
太田まり子 小川 望 梶原 勝 金子 智
鈴木裕子 関根信夫 富元久美子 中野高久
中村和夫 平田博之 堀内謙一 堀内秀樹
巻島千明 丸山謙司 水本和美 宮澤菜穂
両角まり 山崎吉弘

凡 例

- 1 栗橋宿本陣跡におけるX・Yの数値は、世界測地系国土標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に示した方位はすべて座標北を示す。

C 6 - D 3 グリッド北西杭の座標は、X = 15770.000 m、Y = - 11780.000 m、北緯 36° 08′ 31.4360″ 東経 139° 42′ 08.7619″ である。

- 2 調査に際して使用したグリッド名称は、事業地内の全体を覆うように設定した。座標値X = 16000.000 m、Y = - 12300.000 m を北西の原点（A 1 - A 1 グリッド）とし、100×100 m の大グリッドを設定し、さらにその中を10×10 mの小グリッドに細分した。

- 3 グリッドの名称は、北西原点を基点に北から南にアルファベット（A・B・C…）、西から東に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせた。同様に、小グリッドは各グリッドの北西隅を基点に、北から南にA～J、西から東に1～10とし、グリッド内を100に区分した。

これらを合わせた呼称は、ハイフォン（-）をはさみ、大グリッドを左に、小グリッドを右に表記した。（大グリッド） - （小グリッド）

- 4 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S B…建物跡 S E…井戸跡 S D…溝跡

S A…柵列跡 S K…土壇

S G…池状遺構 P…ピット S…石

基礎…基礎状遺構 桶…埋設桶

- 5 本書における挿図の縮尺は、以下の通りである。例外については図中に縮尺とスケールを示した。

全測図 1/500

遺構図 1/120・1/80・1/60・1/30

遺物実測図・拓影図 1/2・1/3・1/4・1/6

遺構図は原則、日光道中側を上にして示した。

- 6 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位 m）を表す。

- 7 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・遺物計測値は、陶磁器・土器等をcm、銭貨をmm、重さをg単位とした。

・計測値の（ ）は復元推定値、[]は現存値を示す。

・陶磁器の計測値のうち、口径は口縁上端部の径を、底径は畳付下端部の径を示した。蓋は底径欄に下端の径を示した。輪高台状のつまみが付く蓋は口径欄につまみ上端部の径を示した。

・瓦の計測値は、「長さ」に瓦当面からの長さ（奥行）、「幅」に全体の幅、「厚さ」に平瓦部の厚さ、「高さ」に接地面からの高さ、「径」に瓦当部（軒丸部分）の径を記載した。

・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。

A : 雲母 B : 片岩 C : 角閃石 D : 長石 E : 石英 F : 軽石 G : 砂粒子 H : 赤色粒子 I : 白色粒子 J : 針状物質 K : 黒色粒子 L : その他 M : チャート

・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けて示した。

・残存率は器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・備考には出土位置、煤の付着、推定生産地、文様の特徴、特筆される事項等を記した。陶磁器では（ ）内に慣用名を記した。

- 8 遺物実測図の網かけは漆、被熱、タール付着の範囲を表す。網かけの濃度によって種類を区分し、図中に例示した。主な網かけは以下のとおりである。

赤漆 20% 茶漆 30% 黒漆 35% 炭化 50%

- 9 本書に掲載した地形図類は国土地理院発行の1/50000 地形図、久喜市発行の1/2500 都市計画図を編集のうえ、使用した。
- 10 遺構番号は、原則、調査時のものを用いた。調査の都合上、遺構番号に多くの欠番が生じているが、これらについても欠番のまま扱った。

欠番遺構および特に変更したものは下記の表に示した。

- 11 文中の引用文献等は、(著者 発行年)の順で表記し、その他の参考文献とともに巻末に掲載した。

遺構番号振替え・欠番一覧表

新	旧	備考
SB2	SB2 SB3	統合
SB2 S4	SB2・3 S1	名称変更
SB2 S5	SB2・3 S2	名称変更
SB2 S6	SB2・3 S3	名称変更
SB2 S7	SB2・3 S4	名称変更
SB2 S8	SB2・3 S5	名称変更
SB2 S1	SB2・3 S6	名称変更
SB2 S2	SB2・3 S7	名称変更
SB2 S3	SB2・3 S8	名称変更
SB4	SB4 SB5	統合
SB4 S3	SB4・5 S1	名称変更
SB4 S4	SB4・5 S2	名称変更
SB4 S5	SB4・5 S3	名称変更
SB4 S6	SB4・5 S4	名称変更
SB4 S2	SB4・5 S5	名称変更
SB4 S1	SB4・5 S6	名称変更
SB6	SB6・7・10～12	統合
本陣跡5次SB4『栗橋宿跡V』掲載	SB8・9	名称変更
SB16	杭	新規発番
基礎状遺構1	礎石1・2	名称変更
基礎状遺構2	ピット15・16	名称変更
杭列2	SD2	統合
桶14	桶19	統合
桶17	SK51	統合
桶30・34(掘方)	SK134	統合
桶56	桶57	統合
桶62(掘方)	SK152	統合
木樋7	木組遺構1	名称変更
竹樋1	木樋3	名称変更
竹樋2	木樋5	名称変更
瓦樋1	瓦樋6	名称変更
瓦樋1(掘方)	SK294	名称変更
SG1	SK167・168	名称変更
SD4	ピット19	統合
SD16	SK110	2基統合しSDに変更
SD16	SK116	
SK52	SK49	統合
SK63	SK72	統合
SK65	SK148	統合
SK68	SK73	統合
SK71	SK59	統合

新	旧	備考
SK111	SK121	統合
SK113	SK158	統合
SK124・125	SK170	統合
SK136	SK137	統合
SK138	SK139	統合
SK140	SK141	統合
SK159	SK192	統合
SK176	SK1140	統合
SK188	SK129	統合
SK191	ピット17	統合
SK199	SK155	統合
焼土範囲	SK222	名称変更
ピット30	—	新規発番
ピット31	—	新規発番
ピット32	—	新規発番
ピット33	—	新規発番
ピット34	—	新規発番
ピット35	—	新規発番
ピット36	SK218	名称変更
ピット37	SK293	名称変更
SB14a P1	SK1143	名称変更
SB14a P2	SK1144	名称変更
SB14a P3	SB14 P5	名称変更
SB14a P4	SB14 P6	名称変更
SB14a P5	SB14 P7	名称変更
SB14a P6	SK1017	名称変更
SB14b P1	SB14 P4	名称変更
SB14b P2	SB14 P3	名称変更
SB14b P3	SB14 P2	名称変更
SB14b P4	SB14 P1	名称変更
SB14b P5	SK1042	名称変更
SB14b P6	SK1038	名称変更
SB14b P8	SK1036	名称変更
SB14b P7	SK1037	名称変更
SE17	SK1106	統合
SD1	杭跡1	統合
基礎状遺構3	礎石3	名称変更
SK176	SK1140	統合
ピット38	SK1023	名称変更
ピット39	SK1033	名称変更
ピット40	SK1034	名称変更
ピット41	SK1035	名称変更
ピット42	SK1039	名称変更

新	旧	備考
ピット43	SK1040	名称変更
ピット44	SK1041	名称変更
ピット45	SK1066	名称変更
ピット46	SK1087	名称変更
ピット47	SK1088	名称変更
ピット48	SK1089	名称変更
ピット49	SK1126	名称変更
ピット50	SK1145	名称変更
ピット51	SK1146	名称変更
ピット52	SK1147	名称変更
ピット53	SK1149	名称変更
ピット54	SK1150	名称変更
ピット55	SK1151	名称変更
ピット56	SK1152	名称変更
ピット57	SK1153	名称変更
SK1154	—	新規発番
SK1155	SX1 (北)	名称変更
SK1156	SX1 (南)	名称変更
欠番	桶85	
欠番	SK14	
欠番	SK35	位置不明
欠番	SK44	
欠番	SK57	位置不明
欠番	SK69	位置不明
欠番	SK70	位置不明
欠番	SK112	遺構にならず
欠番	SK115	位置不明
欠番	SK143	位置不明
欠番	SK149	位置不明
欠番	SK154	遺構にならず
欠番	SK163	位置不明
欠番	SK169	位置不明
欠番	SK183	
欠番	SK184	位置不明
欠番	SK220	位置不明
本陣跡5次SB4『栗橋宿跡V』掲載	ピット3	統合
欠番	ピット6	
欠番	ピット7	
本陣跡5次SB4『栗橋宿跡V』掲載	ピット18	統合

目次

(第1分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I	発掘調査の概要	1
1	発掘調査に至る経過	1
2	発掘調査・報告書作成の経過	2
(1)	発掘調査	2
(2)	整理・報告書の作成	2
3	発掘調査・報告書作成の組織	3
II	遺跡の立地と環境	5
1	地理的環境	5
2	歴史的環境	6
III	遺跡の概要	13
IV	栗橋宿本陣跡の遺構と遺物	29
1	第一面の遺構と遺物	29
(1)	建物跡	29
(2)	基礎状遺構	33
(3)	胞衣埋納遺構	33
(4)	埋設桶	37
(5)	井戸跡	53
(6)	杭列	71
(7)	木樋・竹樋	76
(8)	瓦樋	80
(9)	池状遺構と関連施設	82
(10)	溝跡	97
(11)	柵列跡	114
(12)	焼土遺構	114
(13)	土壌	115
(14)	ピット	340

(第2分冊)

2	第二面の遺構と遺物	341
(1)	建物跡	341
(2)	基礎状遺構	341
(3)	井戸跡	343
(4)	溝跡	350
(5)	土壌	368
(6)	ピット	447
(7)	遺構外出土遺物	447
3	文字資料	454
4	出土遺物一覧と遺構の時期	454
V	自然科学分析	485
1	埋設桶の土壌分析	485
2	構造物等に用いられた木製品の樹種同定	490
3	大型植物遺体	492
4	動物遺体	494
5	木製品の樹種同定	496
VI	調査のまとめ	504

写真図版

挿図目次

(第1分冊)

第1図	埼玉県の地形	5	第33図	埋設桶(4)	43
第2図	栗橋宿本陣跡周辺の地形	6	第34図	埋設桶(5)	44
第3図	周辺の遺跡	8	第35図	埋設桶(6)	45
第4図	遺跡位置図	14	第36図	埋設桶(7)	46
第5図	栗橋宿本陣跡の基本土層(1)	15	第37図	埋設桶(8)	47
第6図	栗橋宿本陣跡の基本土層(2)	16	第38図	埋設桶(9)	48
第7図	栗橋宿本陣跡の基本土層(3)	17	第39図	埋設桶出土遺物(1)	48
第8図	栗橋宿本陣跡第一面全体図	18	第40図	埋設桶出土遺物(2)	49
第9図	栗橋宿本陣跡第二面全体図	19	第41図	埋設桶出土遺物(3)	50
第10図	第一面区割図(1)	20	第42図	埋設桶出土遺物(4)	51
第11図	第一面区割図(2)	21	第43図	第1号井戸跡	53
第12図	第一面区割図(3)	22	第44図	第2・3号井戸跡	54
第13図	第一面区割図(4)	23	第45図	第4号井戸跡	55
第14図	第二面区割図(1)	24	第46図	第5号井戸跡	56
第15図	第二面区割図(2)	25	第47図	第6・7号井戸跡	57
第16図	第二面区割図(3)	26	第48図	第8号井戸跡	58
第17図	第二面区割図(4)	27	第49図	第9・10号井戸跡	59
第18図	栗橋宿本陣跡の遺構番号	28	第50図	井戸跡出土遺物(1)	60
第19図	第1号建物跡	29	第51図	井戸跡出土遺物(2)	61
第20図	第2号建物跡	30	第52図	井戸跡出土遺物(3)	62
第21図	第4号建物跡	31	第53図	井戸跡出土遺物(4)	63
第22図	第6号建物跡	32	第54図	井戸跡出土遺物(5)	64
第23図	第13号建物跡	33	第55図	井戸跡出土遺物(6)	65
第24図	第16号建物跡	34	第56図	井戸跡出土遺物(7)	66
第25図	第1・2号基礎状遺構	34	第57図	杭列全体図	71
第26図	建物跡・基礎状遺構出土遺物(1)	35	第58図	杭列(1)	72
第27図	建物跡・基礎状遺構出土遺物(2)	36	第59図	杭列(2)	73
第28図	胞衣埋納遺構	37	第60図	杭列(3)	74
第29図	胞衣埋納遺構出土遺物	37	第61図	杭列出土遺物(1)	75
第30図	埋設桶(1)	40	第62図	杭列出土遺物(2)	76
第31図	埋設桶(2)	41	第63図	木樋(1)	77
第32図	埋設桶(3)	42	第64図	木樋(2)	78
			第65図	竹樋(1)	79
			第66図	竹樋(2)	80

第67回	木樋・竹樋出土遺物	81	第104回	土壇（8）	126
第68回	瓦樋	82	第105回	土壇（9）	127
第69回	池状遺構と関連遺構	83	第106回	土壇（10）	128
第70回	池状遺構（1）	84	第107回	土壇（11）	129
第71回	池状遺構（2）	85	第108回	土壇（12）	130
第72回	池状遺構出土遺物（1）	86	第109回	土壇（13）	131
第73回	池状遺構出土遺物（2）	87	第110回	土壇（14）	132
第74回	池状遺構出土遺物（3）	88	第111回	土壇（15）	133
第75回	池状遺構出土遺物（4）	89	第112回	土壇（16）	134
第76回	池状遺構出土遺物（5）	90	第113回	土壇（17）	135
第77回	池状遺構出土遺物（6）	91	第114回	土壇（18）	136
第78回	池状遺構出土遺物（7）	92	第115回	土壇（19）	137
第79回	池状遺構出土遺物（8）	93	第116回	土壇（20）	138
第80回	排水枡・第3号竹樋出土遺物	93	第117回	土壇（21）	139
第81回	溝跡（1）	98	第118回	土壇（22）	140
第82回	溝跡（2）	99	第119回	土壇（23）	141
第83回	溝跡（3）	100	第120回	土壇（24）	142
第84回	溝跡（4）	101	第121回	土壇（25）	143
第85回	溝跡出土遺物（1）	102	第122回	土壇（26）	144
第86回	溝跡出土遺物（2）	103	第123回	土壇（27）	145
第87回	溝跡出土遺物（3）	104	第124回	土壇出土遺物（1）	146
第88回	溝跡出土遺物（4）	105	第125回	土壇出土遺物（2）	147
第89回	溝跡出土遺物（5）	106	第126回	土壇出土遺物（3）	148
第90回	溝跡出土遺物（6）	107	第127回	土壇出土遺物（4）	149
第91回	溝跡出土遺物（7）	108	第128回	土壇出土遺物（5）	150
第92回	溝跡出土遺物（8）	109	第129回	土壇出土遺物（6）	151
第93回	溝跡出土遺物（9）	110	第130回	土壇出土遺物（7）	152
第94回	柵列跡	114	第131回	土壇出土遺物（8）	153
第95回	柵列跡出土遺物	114	第132回	土壇出土遺物（9）	154
第96回	焼土遺構	114	第133回	土壇出土遺物（10）	155
第97回	土壇（1）	119	第134回	土壇出土遺物（11）	156
第98回	土壇（2）	120	第135回	土壇出土遺物（12）	157
第99回	土壇（3）	121	第136回	土壇出土遺物（13）	158
第100回	土壇（4）	122	第137回	土壇出土遺物（14）	159
第101回	土壇（5）	123	第138回	土壇出土遺物（15）	160
第102回	土壇（6）	124	第139回	土壇出土遺物（16）	161
第103回	土壇（7）	125	第140回	土壇出土遺物（17）	162

第141图	土壙出土遺物 (18)	·····	163	第178图	土壙出土遺物 (55)	·····	200
第142图	土壙出土遺物 (19)	·····	164	第179图	土壙出土遺物 (56)	·····	201
第143图	土壙出土遺物 (20)	·····	165	第180图	土壙出土遺物 (57)	·····	202
第144图	土壙出土遺物 (21)	·····	166	第181图	土壙出土遺物 (58)	·····	203
第145图	土壙出土遺物 (22)	·····	167	第182图	土壙出土遺物 (59)	·····	204
第146图	土壙出土遺物 (23)	·····	168	第183图	土壙出土遺物 (60)	·····	205
第147图	土壙出土遺物 (24)	·····	169	第184图	土壙出土遺物 (61)	·····	206
第148图	土壙出土遺物 (25)	·····	170	第185图	土壙出土遺物 (62)	·····	207
第149图	土壙出土遺物 (26)	·····	171	第186图	土壙出土遺物 (63)	·····	208
第150图	土壙出土遺物 (27)	·····	172	第187图	土壙出土遺物 (64)	·····	209
第151图	土壙出土遺物 (28)	·····	173	第188图	土壙出土遺物 (65)	·····	210
第152图	土壙出土遺物 (29)	·····	174	第189图	土壙出土遺物 (66)	·····	211
第153图	土壙出土遺物 (30)	·····	175	第190图	土壙出土遺物 (67)	·····	212
第154图	土壙出土遺物 (31)	·····	176	第191图	土壙出土遺物 (68)	·····	213
第155图	土壙出土遺物 (32)	·····	177	第192图	土壙出土遺物 (69)	·····	214
第156图	土壙出土遺物 (33)	·····	178	第193图	土壙出土遺物 (70)	·····	215
第157图	土壙出土遺物 (34)	·····	179	第194图	土壙出土遺物 (71)	·····	216
第158图	土壙出土遺物 (35)	·····	180	第195图	土壙出土遺物 (72)	·····	217
第159图	土壙出土遺物 (36)	·····	181	第196图	土壙出土遺物 (73)	·····	218
第160图	土壙出土遺物 (37)	·····	182	第197图	土壙出土遺物 (74)	·····	219
第161图	土壙出土遺物 (38)	·····	183	第198图	土壙出土遺物 (75)	·····	220
第162图	土壙出土遺物 (39)	·····	184	第199图	土壙出土遺物 (76)	·····	221
第163图	土壙出土遺物 (40)	·····	185	第200图	土壙出土遺物 (77)	·····	222
第164图	土壙出土遺物 (41)	·····	186	第201图	土壙出土遺物 (78)	·····	223
第165图	土壙出土遺物 (42)	·····	187	第202图	土壙出土遺物 (79)	·····	224
第166图	土壙出土遺物 (43)	·····	188	第203图	土壙出土遺物 (80)	·····	225
第167图	土壙出土遺物 (44)	·····	189	第204图	土壙出土遺物 (81)	·····	226
第168图	土壙出土遺物 (45)	·····	190	第205图	土壙出土遺物 (82)	·····	227
第169图	土壙出土遺物 (46)	·····	191	第206图	土壙出土遺物 (83)	·····	228
第170图	土壙出土遺物 (47)	·····	192	第207图	土壙出土遺物 (84)	·····	229
第171图	土壙出土遺物 (48)	·····	193	第208图	土壙出土遺物 (85)	·····	230
第172图	土壙出土遺物 (49)	·····	194	第209图	土壙出土遺物 (86)	·····	231
第173图	土壙出土遺物 (50)	·····	195	第210图	土壙出土遺物 (87)	·····	232
第174图	土壙出土遺物 (51)	·····	196	第211图	土壙出土遺物 (88)	·····	233
第175图	土壙出土遺物 (52)	·····	197	第212图	土壙出土遺物 (89)	·····	234
第176图	土壙出土遺物 (53)	·····	198	第213图	土壙出土遺物 (90)	·····	235
第177图	土壙出土遺物 (54)	·····	199	第214图	土壙出土遺物 (91)	·····	236

第215図	土壙出土遺物 (92)	……………	237	第245図	土壙出土遺物 (122)	……………	304
第216図	土壙出土遺物 (93)	……………	238	第246図	土壙出土遺物 (123)	……………	305
第217図	土壙出土遺物 (94)	……………	239	第247図	土壙出土遺物 (124)	……………	306
第218図	土壙出土遺物 (95)	……………	240	第248図	土壙出土遺物 (125)	……………	307
第219図	土壙出土遺物 (96)	……………	241	第249図	土壙出土遺物 (126)	……………	308
第220図	土壙出土遺物 (97)	……………	242	第250図	土壙出土遺物 (127)	……………	309
第221図	土壙出土遺物 (98)	……………	243	第251図	土壙出土遺物 (128)	……………	310
第222図	土壙出土遺物 (99)	……………	244	第252図	土壙出土遺物 (129)	……………	311
第223図	土壙出土遺物 (100)	……………	245	第253図	土壙出土遺物 (130)	……………	312
第224図	土壙出土遺物 (101)	……………	280	第254図	土壙出土遺物 (131)	……………	313
第225図	土壙出土遺物 (102)	……………	281	第255図	土壙出土遺物 (132)	……………	320
第226図	土壙出土遺物 (103)	……………	282	第256図	土壙出土遺物 (133)	……………	321
第227図	土壙出土遺物 (104)	……………	283	第257図	土壙出土遺物 (134)	……………	322
第228図	土壙出土遺物 (105)	……………	285	第258図	土壙出土遺物 (135)	……………	323
第229図	土壙出土遺物 (106)	……………	286	第259図	土壙出土遺物 (136)	……………	324
第230図	土壙出土遺物 (107)	……………	287	第260図	土壙出土遺物 (137)	……………	327
第231図	土壙出土遺物 (108)	……………	288	第261図	土壙出土遺物 (138)	……………	328
第232図	土壙出土遺物 (109)	……………	289	第262図	土壙出土遺物 (139)	……………	329
第233図	土壙出土遺物 (110)	……………	289	第263図	土壙出土遺物 (140)	……………	330
第234図	土壙出土遺物 (111)	……………	290	第264図	土壙出土遺物 (141)	……………	331
第235図	土壙出土遺物 (112)	……………	291	第265図	土壙出土遺物 (142)	……………	332
第236図	土壙出土遺物 (113)	……………	292	第266図	土壙出土遺物 (143)	……………	334
第237図	土壙出土遺物 (114)	……………	293	第267図	土壙出土遺物 (144)	……………	335
第238図	土壙出土遺物 (115)	……………	294	第268図	土壙出土遺物 (145)	……………	336
第239図	土壙出土遺物 (116)	……………	295	第269図	土壙出土遺物 (146)	……………	336
第240図	土壙出土遺物 (117)	……………	296	第270図	土壙出土遺物 (147)	……………	337
第241図	土壙出土遺物 (118)	……………	300	第271図	土壙出土遺物 (148)	……………	338
第242図	土壙出土遺物 (119)	……………	301	第272図	ピット (1)	……………	339
第243図	土壙出土遺物 (120)	……………	302	第273図	ピット (2)	……………	340
第244図	土壙出土遺物 (121)	……………	303				

表目次

(第1分冊)

第1表	周辺の遺跡一覧……………	9	……………	97
第2表	第一面建物跡・基礎状遺構一覧表 ……………	30	第25表	第一面溝跡一覧表……………
第3表	建物跡・基礎状遺構出土遺物観察表 (1)……………	35	第26表	溝跡出土遺物観察表(1)……………
第4表	建物跡・基礎状遺構出土遺物観察表 (2)……………	36	第27表	溝跡出土遺物観察表(2)……………
第5表	胎衣埋納遺構出土遺物観察表……………	37	第28表	溝跡出土遺物観察表(3)……………
第6表	第一面埋設桶一覧表……………	38	第29表	柵列跡出土遺物観察表……………
第7表	埋設桶出土遺物観察表(1)……………	50	第30表	第一面土壇一覧表……………
第8表	埋設桶出土遺物観察表(2)……………	52	第31表	土壇出土遺物観察表(1)……………
第9表	第一面井戸跡一覧表……………	53	第32表	土壇出土遺物観察表(2)……………
第10表	井戸跡出土遺物観察表(1)……………	64	第33表	土壇出土遺物観察表(3)……………
第11表	井戸跡出土遺物観察表(2)……………	69	第34表	土壇出土遺物観察表(4)……………
第12表	井戸跡出土遺物観察表(3)……………	70	第35表	土壇出土遺物観察表(5)……………
第13表	第一面杭列一覧表……………	71	第36表	土壇出土遺物観察表(6)……………
第14表	杭列出土遺物観察表(1)……………	75	第37表	土壇出土遺物観察表(7)……………
第15表	杭列出土遺物観察表(2)……………	76	第38表	土壇出土遺物観察表(8)……………
第16表	第一面木樋・竹樋一覧表……………	78	第39表	土壇出土遺物観察表(9)……………
第17表	木樋・竹樋出土遺物観察表……………	81	第40表	土壇出土遺物観察表(10)……………
第18表	瓦樋出土遺物観察表……………	82	第41表	土壇出土遺物観察表(11)……………
第19表	池状遺構出土遺物観察表(1)……………	94	第42表	土壇出土遺物観察表(12)……………
第20表	池状遺構出土遺物観察表(2)……………	95	第43表	土壇出土遺物観察表(13)……………
第21表	池状遺構出土遺物観察表(3)……………	96	第44表	土壇出土遺物観察表(14)……………
第22表	池状遺構出土遺物観察表(4)……………	96	第45表	土壇出土遺物観察表(15)……………
第23表	池状遺構出土遺物観察表(5)……………	97	第46表	土壇出土遺物観察表(16)……………
第24表	排水枡・第3号竹樋出土遺物観察表		第47表	土壇出土遺物観察表(17)……………
			第48表	土壇出土遺物観察表(18)……………
			第49表	第一面ピット一覧表……………

写真図版目次

(第1分冊)

巻頭図版1	1	本陣の家紋(揚羽蝶文)を表した鬼瓦(第26号土壇出土)	巻頭図版2	1	第30号土壇出土磁器
	2	鍋島焼(第1085号土壇出土)		2	第1032号土壇出土陶器・土器

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所については、平成17年に発見された栗橋宿絵図から推定される範囲について「栗橋宿本陣跡」（No.86-007）として掲載されていた。その後、平成24年12月までの確認調査や栗橋宿跡の発掘調査成果から遺跡が南側に拡大することが明らかになった。

上記のとおり埋蔵文化財の所在が明確になったことから、利根川上流河川事務所長あてに、計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査が必要な旨を回答した。取扱いに

ついて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

調査に際し、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課（当時）の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が利根川上流河川事務所長から平成24年2月9日付け国関利上沿第27号で、埼玉県教育委員会教育長あて提出された。それに対する埼玉県教育委員会教育長からの発掘調査が必要な旨の勧告は下記のとおりである。

平成24年2月9日付け教生文第4-1337号

また、同法第92条の規定により公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された発掘調査届に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

〔第1次調査〕

平成25年5月15日付け教生文第2-2号

〔第2次調査〕

平成25年11月1日付け教生文第2-44号

〔第3次調査〕

平成26年6月20日付け教生文第2-15号

〔第4次調査〕

平成27年4月30日付け教生文第2-2号

（埼玉県教育局市町村支援部文化資源課）

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

栗橋宿本陣跡の発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業（加須・久喜地区）に伴って、平成25年度（第1・2次）、平成26年度（第3次）、平成27年度（第4次）の4回実施した。調査面積は16,604㎡である。

第1次調査は、平成25年4月1日～10月31日まで実施した。

4月5日に発掘調査届等の事務手続きを行った後、発掘調査事務所設置、囲柵の設置工事を行った。4月中旬から重機による表土掘削を開始し、第一面の検出を行った。続いて補助員作業を開始し、遺構の確認作業に入った。4月と8月に基準点測量及びグリッド杭打設作業委託を実施した。

遺構確認作業の結果、近世の建物跡・井戸跡・土壇・埋設桶・区画施設などの遺構が検出された。確認された遺構は掘削・精査を行い、順次、土層断面図・平面図の作成、写真撮影等の記録作成作業を行った。7月中旬に自然科学分析委託、9月中旬に空中写真撮影委託を実施した。

第2次調査は、平成25年11月1日～平成26年3月31日まで実施した。

9月17日に発掘調査届等の事務手続きを行った。11月から補助員作業を開始し、遺構の掘削・精査・記録作成作業を行った。11月後半に自然科学分析委託、12月前半に高所作業車による写真撮影を実施した。平成26年1月後半と3月前半に一部で重機による掘削を行い、第二面の検出作業を行った。第二面からも近世の井戸跡・土壇等が検出された。3月前半には第二面の基準点測量及びグリッド杭打設作業委託を実施した。補助員作業は3月半ばまで実施し、3月19日に第1次調査出土品と併せて発見届（幸手警察署長宛）と保管証（埼玉県教育委員会宛）を提出した。

第3次調査は、平成26年4月1日～平成27年3月31日まで実施した。

平成26年4月1日に発掘調査届等の事務手続きを行った。4月前半から補助員作業を開始し、前年度に引き続き遺構を掘削・精査した。その後、土層断面図・平面図の作成、写真撮影等の記録作成作業を行った。6月に第一面の調査が終了した箇所の重機掘削を行い、順次、第二面の調査に移行した。これに合わせて基準点測量及びグリッド杭打設作業委託を実施した。平成27年1月前半に、再度重機掘削を行い、調査区の大半で第二面の調査を開始した。また、既存道路部分についても第一面までの重機掘削を行い、遺構検出作業を開始した。2月前半には自然科学分析委託を実施した。

なお、この間、平成26年5月・6月・9月と平成27年3月に一回ずつ、高所作業車による写真撮影を、2月後半に空中写真撮影を行った。3月半ばで補助員作業を終了し、3月25日に発見届（幸手警察署長宛）と保管証（埼玉県教育委員会宛）を提出した。

第4次調査は、遺跡南側の既存道路部分を対象として、平成27年4月1日～7月31日まで実施した。

平成27年4月1日に発掘調査届等の事務手続きを行った。4月前半から補助員作業を開始して第一面の調査を行った。4月後半に第二面までの重機掘削を行い、続いて基準点測量及びグリッド杭打設作業委託を実施した。遺構は掘削・精査を行い、順次、土層断面図・平面図の作成、写真撮影等の記録作成作業を行った。6月後半に空中写真と高所作業車による写真撮影を実施した。7月後半に自然科学分析委託、埋め戻しを行い、調査を終了した。8月6日に発見届（幸手警察署長宛）と保管証（埼玉県教育委員会宛）を提出した。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書作成事業は、平成28年4月1日から令和元年12月26日まで実施した。このう

ち平成28年度から30年度は主に『栗橋宿本陣跡Ⅰ』の報告範囲の整理を行った。

本書にかかる令和元年度の整理作業は、出土遺物の水洗、注記から開始し、順次、接合・復元作業に着手した。接合・復元が終了した遺物は、実測、トレース、採拓を経て、遺構ごとにパソコンで印刷用の挿図を作成した。実測には磁気式3次元位置計測装置、正射投影画像撮影機を活用した。掲載遺物の一部は写真を撮影し、写真図版の版下データを作成した。

同時に、発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図等の照合作業を行い、修正を加えた第二原図を作成した。第二原図は仮版組を行った上で、スキャナでパソコンに取り込み、画像編集ソフトを用いてデジタルトレースと編集作業を進め、印刷

用の挿図版下データを作成した。

発掘調査で撮影された遺構写真は、選別を行い、写真図版用の版下データを作成した。

口絵写真は、特徴的な遺物を対象に、令和元年11月に撮影を委託した。

作成した遺構・遺物のデータ、自然科学分析結果等をもとに、原稿を執筆した。また、遺構・遺物の挿図と写真図版等を組み合わせて、報告書の割付・編集を行った。入稿後、3回の校正を経て、令和2年3月23日に、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第460集『栗橋宿本陣跡Ⅱ』（本書）を刊行した。

遺物及び図面類・写真類・データ類等の諸資料は、令和元年12月に整理分類のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3 発掘調査・報告書作成の組織

平成25年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳 一 郎	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	劔 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調査監兼調査第一課長	細 田 勝
総 務 課 長	藤 倉 英 明	主 幹	木 戸 春 夫
		主 査	栗 岡 潤
		専 門 員	小 野 美 代 子
		主 事	林 雅 恵

平成26年度（発掘調査）

理 事 長	樋 田 明 男	調査部	
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳 一 郎	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	富 田 和 夫
総 務 部 副 部 長	瀧 瀬 芳 之	主幹兼調査第二課長	木 戸 春 夫
総 務 課 長	藤 倉 英 明	主 査	栗 岡 潤
		主 事	村 山 卓
		専 門 員	小 野 美 代 子
		主 事	水 村 雄 功

平成27年度（発掘調査）

理 事 長	樋 田 明 男	調査部	
常務理事兼総務部長	木 村 博 昭	調 査 部 長	金 子 直 行
総務部		調 査 部 副 部 長	富 田 和 夫
総 務 部 副 部 長	瀧 瀬 芳 之	調査監兼調査第一課長	赤 熊 浩 一
総 務 課 長	安 田 孝 行	主 査	栗 岡 潤
		専 門 員	小 野 美 代 子

平成28年度（整理・報告書作成）

理 事 長	塩 野 谷 孝 志	調査部	
常務理事兼総務部長	木 村 博 昭	調 査 部 長	金 子 直 行
総務部		調 査 部 副 部 長	細 田 勝
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	主幹兼整理第一課長	吉 田 稔
総 務 課 長	曾 川 浩 二	専 門 員	小 野 美 代 子

平成29年度（整理・報告書作成）

理 事 長	塩 野 谷 孝 志	調査部	
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久	調 査 部 長	赤 熊 浩 一
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	吉 田 稔
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	主 任	村 山 卓
総 務 課 長	曾 川 浩 二	主 事	久 永 雅 宏

平成30年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二	調査部	
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久	調 査 部 長	瀧 瀬 芳 之
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	山 本 靖
総 務 部 副 部 長	田 中 広 明	主 任	村 山 卓
総 務 課 長	新 井 了 悟		

令和元年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二	調査部	
常務理事兼総務部長	高 津 導	調 査 部 長	黒 坂 禎 二
総務部		調査部副部長兼整理第一課長	上 野 真 由 美
総 務 部 副 部 長	山 本 靖	主幹兼整理第二課長	福 田 聖
総 務 課 長	新 井 了 悟	主 任	村 山 卓

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

栗橋宿本陣跡は、久喜市栗橋北二丁目3432-1ほかに所在する。JR宇都宮線、東武日光線の栗橋駅から北東0.8kmにあたる。久喜市は埼玉県北東端に位置し、利根川を挟んで茨城県古河市、五霞町に接している。JR宇都宮線、東武日光線が通り、国道4号・125号、県道3号さいたま栗橋線・12号川越栗橋線が交差する、県北東部における鉄道・道路の結節点である。

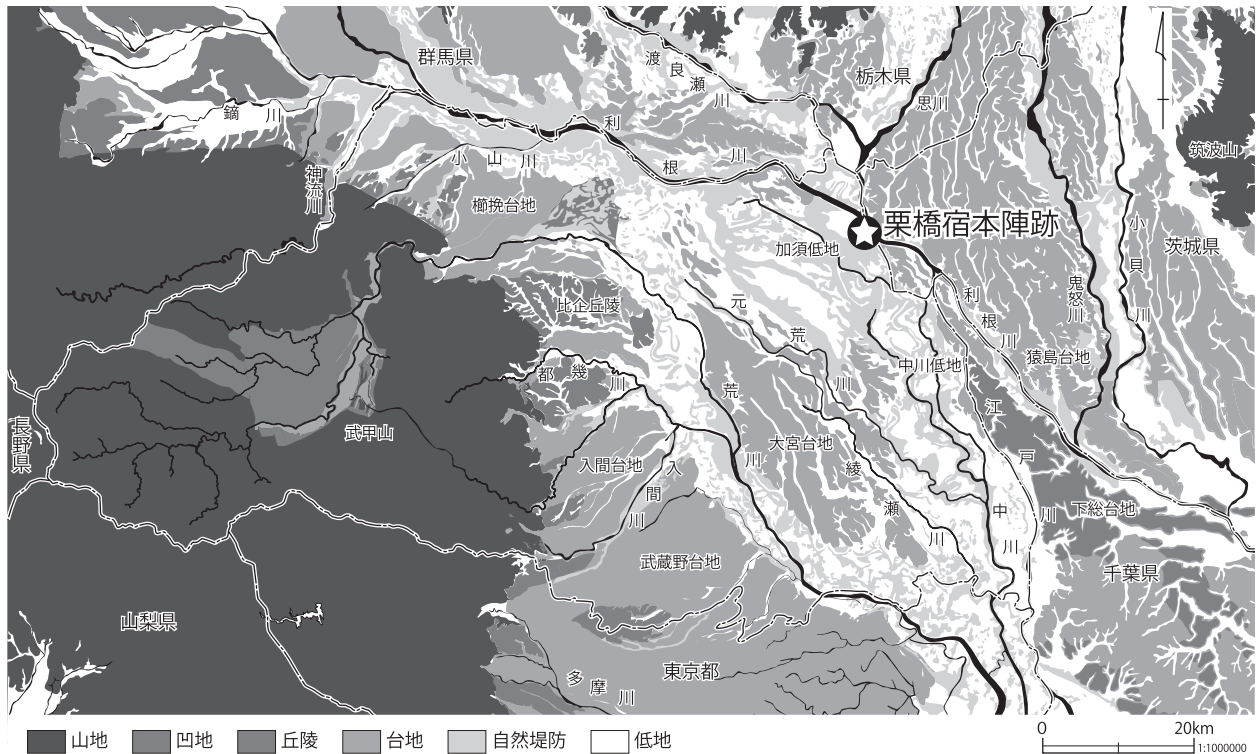
久喜市は平成22年に久喜市・栗橋町・菖蒲町・鷲宮町が合併して、新市としての久喜市となった。旧栗橋町域は現在でも栗橋地区と称されている。

栗橋地区は日光道中の宿場町として栄え、南流する利根川を用いた舟運と合わせて現代に至るまで大いに賑わいをみせている。また、市街を離れると、水田の中に自然堤防に沿った帯状の屋敷林が点在する景観となる。

遺跡は中川低地の北に位置している。中川低地は関東平野のほぼ中央、利根川中流域低地である加須低地の南東側に当たる。南側は大宮台地、東側は利根川を越えて古河台地になる。

妻沼低地、加須低地付近は関東造盆地運動の最も沈降の度合いが強い地域として知られ、現在でも沈降が進んでいる。羽生市小松1号墳が地下約3mに埋没しているのは、沈降が進んだ結果である(矢口・瀧瀬1996)。沈降前の利根川は現在の荒川筋を流れており、この造盆地運動によって現在の利根川の方向へと東遷したとされている。しかし、その流路は安定せず、多くの蛇行する流路跡とそれに伴う自然堤防が形成された。

近世初頭までの利根川本流筋として、会の川、合の川、利根川分流、北川辺蛇行流路、島川、渡良瀬川、浅間川、大落古利根川、庄内古川が考えられ、それ以外にも細かな流路が推定される。



中川低地にはこうした多くの河川の流下によって、砂礫が多く供給され、その両岸には自然堤防が発達した。また、浅間川と会の川が大落古利根川に合流する久喜市（旧栗橋町）高柳には、大河の証しである河畔砂丘が形成され、微高地として旧鷲宮町以南に連続して分布している。

栗橋宿跡は、近世初頭以前に渡良瀬川の右岸に形成された北西－南東方向の長さ約300m、幅

120mほどの自然堤防上に立地している。後述する江戸幕府に始まる東遷事業後は、遺跡の北を流れることとなった利根川の右岸に位置し、現在では利根川の堤防に接している。遺跡付近の標高は11～12mで、南側の後背湿地に営まれる水田との比高差は約1.0mである。遺構の覆土や地山は、砂質もしくはシルト質である。

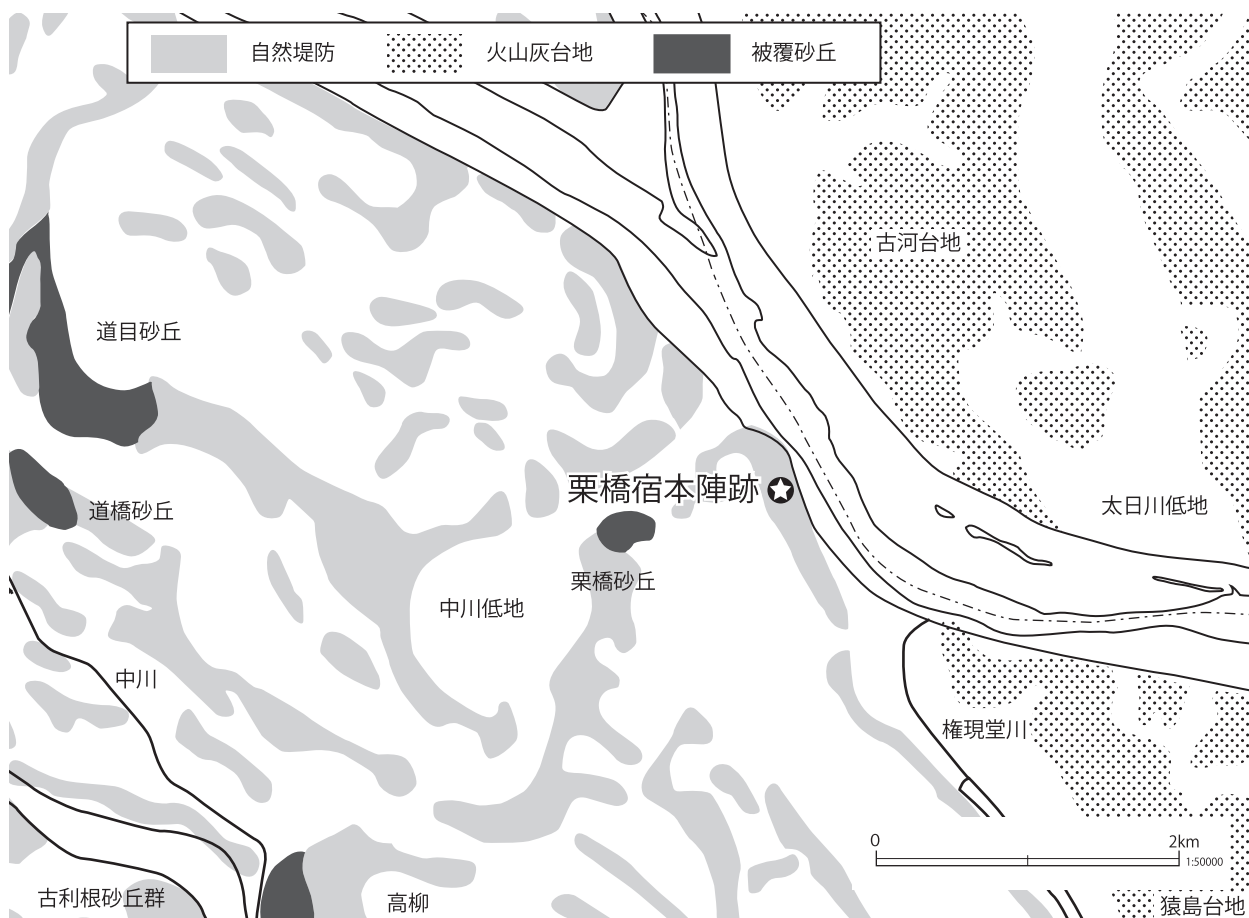
2 歴史的環境

(1) 中世の栗橋とその周辺

栗橋宿跡の所在する中川低地周辺の地表は、地形の沈降と河川の乱流による堆積土に厚く覆われている。そのため遺跡の分布は未だ不明な部分が多く、本来は現在検出されているよりも多くの遺

跡の存在が予想される。

栗橋地区では、古代以前に遡る遺跡は確認されていない。縄文時代前期（約6000年前）の海進時には栃木市藤岡付近まで海が入り込み、栗橋地区は海底であった。海退後は河川が乱流し、付近



第2図 栗橋宿本陣跡周辺の地形

は湿地のような状態が長く続いた。

平安時代には下総国葛飾郡新居郷に属し、12世紀には摂津源氏源頼政の郎党下河辺氏によって下河辺荘が開かれ、鎌倉時代中期には金沢北条実時が地頭となる。栗橋地区に当たる狐塚、高柳の両郷は金沢氏の支配を受けていたとされている。

鎌倉時代には、『吾妻鏡』に大河戸兄弟に関する記事があり、三郎行元は地区内の高柳が本貫地とされている。高柳から伊坂にかけては、鎌倉街道に比定される古道が今も一部残っている。近くには静御前終焉の地も伝承されている。

旧大利根町や旧栗橋町などの地域では、中世の遺跡はほとんど検出されていない。唯一、旧栗橋町の佐間小草原遺跡（2）が知られるのみである。中世墓を中心とした遺跡で、板碑37基、古瀬戸の瓶子、常滑の大甕などが工事中に出土した。板碑の年代は、文和3年（1354）から明応7年（1498）に及んでいる。平成17年の調査では、溝跡や土壙などが検出され、板碑、漆塗り椀などが出土した。

中世段階の利根川は、羽生市川俣で会の川、加須市大越で北川辺蛇行流路跡、浅間川に分流していた。栗橋地区周辺では、洪水による大量の土砂の堆積と、関東造盆地運動による地盤の沈降が進み、遺跡の存在は定かではない。

一方、渡良瀬川（太日川）の左岸、および権現堂川の左岸では、栗橋城址、古河城址をはじめとする数多くの遺跡が知られている。

近世初期までの「栗橋」といえば、現在の茨城県猿島郡五霞町の元栗橋を指す。享徳4年（1455）の享徳の乱後、御座所を古河に移した鎌倉公方足利成氏が古河公方と称して以降、元栗橋にはその支城の栗橋城（3）が置かれた。

鎌倉街道中ツ道（奥州道）の利根川の渡河点があった栗橋城は、水陸の要衝として後北条氏の関宿城（10）攻略の拠点となった。天正2年（1574）に関宿城開城後は北関東攻略の起点と

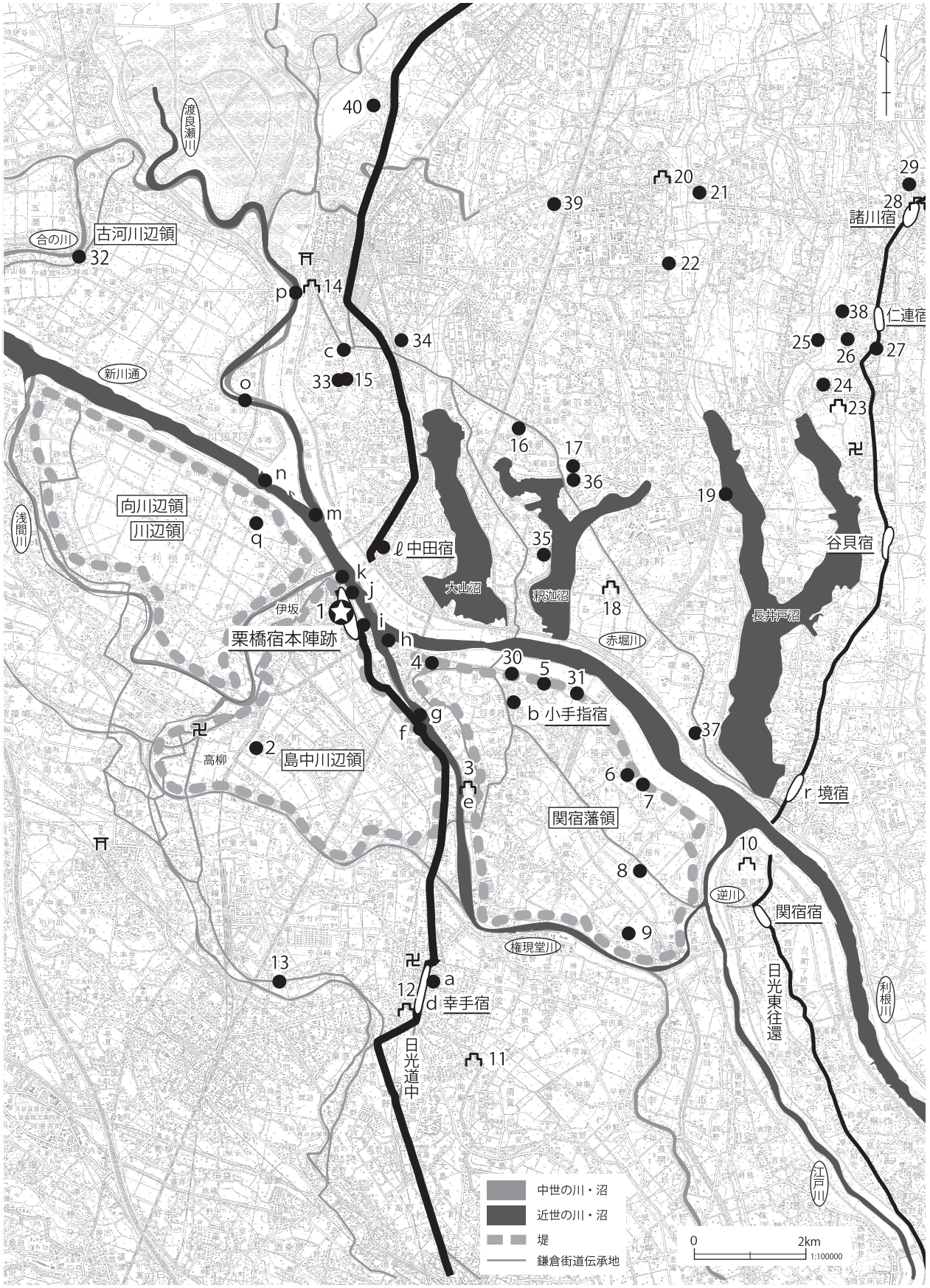
なったが、豊臣秀吉の小田原攻めにより天正18年（1590）に開城する。『鷲宮町史』、『町史五霞の生活誌』によれば、栗橋城の城下町は城の東側に広がり、古河方面への道と関宿方面への道が分岐していたという。また、南側には鎌倉街道中ツ道・奥州街道の渡船場があったとされている。遺跡の分布は、その街道沿い、および東側の福田近辺の関宿・古河を結ぶと考えられる道沿いに分布している。

古河城（14）も栗橋城同様に、後北条支配下の足利氏によって戦国城郭として整えられたが、やはり小田原攻めによって破却された。

その後、徳川家康に従っていた小笠原秀征が古河城を修復し、近世以降も幕閣を含む歴代の城主によって拡張され、古河は城下町として栄えていく（古河市史編さん委員会1985、茨城県古河市教育委員会2004）。

古河城南の御所沼の奥に舌状に突出した台地上には、古河公方の御所として知られる鴻巣館跡（15）がある。初代古河公方足利成氏によって、享徳4年（1455）に築造された連郭式の城郭で、最後の古河公方足利義氏の娘氏姫の居館として知られている。足利氏の後裔、喜連川氏の尊信が寛永7年（1630）に古河を離れた後は、時宗十念寺の寺域となった。

渡良瀬川、利根川の左岸には、現在大小の沼沢地が多く認められる。その多くは利根川改修以後の赤堀川の開削によって形成されたもので、本来は猿島台地を開析した中小河川による支谷であった。その縁辺部に古河公方入府とともに、足利成氏の重臣たちの城や館が造られたと考えられる。小堤城跡（20）、磯部館跡（16）、水海城址（18）等が知られるが、詳細についてはほとんど明らかでない。茨城県側の城館跡や周辺の中世遺跡については、既刊の『栗橋関所番士屋敷跡』や『栗橋宿跡Ⅰ』（ともに埼玉県埋蔵文化財調査事業団2018）に詳しいので参照されたい。



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧（第3図）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	栗橋宿本陣跡・栗橋宿跡	21	本田山遺跡	a	田宮町
2	佐間小草原遺跡	22	蔵王遺跡	b	小手指宿
3	栗橋城址	23	東の門西の門城址	c	徳淑院
4	宿北・宿東遺跡	24	北山田北久保遺跡	d	幸手宿
5	釈迦新田遺跡	25	御領遺跡	e	道標
6	同所新田遺跡	26	大膳屋敷跡	f	一里塚
7	新田遺跡	27	関根豪族屋敷跡	g	勘平の渡し
8	桜井前遺跡	28	諸川西門城址	h	川妻の渡し
9	瀬沼遺跡	29	本田遺跡	i	下河岸跡
10	関宿城址	30	上原遺跡	j	栗橋河岸
11	天神島城址	31	殿山塚	k	房川の渡し
12	幸手城址	32	倚井陣屋遺跡	l	中田宿
13	渡辺氏屋敷跡	33	城地遺跡	m	本郷渡し
14	古河城址	34	石行塚遺跡	n	中渡し
15	鴻巣館跡	35	羽黒遺跡	o	鈴木の渡し
16	磯部館跡	36	釈迦才仏遺跡	p	古河の渡し
17	香取東遺跡	37	清水遺跡	q	旗井小学校
18	水海城址	38	新屋敷遺跡	r	境宿
19	向坪B遺跡	39	大塚遺跡		
20	円満寺城址（小堤城址）	40	野木宿遺跡		

（2）近世の栗橋とその周辺

利根川の改修

中世の古河を中心とした栗橋周辺の様相は、徳川家康の江戸入府によって一変する。

特に大きな影響を与えたのが、利根川改修事業、所謂利根川の東遷である。徳川幕府は、家康の関東入府後早々に利根川の改修に着手した。それまでの本流であった浅間川、会の川、古利根川の川筋から、新川通、赤堀川を開削して常陸川に結び、合わせて権現堂川を介して江戸川とつなぐ大規模な流路変更で、利根川東遷事業として知られている。その目的は、江戸を水害から守るためという治水が第一義とされてきた。また、古河城を合わせた江戸の北の防衛線とする説も知られている。最近では、「内川廻し」と呼ばれる内陸航路の確保、水田開発目的とする説も有力である。

栗橋周辺では、文禄3年（1594）忍城主松平忠吉の命を受けた忍藩家老小笠原三郎左衛門が羽生市上新郷で会の川を締め切ったのに端を発する。元和7年（1621）には、利根川と常陸川を結び

つける意図のもとに旧大利根町佐波から旧栗橋町中渡までの新川通、五霞町川妻から境町長井戸への赤堀川が開削された。しかし、当初の赤堀川の開削は失敗に終わり猿島郡釈迦沼にまでしか至らず、現在の五霞町域に甚大な被害をもたらした。その後、2度の拡幅、増掘（二番堀、三番堀）を経て、漸く承応3年（1654）に通水に成功した。銚子へ至る新たな利根川の主流路が形成されたのである。更に、天保9年（1838）に合の川と浅間川が完全に締め切られ、利根川の流れは新川通の流路へと一本化され、現在に至っている。

利根川本流の開削、整備とは別に、天正4年（1576）の権現堂堤の築堤に始まる五霞町、幸手市域でも大規模な河川改修が行われた。赤堀川通水以前の利根川では、寛永18年（1641）に逆川が開削される。これにより常陸川と寛永12年（1635）から開削が進められていた江戸川が、関宿の北で繋がった。江戸川は、更に拡幅工事が進められ正保元年（1644）に完成し、前述の赤堀川三番堀の完成以前は、利根川、渡良瀬川両大

河の水は、一部逆川を介して常陸川に注ぐものの、ほとんどはこの江戸川を流れていた。

このような利根川を中心とした河川改修の結果、前述の「内川廻し」の航路とともに、利根川上流域の上野、渡良瀬川上流域の下野との航路が確保され、北関東が江戸を中心とする経済圏の一部となった。また、利根川、荒川両大河の河川改修は、埼玉平野に広大な新田開発をもたらし、航路の開発とともに、その経済効果は絶大であった。

更に、栗橋地区を含む島中川辺領は、外縁部に囲堤が造られ河川の流路が固定されるとともに、領域全体が輪中となり、治水環境が整えられた。

日光道中と栗橋宿の成立

日光道中は、元の奥州街道のうち江戸・宇都宮間を含み込み成立したものと捉えられる。寛永13年（1636）に日光東照宮の造替が竣工し、徳川家光・家綱が盛んに社参を行うようになる頃には、日光道中としての整備も進んだと考えられる。一方、元栗橋は、利根川の河川改修による度重なる洪水が発生し、宿と渡しは荒廃した。そのため、栗橋宿の位置を現在地に移したようで、『栗橋町史』では、その時期を元和7年（1621）前後と想定している。なお、『新編武蔵風土記稿』では、慶長年中に池田鴨之介と並木五郎兵衛による開墾と伝え、明治45年の『栗橋町郷土誌』では、その時期を慶長19年としている。

寛永期に入ると「今栗橋」と「元栗橋」を区別した史料がある。また、宿内深廣寺の石造名号塔群の銘文には、承応3年（1654）7月までに立てられた8基が「新栗橋」とみえるが、同年8月以降に立てられた12基は「栗橋」とのみあり、「新栗橋」「今栗橋」が「栗橋」として定着していく過程が窺われる。

寛永元年（1624）には栗橋関所が開設され、明治2年（1869）に関所が廃止されるまで、245年間にわたり日光道中六番目の関所として機能した。

徳川幕府は、河川改修による舟運の整備と合わせて、陸路、五街道の整備を行った。日光道中は、江戸日本橋を起点に下野国坊中までの20宿、36里11町の街道である。県内では、草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、幸手、栗橋宿があった。栗橋の対岸の下総側には中田、古河があり、野木、間々田、小山、新田、小金井、石橋、雀宮、宇都宮、徳次郎、大沢、今市、鉢石を経て日光坊中に至る。

栗橋宿は、江戸から14里15町、幸手から2里3町で、江戸から7番目の宿である。対岸の中田宿と合宿で、栗橋町史に引かれている『日光道中宿村大概帳』には、宿高689石余、宿往還の長さ15町13間余、宿町並10町30間、宿の家数404軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒、人口1741人（男性869人、女性872人）と記されている。日光道中では規模は小さい宿場であるが、渡しを控える立地上、旅籠屋や茶店が多いのが特徴である。

栗橋宿跡は、当事業団が平成24年度から調査を継続している。これまでに、本陣跡、脇本陣を含む西本陣跡に加え、宿跡の9地点を調査し、調査面積は32,000㎡に及ぶ。

合宿としての中田宿は、宿高456石余、宿往還の長さ12町18間余、宿町並4町50間、宿の家数69軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋6軒、人口403人（男性169人、女性234人）である。

栗橋宿と舟運

利根川では舟運による輸送が発達しており、栗橋近辺でも権現堂河岸と関宿河岸が古くから知られている。栗橋河岸は、近世当初の元禄年間には年貢米を江戸へ送る「津出し湊（河岸）」ではなかったが、明和8年（1771）には中里村の、天明期（1781～89）には加須市域の水深村の津出しが行われ、近世中・後期にはその役割があった。栗橋町史に『武蔵国郡村誌』から作成した栗橋町域の明治初期の船の一覧が掲載されているが、その数610艘に上る。いかに栗橋区域が舟運と密接な生活を送っていたかが分かる。

この内、栗橋宿が有していた舟運に関わった所謂川船は、高瀬舟10艘、小高瀬舟2艘、似躰（にたりひらた）船8艘、屋形船17艘である。

江戸へ向かう下り船は大豆に代表される農産物などを積み、空となった帰りの上り船には、塩、砂糖、干鰯、灰などの肥料、木綿、乾物、陶磁器などが積まれた。水揚げされた河岸場は、地域経済の要であった。

栗橋河岸には、房川渡しから堤沿いに続く舟戸町の船着き場と、やや下った利根川と権現堂川の分岐付近の下河岸があった。

栗橋関所では、船改め役を務める船問屋が船荷を改める「船改め」が行われていた。『栗橋関所史料一』によれば、船改めは享保年間（1716～1736）に下河岸で行われていた。しかし浅間山噴火（1783）の泥流の影響で、利根川の川筋が変化して下河岸に接岸できなくなり、舟戸町近辺に場所を移したとされている。従って、津出し湊や、江戸との川船の往来に利用されたのは舟戸町の河岸場と推定される。

近世の栗橋村

近世初頭では栗橋宿を含む井坂、松長、佐間、島川、広島、河原代、狐塚、中里、小右衛門の各村は幕府の蔵入地で、代官伊奈半十郎忠治によって支配されていた。伊奈氏の支配は関東諸国に及び、特に武蔵国東部の低地開発を強力に推し進めたことで知られている。その結果、開発された広大な新田は伊奈氏の支配地として引き継がれていった。利根川東遷事業による新田開発もその一環とも言えるだろう。

元禄10年（1697）の所謂元禄の地方直しでは、高柳村、高柳新田は酒井対馬守、島平村は酒井監物、広島村は久津見斧太郎、河原代村は久津見斧太郎・榊原大膳の旗本知行へ支配替えが行われた。

加えて、松長、間鎌、間鎌新田、佐間、佐間新田、井坂の各村は、18世紀中葉の延享年間（1744～1748）、19世紀前半から中葉の文政年

間から安政年間に徳川御三卿領への支配替えとなった。

周辺の近世遺跡

栗橋周辺の近世遺跡は、日光道中と将軍の宿城である古河城を中心に展開する。

古河城（14）は、近世以降小笠原、松平、奥平、永井、土井、堀田、松平の多くの幕閣を含む歴代の城主によって、拡張、城下町の整備が行われた。特に、度々将軍の日光参詣の宿城となったため、その都度、特別な手当金が支給され整備が進んだ。

利根川の東側は、利根川の河川改修以降も、この古河城を中心として遺跡が展開している。

旧総和町香取東遺跡（17）では18～19世紀の土壇（墓壇）、井戸跡、溝跡が検出された。南側に隣接する釈迦才仏遺跡（36）（茨城県教育財団1998）には、南北11.4m、東西8.4m、高さ1.0mの不整隅丸方形を呈する近世後半の塚が造られた。

長井沼の奥になる本田山遺跡（21）は、中世に引き続き近世でも墓地として継続している。柳橋城の南側となる旧総和町向坪B遺跡（19）

（茨城県教育財団1986）からは近世の土壇、溝跡が検出され、土壇墓が含まれていると考えられる。長井沼東側の旧鎌倉街道は栃木県多功に通ずる日光東街道として、元和年間には整備されていたとされている。街道には仁連宿、谷貝宿が設けられた。仁連宿の北、諸川には中世から続く本田遺跡（29）（技研測量設計株式会社2010）があり、17世紀後半を中心とする掘立柱建物跡、竪穴状遺構、地下式坑、土壇、墓壇、井戸跡、溝跡が検出された。

（3）近世から近代への栗橋

幕末の栗橋宿

幕末の19世紀中葉には、天保の飢饉に端を発する打ちこわし、元治元年（1864）の水戸浪士

による天狗党の乱、慶應2年（1866）から始まる武州世直し一揆など、社会情勢が不安定になった。栗橋でも、慶應4年（1868）羽生陣屋焼き払いに始まる打ちこわしが波及した。『足立家文書御関所日誌』には、9000人余りが宿内へ侵入し、名主良右衛門宅に放火し、仲町百姓弥平次宅、本陣池田由右衛門宅を打ちこわし、また関所へも押し入り、番士が関所から退去したとある。

明治2年（1896）2月には、葛飾県役所から関所廃止の通知が出された。番士四家は関所道具を栗橋宿へ預け、関所改めの廃止を各所に通知し、関所を引き払った。一方栗橋宿は、明治22年（1889）に町村制が施行され、北葛飾郡栗橋町となった。交通の要衝としての役割は引き継がれていった。

近代の栗橋地区

本陣池田家の池田鴨平は、明治新体制下において、葛飾県の組合取締役・勸農取締役方を務め、行政区画が埼玉県に移行すると、第八区区長となった。明治9年（1876）の明治天皇行幸に際しては、案内人を務めている。

交通網における大きな変化は、大宮～宇都宮間の鉄道敷設で、明治18年（1885）7月に栗橋駅までが開通する。当所、渡船連絡であった利根川の渡河も、翌年7月には鉄橋が架設された。一方、明治10年（1877）内国通運会社が東京深川から栗橋を経て、生井（栃木県小山市）まで蒸気船通運丸を就航させた。同13年（1880）には長島良幸が長島丸を、同35年（1902）には栗橋の廻船問屋古川平兵衛が古川丸を就航させるが、内国通運会社との競争に敗れ撤退している。その後、鉄道の発達により、舟運は衰退し、大正8年

（1919）、内国通運も撤退している。

このころの栗橋町の様子は、明治35年（1902）の『埼玉県営業便覧』にみることができる。旧日光道中の表通りには商家が連なり、回漕、運送業に関わる店が多いのも特徴である。明治31年（1898）に町の地主や商人による出資で開業した栗橋銀行や、明治33年開業の栗橋商業銀行、いずれも池田鴨平が設立に関わった栗橋学校（明治5年（1872）に私塾として開校）・淑徳女学館（明治22年（1889））等、主要な施設が旧宿場内に設置されていたことが分かる。利根川沿いの船戸町には回漕業や料理店等が立ち並び、文豪田山花袋が度々訪れたという鯉料理店の稲荷楼（稲荷屋）も船戸町にあった。

近世の宿場町を骨子としつつ、近代化を遂げた栗橋町であったが、前代に引き続き水害・災害と直面することも多かった。明治43年（1910）の水害では冠水を逃れたが、それ以前の明治23年の水害では栗橋町の戸数の25%強が冠水したとされる。

明治33年（1900）からは、利根川の抜本的な改修計画（利根川改修計画）が始まり船戸・鍛冶町は河川敷となる。利根川における近代治水事業は以後、継続的に実施されている。

栗橋宿跡の利根川渡河地点という立地は、交通の要衝としての発展と、水害によるリスクが表裏一体の関係にあったと言えよう。

引用・参考文献については、紙数の都合上全てを挙げるができない。埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第448集『栗橋宿跡 I』の引用・参考文献一覧を参照されたい。

Ⅲ 遺跡の概要

栗橋宿本陣跡の調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施したものである。所在地は久喜市栗橋北二丁目である。

栗橋宿は、慶長年間に池田鴨之助、並木五郎平らが元栗橋から移住して開宿した宿場と伝わる。南北に走る日光道中を挟んで町屋が並んでいた。『日光道中宿村大概帳』には、宿高689石余、宿往還の長さ15町13間余、宿町並10町30間、宿の家数404軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒、人口1741人（男性869人、女性872人）と記されている。

栗橋宿関連の発掘調査は、既に報告された平成24年の栗橋関所番士屋敷跡・栗橋宿跡第1地点に始まり、継続的に続けられ、範囲も広範囲に及ぶ。このため、調査区全体を網羅するように、大グリッドと小グリッドを組み合わせて方眼を組んでいる。詳細は凡例と第4図に示した。今回報告する栗橋宿本陣跡は、大グリッドのB5・6～D6グリッドにまたがるエリアであり、栗橋宿の北部に位置している。

「栗橋宿本陣跡」は、池田家が代々勤めた本陣の敷地を含む遺跡である。日光道中は、宿の北端で鉤の手状にクランクして、利根川縁にあった関所へと向かうが、このクランクより南側の一帯が栗橋宿本陣跡である（第4図）。なお、包蔵地としての「栗橋宿本陣跡」は、本陣敷地とその南側に隣接する町屋の敷地を含んだ範囲であり、発掘調査区も双方の敷地にまたがっていると想定される。発掘調査では、移転前の池田家敷地境とほぼ一致するC6-F5・E5グリッド境からE6グリッド南部にかけて、東西方向の溝跡や杭列が重複して検出された。これらの遺構を本陣敷地と町屋部分の敷地境と認識した。南側の町屋想定部分については既刊『栗橋宿本陣跡Ⅰ』（以下『本陣跡Ⅰ』と略）で報告した。本書では、本陣敷地

想定部分を含む調査区北側を扱う。

栗橋宿本陣跡では、調査を二班体制で行った都合上、北部の本陣敷地部分を①地区とし、遺構番号1～300番及び1001番以降を用いた（本書報告範囲）。一方、南部の町屋部分は調査可能区域から順次調査を開始した都合上、北から②・④・③地区が設定され、遺構番号は301～1000番を充てた（『本陣跡Ⅰ』報告範囲）。報告にあたっては、原則遺構番号の変更は行わないものとした。従って今回の報告では、遺構番号1～300番及び1001番以降が対象となる。遺構番号の詳細については、第18図に整理して示した。なお、調査時に設定した①～④地区の区分けは、報告書本文・表・図では基本的に使用していない。

発掘調査は、上下二面の遺構確認面を設定して実施した。標高は、上面の第一面で10.00～10.20m程、下面の第二面で9.50m前後である。調査で検出された遺構は、近世の建物跡9棟とその関連遺構（基礎状遺構3基）を始め、胞衣埋納遺構1基・埋設桶92基・井戸跡17基・杭列9条・柵列2条・木樋4条・竹樋3条・瓦樋1条・池状遺構と関連遺構1基・溝跡15条・焼土遺構1基・土壇387基・ピット47基である。

第一面は19世紀初頭頃の面と考えられる。本陣敷地は第8・9号溝跡、第9・306号杭列が南限、第3号溝跡、第5号杭列が西限、第3・4号杭列付近が北限の境と考えられる。日光道中より少し奥まった部分に敷地が展開していたことが窺われる。溝跡や杭列によって区画された本陣敷地からは、建物跡・池状遺構等が検出された。

一方、日光道中に面する部分には、建物跡が日光道中に直交して並び、奥側には土壇が集中していた。町屋として機能していた部分と考えられる。この部分は、久喜市所蔵『栗橋宿往還絵図』に「由右衛門店」として「塩物屋・煙草屋・足袋



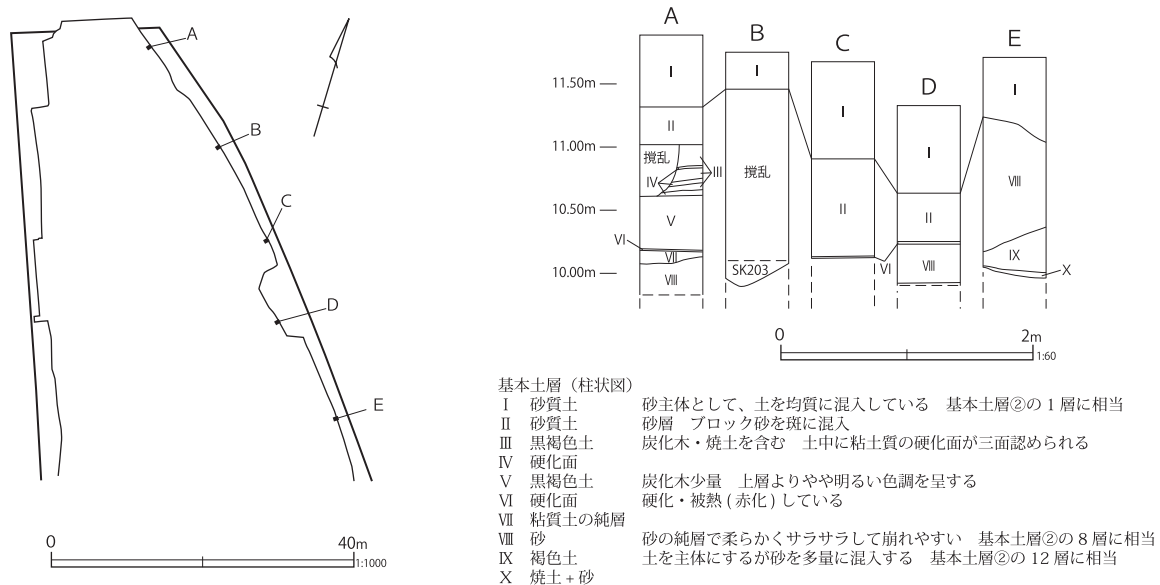
第4図 遺跡位置図

や・煮壳・髪結・芋屋」が記載されている部分にあたる。「由右衛門」は諸文書に「本陣由右衛門」とみえ、この部分は本陣の店子が使用していた範囲と推定される。本書では便宜上、この部分を「店子町屋」と呼称する。C6-D2・3グリッド付近は遺構が希薄であり、日光道中と本陣敷地をつなぐ出入口が想定される。

第二面は18世紀以前を中心として使用されたと考えられる面である。本陣敷地南限は、第11・12号溝跡によって区画されるが、日光道中側（西限）の境は明確では無い。しかし、土壌分布の状況や、日光道中に直交する建物跡が街道に沿って検出されている点から、第二面でも街道に面した部分は店子町屋として機能していたと推定される。本陣敷地と考えられる部分で土壌の分布が希薄になることも第一・二面で変化が無く、18世紀から19世紀に至るまで、本陣の敷地範囲は大きく変化していなかったと推測される。なお、本陣敷地はより東へ広がっており、調査区外（利根川堤防側）に主要な建物が存在した可能性が高い。従って、調査で明らかになった様相は、本陣敷地の西側部分に限られる。

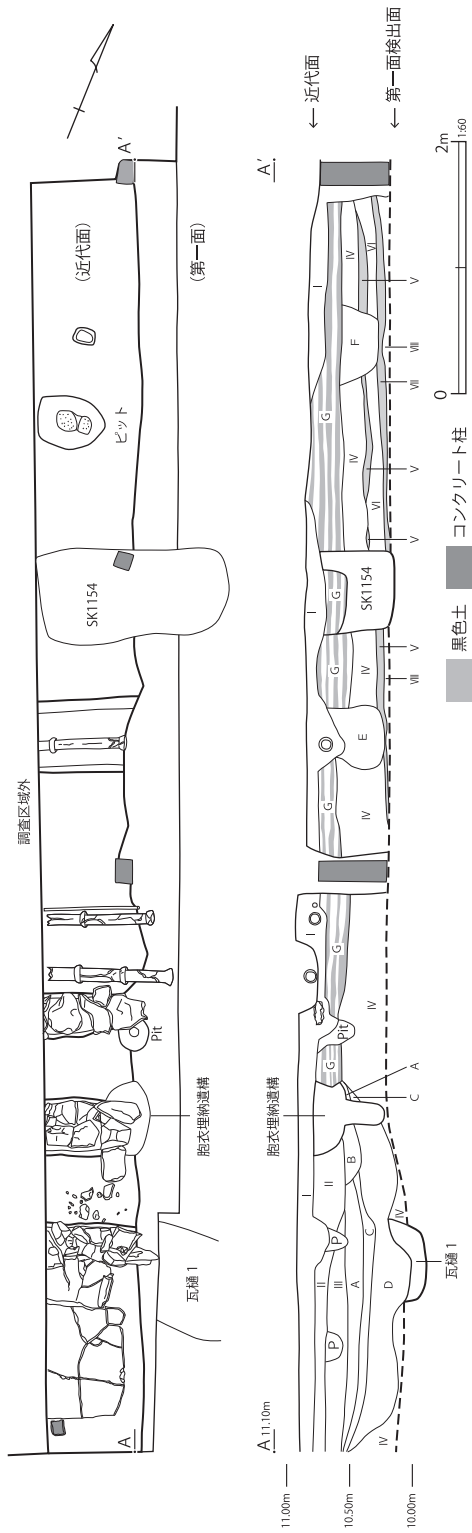
第5～7図に基本土層を示す。第6図の調査区東壁土層（基本土層②）は、大部分が本陣敷地内に該当する。トーン掛けした13層は焼土層であり、第一面の確認面はこの直下に設定した。焼土層は本陣敷地ではほぼ全体に堆積するが、第8・11・12号溝跡を境とする南側（図の右端）には堆積が認められない。面的な遺構確認時にも同様の所見が得られている。つまり北側の本陣敷地内のみ焼土層があり、南側の町屋想定範囲では、これが確認されなかった。東壁では、焼土層直上には、近代の盛土とみられる砂層（8・10層）の厚い堆積が確認される。焼土層形成後の一定期間、土層が形成されない環境下にあったことが窺われる。この範囲から検出された本陣主要建物の一部とみられる遺構（第16号建物跡）の存在から、広範に及ぶ建造物が存在した可能性も考えられる。一方で、第5図Aの東壁柱状図は、本陣敷地から外れた北側の街道に面した町屋部分の土層で、焼土層（VI層）上に黒褐色土、さらに上層に硬化面・砂層の互層が確認される。

より下層である、焼土層下から第二面までの土層はシルトの薄層が複雑に堆積している。



第5図 栗橋宿本陣跡の基本土層（1）

基本土層①(調査区西壁)



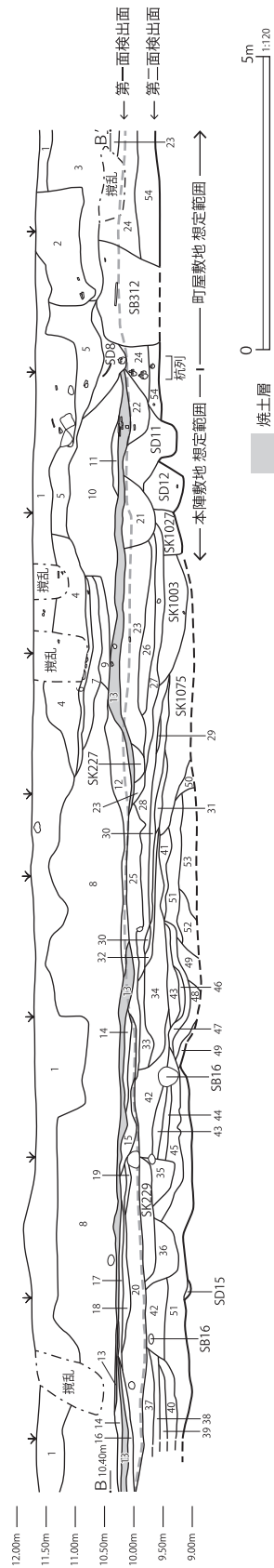
基本土層①(調査区西壁)

- 基本土層①(調査区西壁)
- I 褐色土 褐色土・炭化木・砂を混入 しまり強い
- II 黒褐色土 比較的均質な層 赤土や炭の大形ブロックを少量混入
- III 黄褐色土 砂粒多量
- IV 黄褐色土 比較的均質な層 赤土や炭の大形ブロックを少量混入
- V 暗赤褐色土 炭多量 黒色土中に焼土ブロック多量
- VI 黄褐色土 Ⅲ層に類似するが、砂の混入量がより少ない
- VII 暗赤褐色土 Ⅲ層に準ずるが、焼土・焼土粒子の量がより多く、さらに赤味強い
- VIII 黄褐色土 Ⅵ層に準ずる
- A 褐色土 均質な層であるが砂粒を多量に混入する bはより明るい色調を呈する

- 褐色土 A層より明るい色調を呈する
- 黒褐色土 砂多量 焼土少量
- 灰色砂 砂の純層
- 黒色土 黒色土中に暗黄褐色土ブロックを混入 しまり強い
- 黒褐色土 黒褐色土中に炭・焼土ブロック・礫などを含む しまり強い
- 互層 厚さ1~3cm程の黒色土と黒褐色土を交互に数枚板装している 極めて整頓である

第6図 栗橋街本陣跡の基本土層(2)

基本土層②(調査区東壁)



基本土層②(調査区東壁)

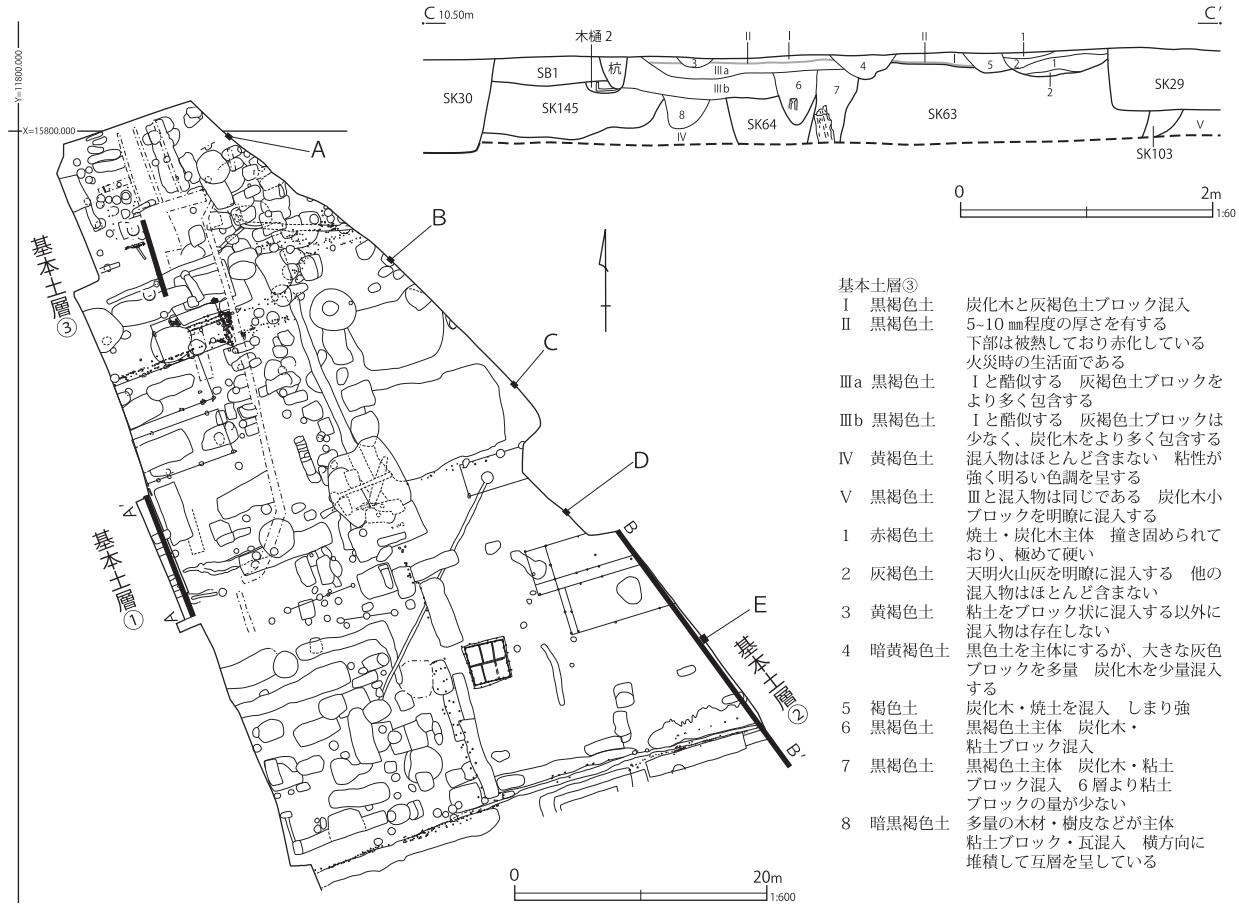
- 基本土層②(調査区東壁)
- I 褐色土 褐色土・炭化木・砂を混入 しまり強い
- II 黒褐色土 比較的均質な層 赤土や炭の大形ブロックを少量混入
- III 黄褐色土 砂粒多量
- IV 黄褐色土 比較的均質な層 赤土や炭の大形ブロックを少量混入
- V 暗赤褐色土 炭多量 黒色土中に焼土ブロック多量
- VI 黄褐色土 Ⅲ層に類似するが、砂の混入量がより少ない
- VII 暗赤褐色土 Ⅲ層に準ずるが、焼土・焼土粒子の量がより多く、さらに赤味強い
- VIII 黄褐色土 Ⅵ層に準ずる
- A 褐色土 均質な層であるが砂粒を多量に混入する bはより明るい色調を呈する

基本土層②(調査区東壁)

- 1 暗褐色土 表土 瓦礫等混入 炭化物・砂利等含む
- 2 シルト+砂利 しまりあり
- 3 砂+砂利 脆い
- 4 褐色シルト 灰白色シルトがブロック状に含まれる 粘性・しまりなし
- 5 褐色シルト 灰褐色土混じる 炭(φ2~5mm)・瓦含む 粘性・しまりなし
- 6 灰褐色シルト 炭化物(φ2~10mm)・瓦含む 粘性・しまりなし
- 7 褐色砂質土 炭化物(φ2mm)少量 瓦含む 粘性・しまりなし
- 8 砂(細粒)+シルトブロック 炭化物(φ2~5mm)
- 9 砂+シルト 炭含む
- 10 砂(細粒)+シルトブロック 炭含む
- 11 砂(酸化により赤色化)
- 12 砂(細粒)
- 13 焼土
- 14 灰褐色シルト 酸化鉄が顕著 粘性なし しまりあり
- 15 砂(細粒)
- 16 川砂
- 17 褐色土シルト 炭(φ2~5mm)含む 焼土ブロック(φ4mm)混入 粘性弱 しまりあり
- 18 暗灰褐色シルト 炭(φ3~5mm)・黒褐色粘土ブロック(φ3~10mm)含む 粘性あり しまりあり
- 19 砂+褐色シルト
- 20 褐色シルト 灰白色土が混じる 炭(φ2~5mm)含む 焼土(φ5mm)混入 粘性なし しまり弱
- 21 灰褐色土 炭・木片少量
- 22 黒灰色土 炭・木片少量
- 23 灰褐色シルト 炭(φ3~4mm)含む 粘性あり しまりなし
- 24 灰褐色シルト 炭(φ3~4mm)含む 23層より酸化による赤色化が著しく炭の含有も多い 粘性あり しまりなし
- 25 暗褐色シルト 炭(φ3~5mm)含む 炭粒子多量 砂少量 粘性・しまりなし
- 26 暗褐色土シルト 灰白色シルトがブロック状に混入 砂少量 粘性弱 しまりなし
- 27 灰褐色シルト 酸化鉄が顕著 脆い 粘性・しまりなし
- 28 暗褐色シルト 炭(φ2~20mm)・焼土ブロック(φ3~20mm)・炭粒子多量 一部水の影響で粘質化 粘性弱 しまりあり
- 29 暗褐色シルト 炭(φ2~20mm)・焼土ブロック(φ3~20mm)・炭粒子多量 一部水の影響で粘質化 28層より焼土・炭が少ない 粘性弱 しまりあり

- 30 褐色シルト 炭(φ2~10mm)・焼土ブロック(φ2~10mm)含む 炭粒子により一部黒色化 水の影響による粘質化 粘性弱 しまりあり
- 31 暗灰褐色シルト 炭(φ1~10mm)多量 焼土ブロック(φ2~5mm)少量 粘性弱 しまりあり
- 32 暗灰褐色シルト 炭(φ1~10mm)多量 焼土ブロック(φ2~5mm)少量 31層より炭の量が少なく、焼土がみられない 粘性弱 しまりあり
- 33 灰褐色シルト 砂多量 炭・焼土微量 粘性・しまりなし
- 34 褐色シルト 褐色土ブロックが混入 炭(φ1~5mm)多量 黒褐色粘土ブロック(φ5~30mm)混入 粘性なし しまりあり
- 35 褐色土 炭(φ1~4mm)少量 粘性・しまりあり
- 36 灰褐色土 炭(φ1~3mm)少量 酸化鉄顕著 粘性・しまりあり
- 37 暗褐色シルト 炭(φ1~5mm)多量 粘性なし しまりあり
- 38 暗褐色シルト 灰白色シルト多量 炭(φ1~2mm)少量 酸化鉄顕著 粘性・しまり弱
- 39 赤褐色シルト 炭微量 灰白色シルト混じる 粘性・しまり弱
- 40 褐色シルト 白灰色シルト多量 炭(φ1~2mm)少量 粘性あり しまり弱
- 41 褐色シルト 炭(φ1~5mm)少量 酸化鉄みられる 粘性弱 しまりあり
- 42 暗褐色シルト 炭(φ1~10mm)多量 焼土ブロック(φ5mm)微量 黒褐色粘土ブロック多量 粘性なし しまりあり
- 43 暗褐色シルト 炭(φ1~5mm)多量 黒褐色粘土ブロックで満たされている 粘性なし しまりあり
- 44 暗褐色シルト 炭(φ1~4mm)少量 粘性弱 しまりあり
- 45 褐色シルト 灰白色土多量 炭(φ1~3mm)少量 粘性弱 しまり弱
- 46 灰褐色シルト 軽石(φ1~2mm)含む 粘性・しまりなし
- 47 赤褐色シルト やや砂質 炭少量 粘性・しまりなし
- 48 褐色シルト 炭微量 粘性あり しまりなし
- 49 暗褐色シルト やや砂質 粘性・しまりなし
- 50 灰色シルト 炭化物含む
- 51 暗赤褐色シルト やや砂質の土が混じる 灰白色土シルト多量 炭(φ2~3mm)少量 粘性・しまりなし
- 52 褐色シルト 炭(φ1~3mm)少量 粘性弱 しまりなし
- 53 赤褐色シルト 酸化鉄が顕著 炭微量 粘性あり しまりなし
- 54 砂(細粒)

基本土層③

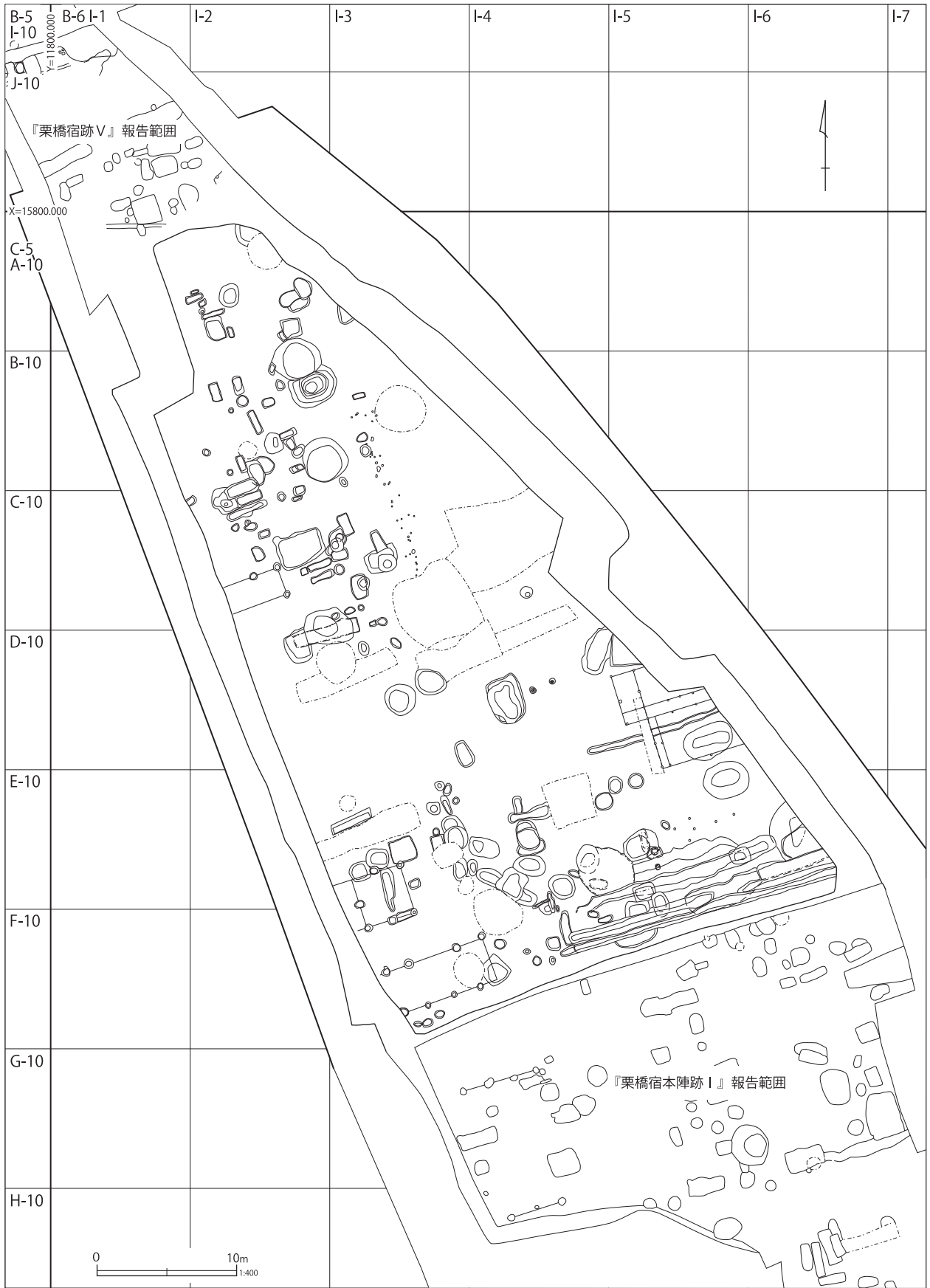


- 基本土層③
- I 黒褐色土 炭化木と灰褐色土ブロック混入 5~10mm程度の厚さを有する
 - II 黒褐色土 下部は被熱しており赤化している 火災時の生活面である
 - IIIa 黒褐色土 Iと酷似する 灰褐色土ブロックをより多く包含する
 - IIIb 黒褐色土 Iと酷似する 灰褐色土ブロックは少なく、炭化木をより多く包含する
 - IV 黄褐色土 混入物はほとんど含まない 粘性が強く明るい色調を呈する
 - V 黒褐色土 IIIと混入物は同じである 炭化木小ブロックを明瞭に混入する
 - 1 赤褐色土 焼土・炭化木主体 撞き固められており、極めて硬い
 - 2 灰褐色土 天明火山灰を明瞭に混入する 他の混入物はほとんど含まない
 - 3 黄褐色土 粘土をブロック状に混入する以外に混入物は存在しない
 - 4 暗黄褐色土 黒色土を主体にするが、大きな灰色ブロックを多量 炭化木を少量混入する
 - 5 褐色土 炭化木・焼土を混入 しまり強
 - 6 黒褐色土 黒褐色土主体 炭化木・粘土ブロック混入
 - 7 黒褐色土 黒褐色土主体 炭化木・粘土ブロック混入 6層より粘土ブロックの量が少ない
 - 8 暗黒褐色土 多量の木材・樹皮などが主体 粘土ブロック・瓦混入 横方向に堆積して互層を呈している

第7図 栗橋宿本陣跡の基本土層(3)



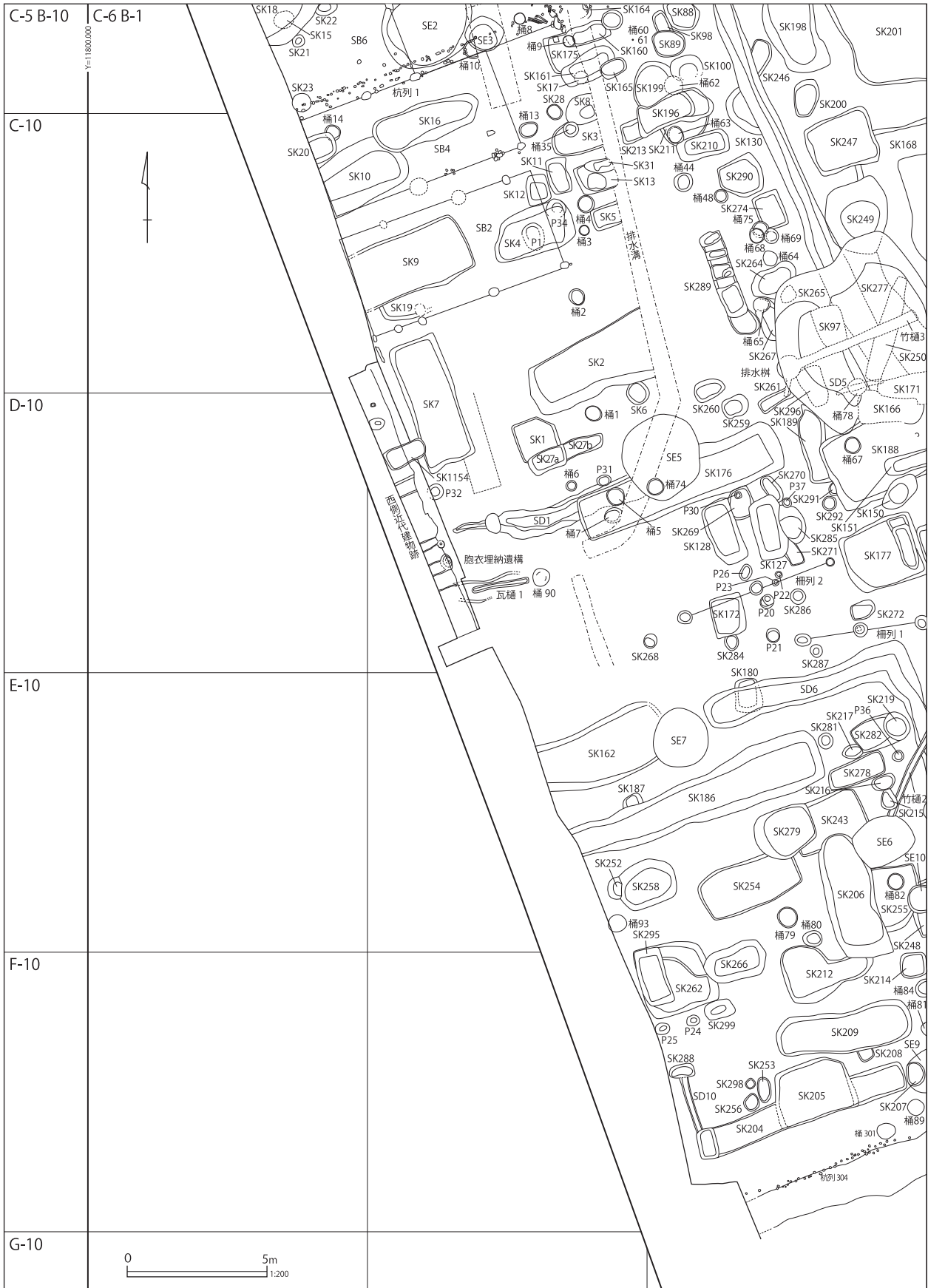
第8図 栗橋宿本陣跡第一面全体図



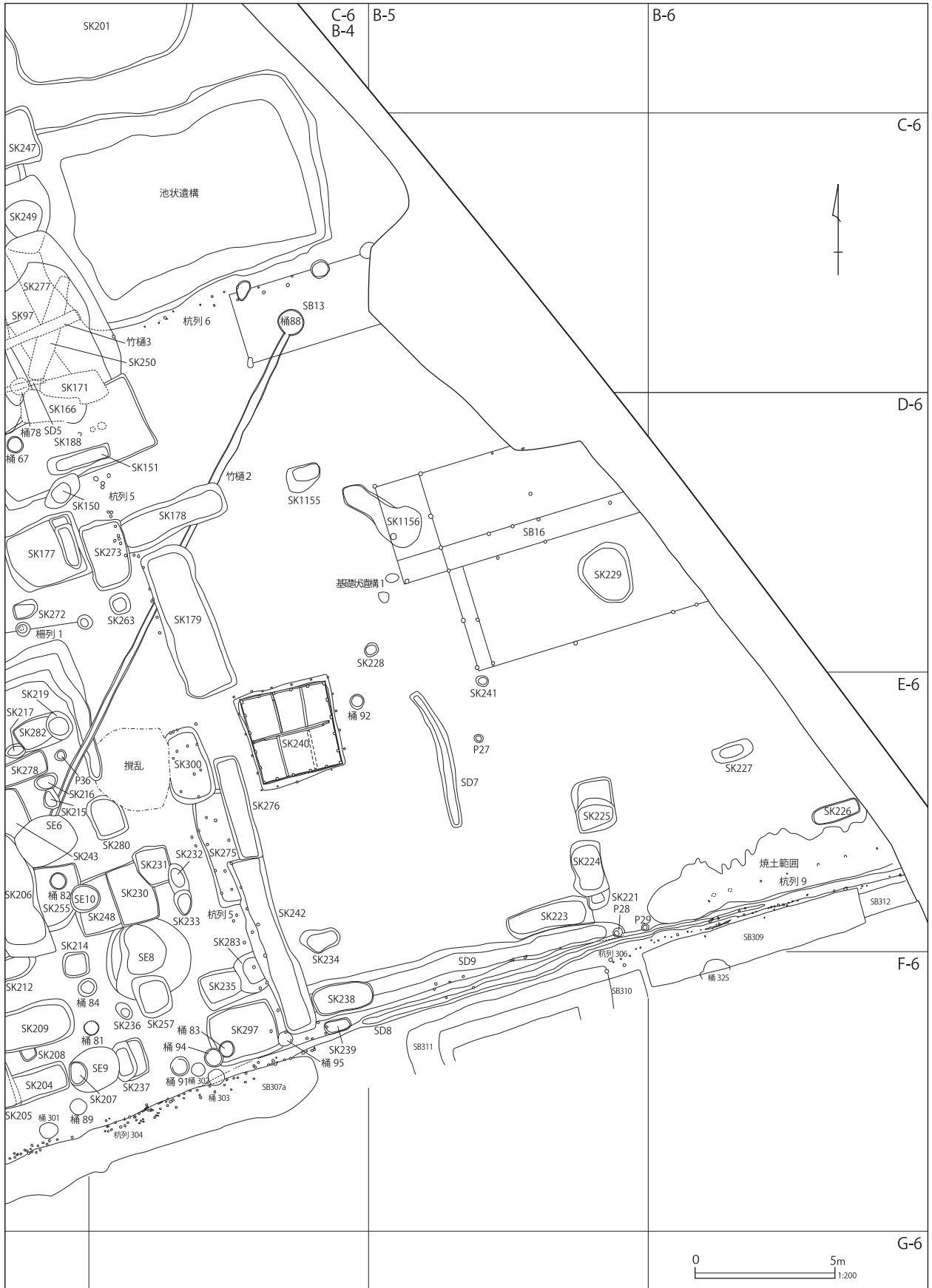
第9図 栗橋宿本陣跡第二面全体図



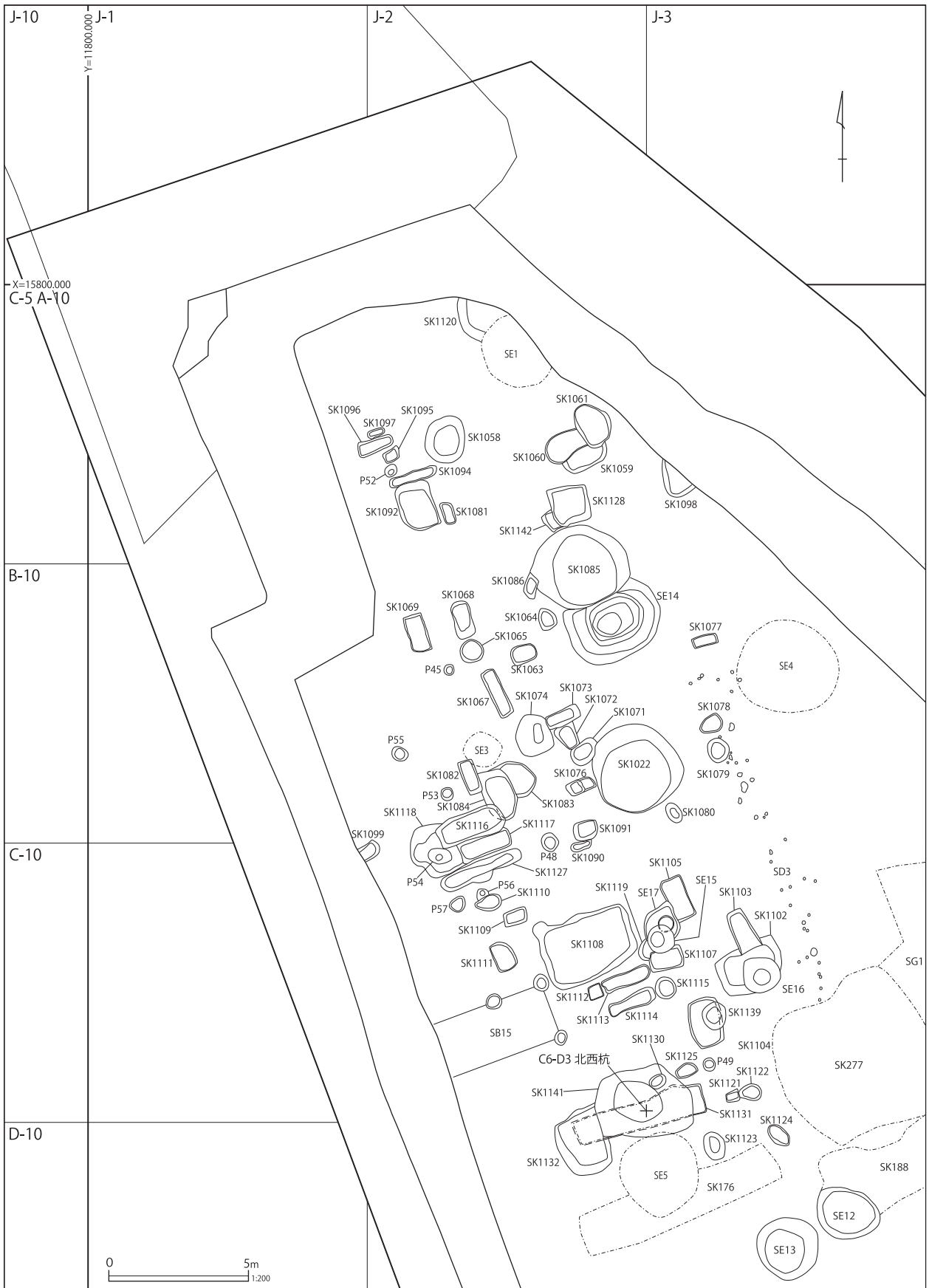
第 11 図 第一面区割図 (2)



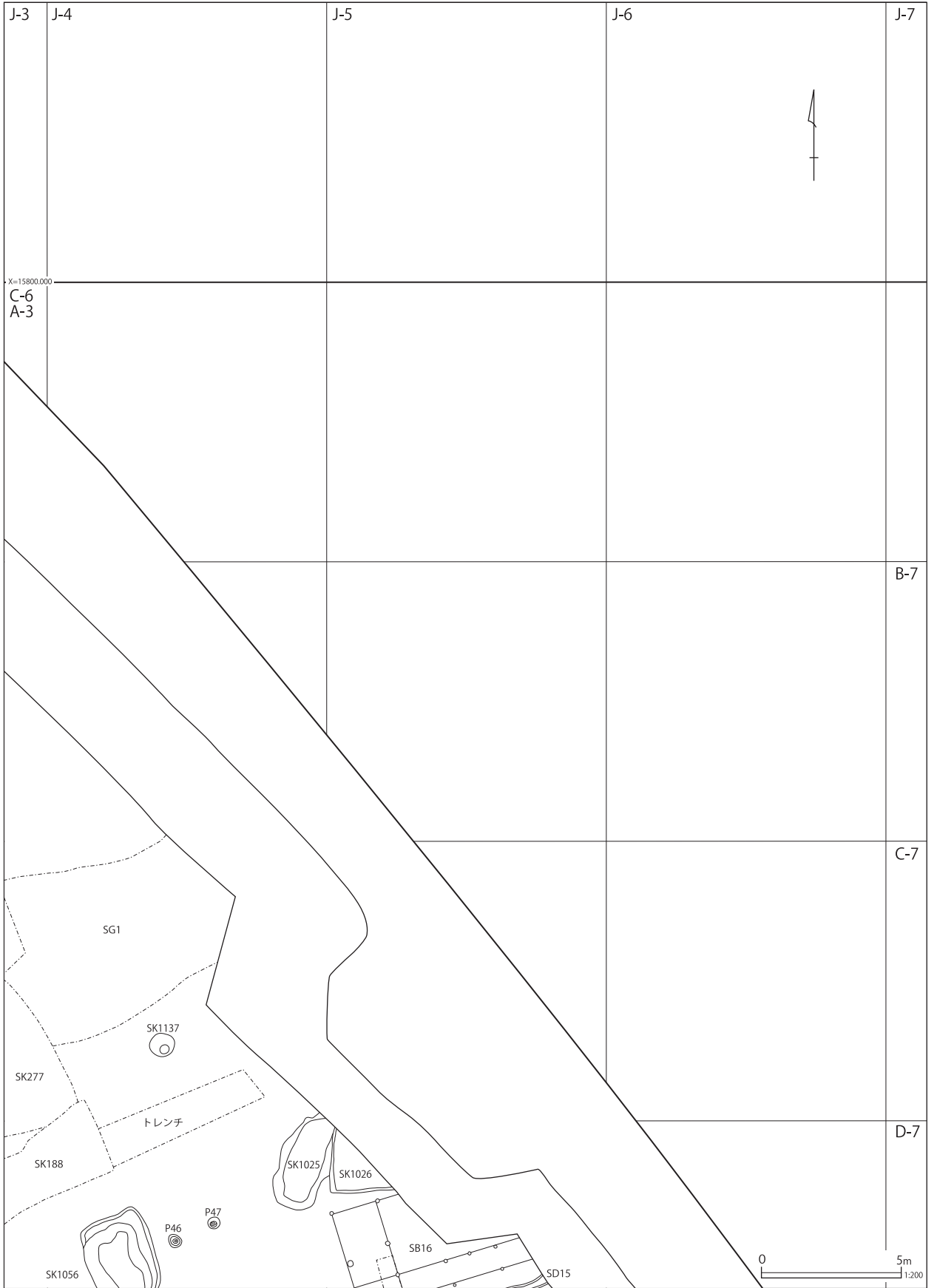
第 12 图 第一面区割图 (3)



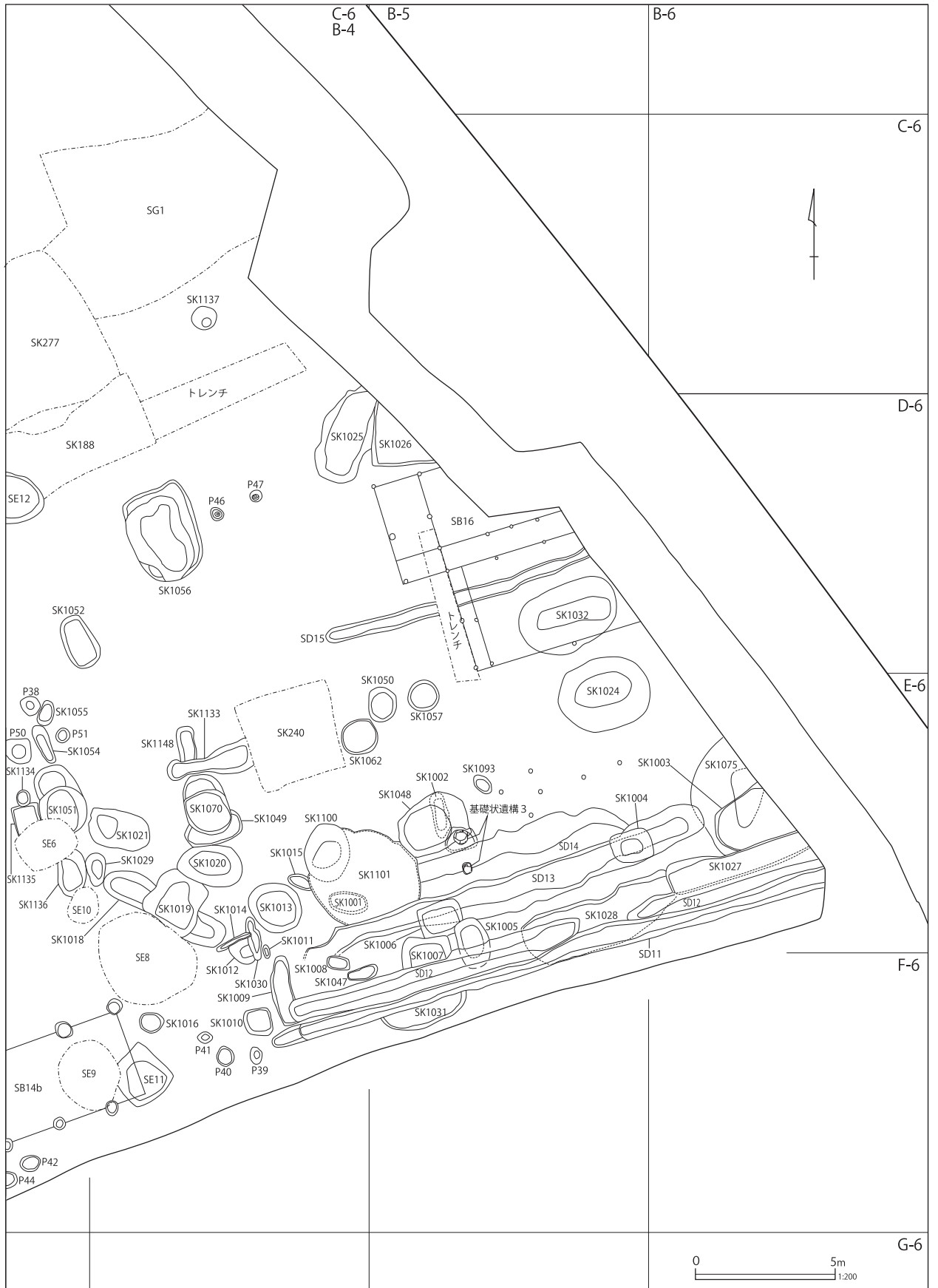
第13図 第一面区割図(4)



第 14 图 第二面区割图 (1)



第15図 第二面区割図(2)



第 17 図 第二面区割図 (4)

本書報告範囲

①地区 第一面

S B	1・2・4・6・13・16
基礎状遺構	1・2
胞衣埋納遺構	1
埋設桶	1~18・20~56・58~84・86~95
S E	1~10
杭列	1~9
木樋	1・2・4・7
竹樋	1・2・(3)
瓦樋	1
S G	1
排水枡	1
S D	1・3~10・16
S A	1・2
焼土遺構	1
S K	1~13・15~34・36~43・45~48・50・52~56・58・60~68・71・74~109・111・113・114・117~120・122~128・130~133・135・136・138・140・142・144~147・150・151・153・156・157・159~162・164~166・171~182・185~191・193~217・219・221・223~292・295・1154~1156
ビット	1・2・4・5・8~14・20~27・30~37

①地区 第二面

S B	14a・14b・15
基礎状遺構	3
S E	11~17
S D	11~15
S K	1001~1016・1018~1022・1024~1032・1042~1065・1067~1086・1090~1105・1107~1125・1127~1139・1141~1144・1148
ビット	38~57

『栗橋宿本陣跡Ⅰ』報告範囲
(②~④地区)

②地区

S B	301~313
基礎状遺構	303~316
瓦敷遺構	301
埋設桶	301~334
S E	301~305
杭列	301~306・310
木樋	301~303
S D	301・302
焼土遺構	301~303
S K	301~512
S A	301・302
ビット	301~315

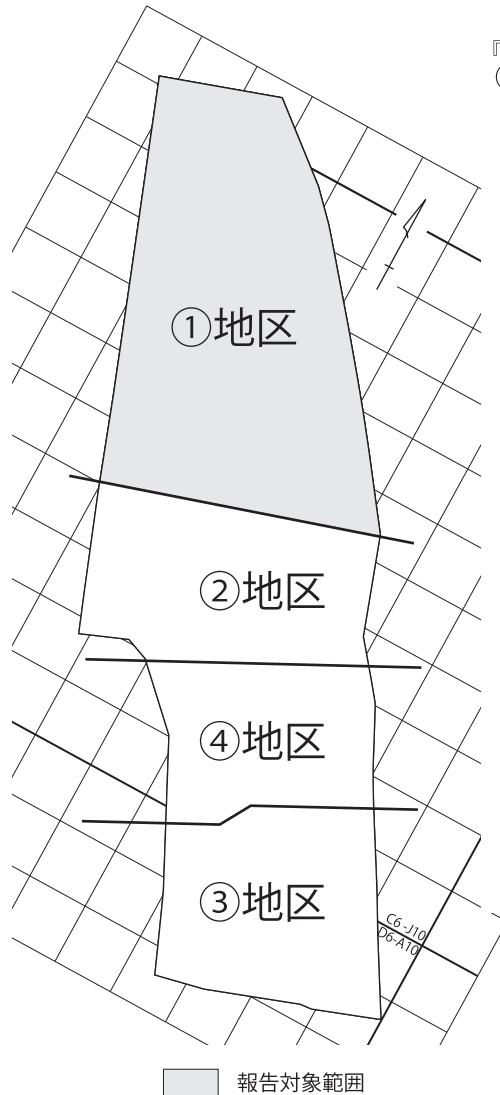
④地区

基礎状遺構	317
S B	314
埋設桶	333
S E	306・307
杭列	308・309
S K	437~509

③地区

S B	601~605
基礎状遺構	604
埋設桶	601~635
埋設甕	601
S E	308~313
杭列	601・603
木樋	601~603
竹樋	601
S D	601~604
焼土遺構	601~604
S K	601~758
S X	601
ビット	611~613

(※欠番遺構も含まれる)



第 18 図 栗橋宿本陣跡の遺構番号

第 6 図西壁土層は、街道に沿った町屋側の土層で、近代面直下に版築状の造成土 (G層) が堆積し、以下に均質な黄褐色土 (IV層)、直下に焼土層 (V・VII層) が堆積する点は、第 5 図の柱状図 A と同様であり、店子町屋範囲の基本層序と認識される。二枚の焼土層が確認されるが、下層の焼土層がより厚く堆積する。

出土遺物は土壌を中心に陶磁器類や瓦が多量に出土した。陶磁器類は、各遺構の最新期の陶磁器や特徴的な陶磁器を中心に挿図・観察表で示した。瓦類については、全てを収蔵することが難し

いため、現地で水洗い、乾燥を行い、種別毎に分類、記録した。数量は第 77・78 表の出土瓦一覧表にまとめた。挿図では軒瓦・鬼瓦を中心に示した。木製品については、遺存状態が悪く回収できないものが多く存在した。大形の建築材も全て収蔵することが難しいため、可能な限り遺構内の出土状況図を作成した。陶磁器・石製品・金属製品・土製品等については原則全て回収し、抽出・図化を行った。これらの遺物については、第 79 表の出土遺物一覧表に数量を示し、各遺構の出土遺物について触れる中で、その傾向について記述する。

IV 栗橋宿本陣跡の遺構と遺物

1 第一面の遺構と遺物

第一面で検出された遺構は建物跡6棟・基礎状遺構2基・胞衣埋納遺構1基・埋設桶92基・井戸跡10基・杭列9条・木樋4条・竹樋3条・瓦樋1条・池状遺構1基・溝跡10条・柵列2条・焼土遺構1基・土壇263基・ピット27基である。

(1) 建物跡

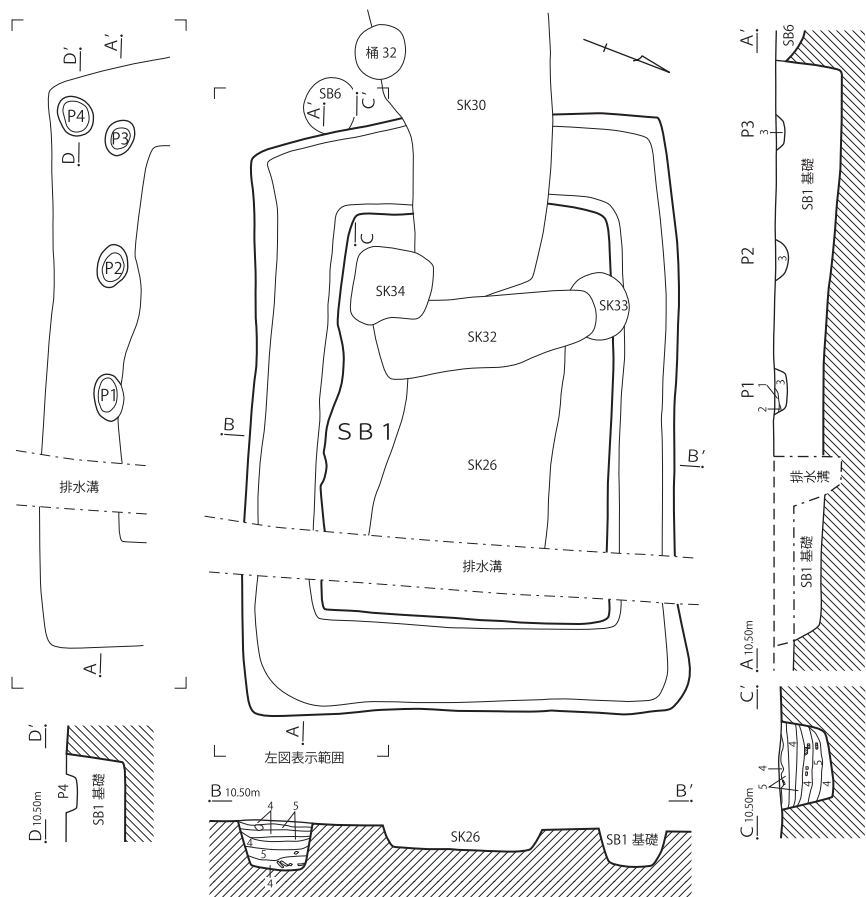
建物跡は6棟が検出された。位置、規模等の基本的な情報は第2表に、遺構図は第19～24図に示した。遺構平面図は、原則、日光道中を上にして構成した。なお、第8・9号建物跡は、隣接調査区にまたがって検出されたため、本書では欠番とし、『栗橋宿跡V』で報告を行う。

第1・2・4・6号建物跡は、調査区西側の日光道中沿いで検出された建物で、街道と直交して配置される。店子町屋の建物と考えられる。第13・16号建物跡は本陣敷地内の建物と考えられる。『本陣跡I』報告の町屋範囲と異なり、布掘り基礎の建物は少なく、礎石状の基礎を有す建物跡が多い。

第1号建物跡 (第19図)

C6-A2、B2グリッドに位置する。重複する第6号建物跡・第39号埋設桶・第2号杭列より新しく、第30号土壇より古い。基礎の規模は長軸6.50m、短軸

4.83m、深さ0.56mである。長軸方位はN-72°-Eである。平面形「ロ」字状の布掘り基礎であり、土層は焼土と黒色土の互層である。桁行5.25m(約17尺)、梁行3.63m(約12尺)の建物が想定される。南側布掘りの埋土上に浅いピットが4基検出された。礎石の据付け穴とみられるが、本跡に伴うものか、後世の建物に伴うものかは判断し難い。各々の規模はピット1が40×31cm、深さ14cm、ピット2が46×32cm、深さ14cm、

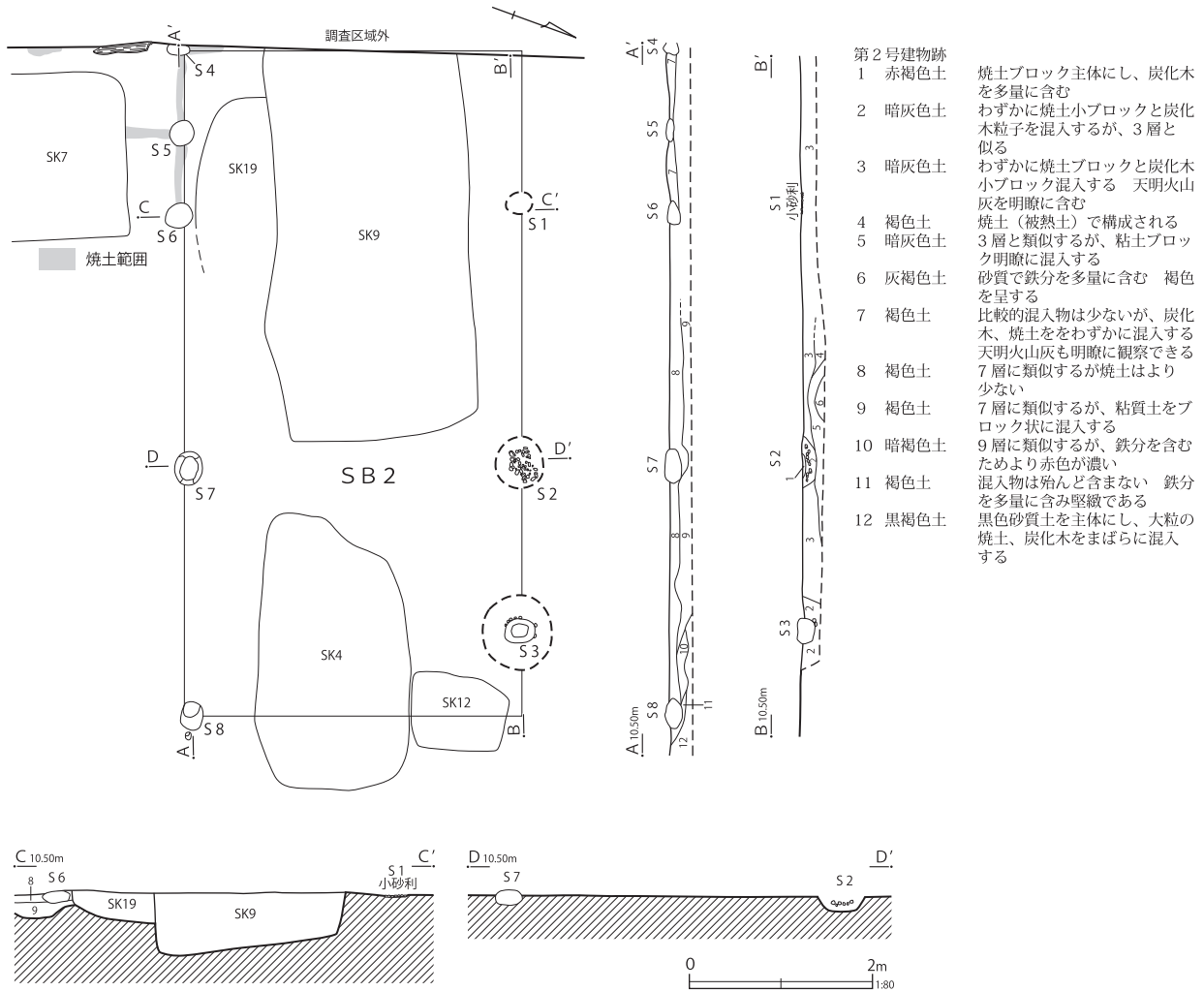


第1号建物跡

- 1 灰褐色土 炭化物粒子(φ3~5mm)多量 焼土粒子(φ2~3mm)少量 白色粒子微量 粘性・しまりなし
- 2 橙褐色土 炭化物粒子(φ7~10mm)・焼土粒子(φ3~5mm)多量 粘性なし しまりあり
- 3 灰褐色土 炭化物粒子(φ3~5mm)含む 焼土粒子(φ2~3mm)少量 砂含む シルトブロック少量 粘性なし しまりあり

- 4 赤褐色土 焼土主体 炭化木、遺物混入
- 5 黒灰色土 黒色と灰色の地山で構成される 炭化木、焼土小ブロック少量 天明火山灰を明瞭(多量)に混入する

第19図 第1号建物跡



第20図 第2号建物跡

ピット3が40×29cm、深さ10cm、ピット4が44×35cm、深さ12cmである。ピット4からは第26図13～16の陶磁器、第27図1・2の煙管・鉄釘が出土している。このほか、陶器青緑釉土瓶が出土している。遺物様相から、ピット4は第1号建物跡廃絶後に構築された可能性がある。

第26図1～12は基礎掘方内の陶磁器である。3・5の近代磁器皿が出土しているが、後世の混在と考えられる。このほかの陶磁器の年代は19世紀前葉までに収まる。非掲載資料にも瀬戸美濃系磁器端反碗・肥前系磁器八角鉢が認められた。

1・2・4の磁器は被熱しており、他にも多く

第2表 第一面建物跡・基礎状遺構一覧表 単位：m

番号	グリッド	長軸	短軸	桁行推定	梁行推定	深さ	主軸方位	備考
SB1	C6-A2・B2	6.50	4.83	5.25	3.63	0.56	N-72° -E	S K 30/33 より古 SB6・木樋2・桶39・SK64/65/74/87/95/96/145/174 より新
SB2	C6-C1/2	7.37	4.22	7.28	3.68	0.20	N-70° -E	SK9/19 より古
SB4	C6-B1/2・C1/2	7.24	4.13	7.13	3.65	0.20	N-69° -E	SB6・桶10・SK10/16/20・Pit33 重複
SB6	C6-B2	5.70	4.03	5.45	3.50	0.27	N-69° -E	SB1/桶39より古 SE2・杭列2より新 SB4・桶10・杭列1 重複
SB13	C6-C4/5	5.60	3.07	(5.27)	2.60	0.15	N-73° -E	桶88・竹樋2・杭列6 重複
SB16	C6-D5/6	-	-	(10.44)	7.36	(1.80)	N-74° -E	深さは杭の遺存長 SK229/1156 重複
基礎1	C6-D5	-	-	-	-	-	-	S1 長径0.47 厚0.13 S2 長径0.44 厚0.20
基礎2	C6-A2/3	-	-	-	-	-	-	S1 範囲径0.45 S2 範囲径0.75 SK181より新

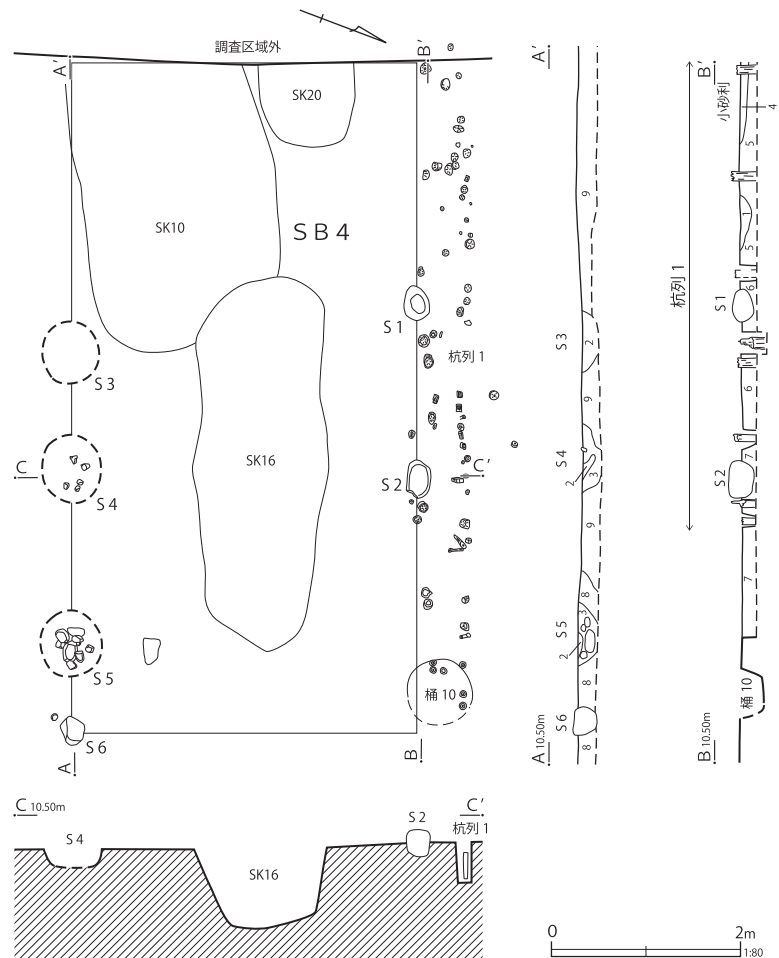
の被熱資料が出土した。基礎構築土に焼土が用いられ、焼土層との関連が考慮されるが、19世紀前葉の火災処理に関わる第30号土層に掘り込まれている。従って、より古い火災で発生した焼土を用いた可能性が考慮されよう。

第2号建物跡 (第20図)

C6-C1・2グリッドに位置する。調査区際壁面で基礎石が焼土層に覆われているのが観察された。この焼土層は調査区西壁の基本土層① (第6図) VII層に当たる。19世紀前葉に帰属する第9号土層と重複し、壁面焼土層との関係から、本跡が古い。基礎は丸石を配したもので、石の下に砂利状の小石を入れている部分もある。北側の基礎石 (S2) では、石を除去した窪みに焼土が入り込む (第20図1層)。また、街道に近い部分の南側石列では建物側縁に沿った焼土の堆積が確認された (第20図の網掛け範囲)。基礎を据える土層には天明3年 (1783) の浅間山火山灰が含まれる。規模は長軸7.37m、短軸4.22mであるが西側は調査区外に延びる。長軸方位はN-70° -Eである。重複遺構や火山灰との関係から、18世紀末~19世紀初頭の構築で、焼土層の形成に関わる火災で廃絶したと考えられる。

第4号建物跡 (第21図)

C6-B1・2、C1・2グリッドに位置し、第2号建物跡の北側に並列するように検出された。基礎構造もほぼ同様である。南辺の基礎石は遺存せず、ぐり石状の拳大の石のみ検出された。基礎石が抜き取られた跡と思われ、その窪みに焼土が

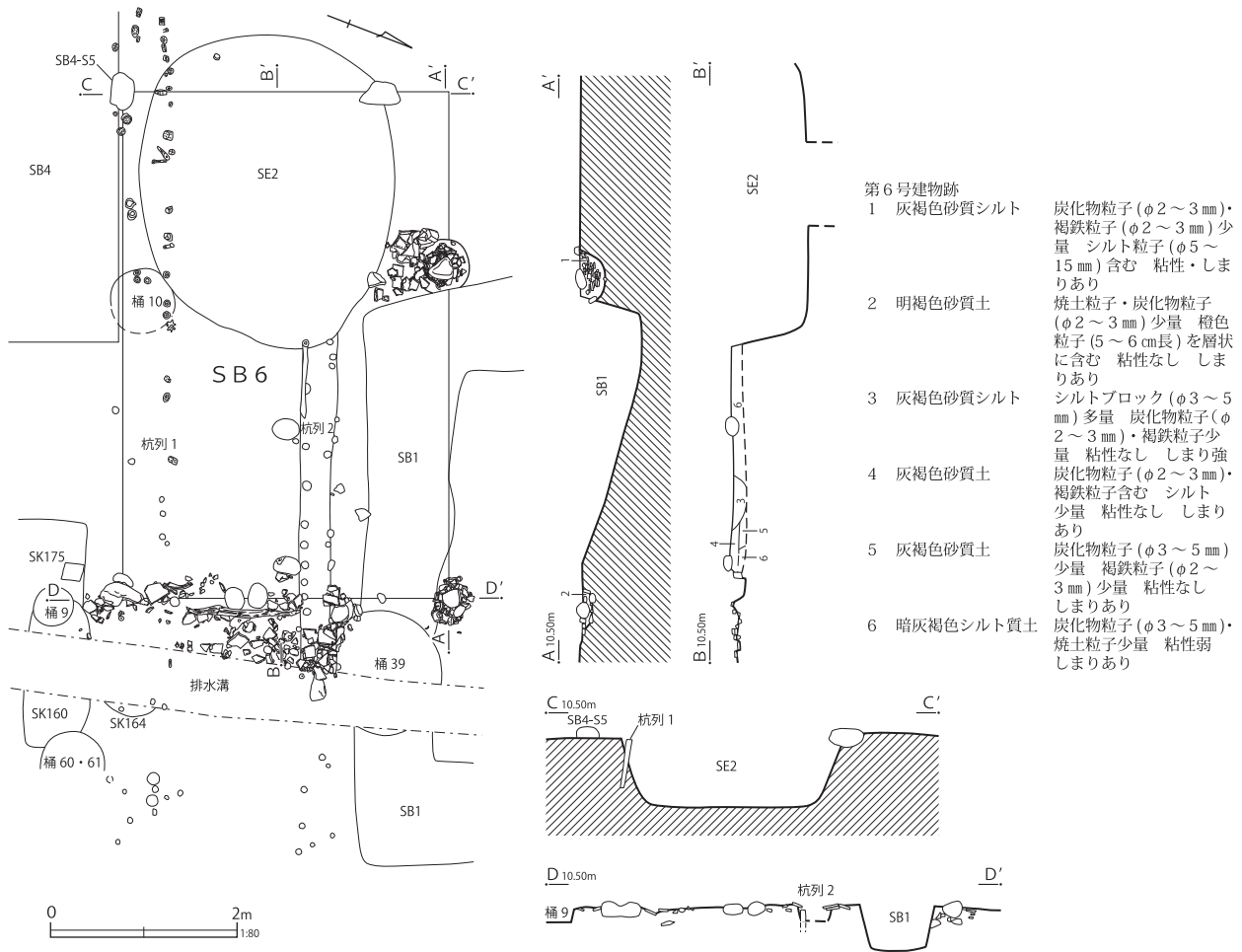


第4号建物跡

- | | | |
|---|------|----------------------------------|
| 1 | 砂利層 | |
| 2 | 赤褐色土 | 焼土ブロック主体 炭化木多量 |
| 3 | 暗灰色土 | 僅かに焼土小ブロックと炭化木粒子を混入 8層と似る |
| 4 | 黒褐色土 | 天明火山灰・炭化物ブロック混入する |
| 5 | | 4層より暗色を呈し、色調も暗い |
| 6 | | 砂質の地山土を斑状に混入する |
| 7 | 黒褐色土 | 黒色土主体 炭化木小ブロック混入 |
| 8 | 暗灰色土 | 僅かに焼土ブロックと炭化木小ブロック混入 天明火山灰を明瞭に含む |
| 9 | 暗灰色土 | 8層に類似するがより焼土ブロックが多い |

第21図 第4号建物跡

入り込んでいた (第21図2層)。第2号建物跡と共通する様相である。規模は長軸7.24m、短軸4.13mであるが、西側は調査区外である。長軸方位はN-69° -Eである。基礎直下の土層に天明3年の浅間山火山灰が含まれることから、18世紀末以降の構築で、焼土層を形成した火災により廃絶したものと考えられる。第26図17は、肥前系磁器の碗で被熱により溶着する。第27図5は煙管である。いずれも基礎確認の際のトレンチから出土しており、建物跡に帰属するか否か判断が難しい。構造や土層堆積から、第2号建物跡



第22図 第6号建物跡

と同時期の建物跡と推測される。

第6号建物跡 (第22図)

C6-B2グリッドに位置する。第1号建物跡と重複し、調査時の所見によれば本跡のほうが古いとされるが、重複部分が少なく確定し難い。第2号井戸跡との新旧関係は不明だが、遺物様相から本跡が古いと考えられる。

本跡は、北東側の礫・瓦集中範囲の軸方向を建物の東辺と捉え、長軸5.70m、短軸4.03m、長軸方位はN-69°-Eの建物を想定したが、他の建物跡や杭列との位置関係から、構造にやや疑問も残る。基礎に丸石を配する構造で、北辺では、基礎石の下にぐり石状の小石・瓦を詰める構造が確認された。東辺では木・礫・瓦が南北に带状に集中し、重複する第1号建物跡の検出レベルより

低い位置に分布する。第26・27図に出土遺物を示す。第26図18~24は陶磁器類で、被熱した資料もみられる。22の松岡系陶器土瓶が本跡に伴うなら、19世紀第1四半期以降の構築と想定される。他に陶器の青緑釉土瓶蓋・白土染付の土瓶が出土している。第27図10~12は軒瓦で、被熱が認められる。

第13号建物跡 (第23図)

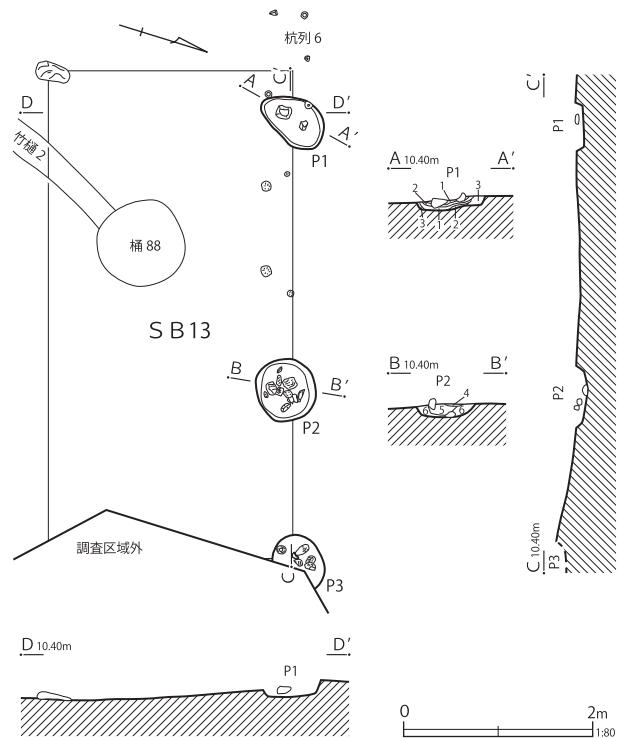
C6-C4・5グリッドに位置する。ピット3基が東西に並び、その中に基礎石の根石とみられるぐり石状の集石が認められる。南西側に比較的大きな石が検出されたことから、その範囲を建物跡と想定したが、全体の構造は不明な点が多い。長軸5.60m、短軸3.07m、長軸方位はN-73°-Eでの想定である。なお遺構範囲内に第88号埋

設桶が所在し、第2号竹樋が接続する。第26図25はピット1から出土した17世紀の肥前系磁器碗である。ピット1からは他に瀬戸美濃系陶器碗、京都信楽系陶器色絵丸碗・堺明石系陶器播鉢・瓦質土器焙烙の細片が出土した。

第16号建物跡 (第24図)

C6-D5・6グリッドに位置し、東部が調査区外に延びる。遺構は捨て杭のみの検出で、上部の基礎構造は不明である。第二面の検出遺構であるが、整理作業の過程で第一面でも同じ位置に捨て杭の上部が検出されていたことが判明した。従って構築面は第一面より上である。

平面形に不明な点が多いが、東西10m以上、南北7.5m程の範囲に杭が打ち込まれ、北西側は一間分張り出している。また、その南側に近接して、礎石状の第1号基礎状遺構が検出されている。検出位置や杭の打ち込みレベルから、本跡は19世紀以降の本陣建物跡の一部と考えられるが、全体の構造を把握するには至らなかった。



- 第13号建物跡
- | | | |
|---|--------|-----------------|
| 1 | 明褐色粘質土 | しまり強い |
| 2 | 明灰色砂 | ほぼ砂の純層 |
| 3 | 暗灰色土 | 炭化木・焼土微小ブロック極少量 |
| 4 | 褐色土 | 炭化木・焼土ブロック多量 |
| 5 | 灰褐色砂質土 | 混入物は認められない |
| 6 | 暗灰色土 | 炭化木・焼土微小ブロック極少量 |

第23図 第13号建物跡

(2) 基礎状遺構

建物跡の一部の可能性があるが、全体の構造が把握できなかった礎石等について、基礎状遺構として報告する。

第1号基礎状遺構 (第25図)

C6-D5グリッドに位置する。大形の礎石と考えられる丸石が近接して検出されたものである。石の周囲は砂層の堆積が認められるが、石を据えるための掘方であるか否か判断が難しく、石自体が原位置を保っていない可能性もある。

第2号基礎状遺構 (第25図)

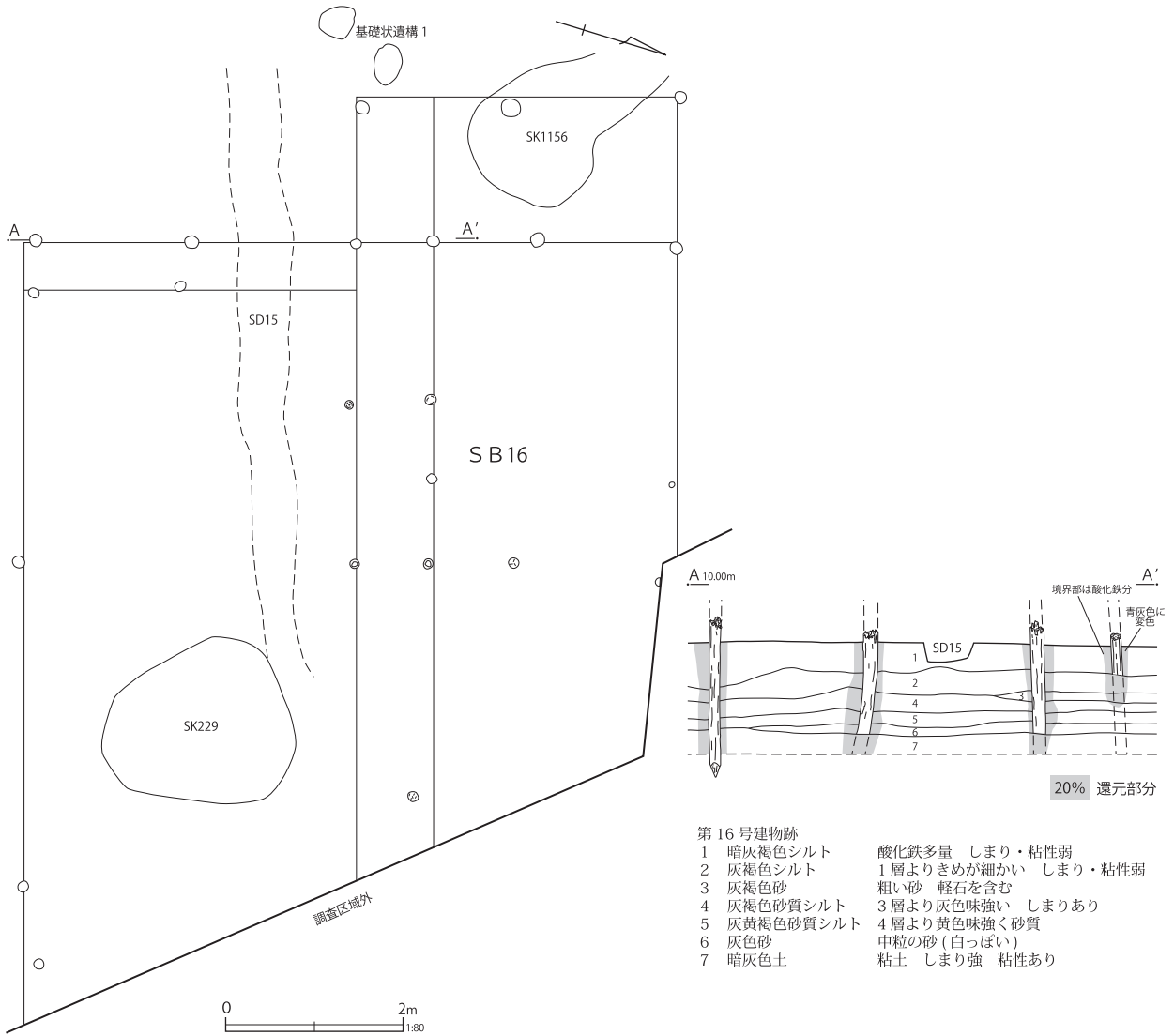
C6-A2・3グリッドに位置する。ぐり石状に拳大の石が集中する部分が2箇所検出された。両者の間隔は約1.5mである。礎石等の根石と考えられるが、掘方は明確ではなく、建物構造を把握し得るものではなかった。

(3) 胞衣埋納遺構

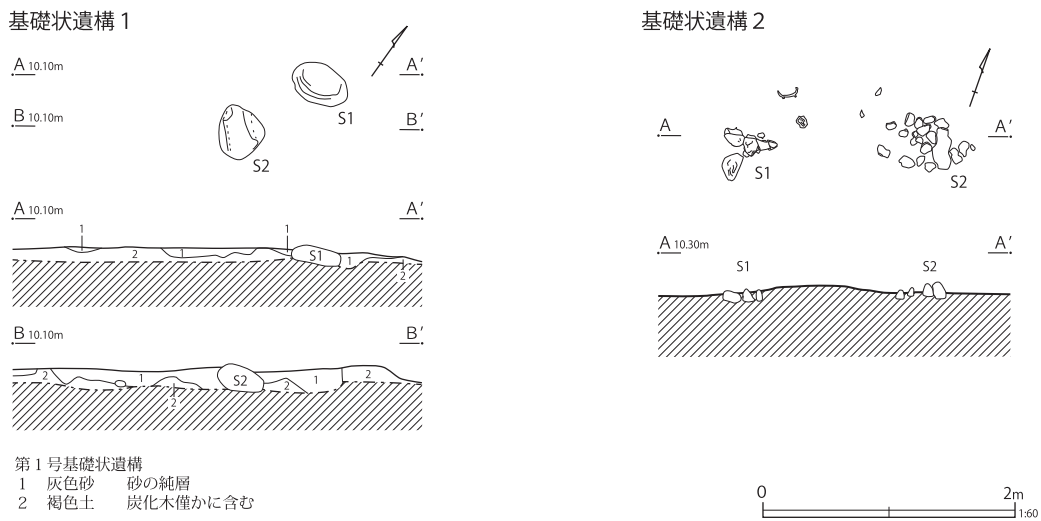
胞衣埋納遺構は栗橋宿跡全体で検出例が極めて少ない。宿全体を通して、かわらけ合わせ口のものも検出されておらず、北側に隣接する調査区で、専用容器を用いた例が知られる（『栗橋宿跡V』に報告）。以下に報告する例は、火鉢と火消壺の蓋を転用した例である。

第1号胞衣埋納遺構 (第28図)

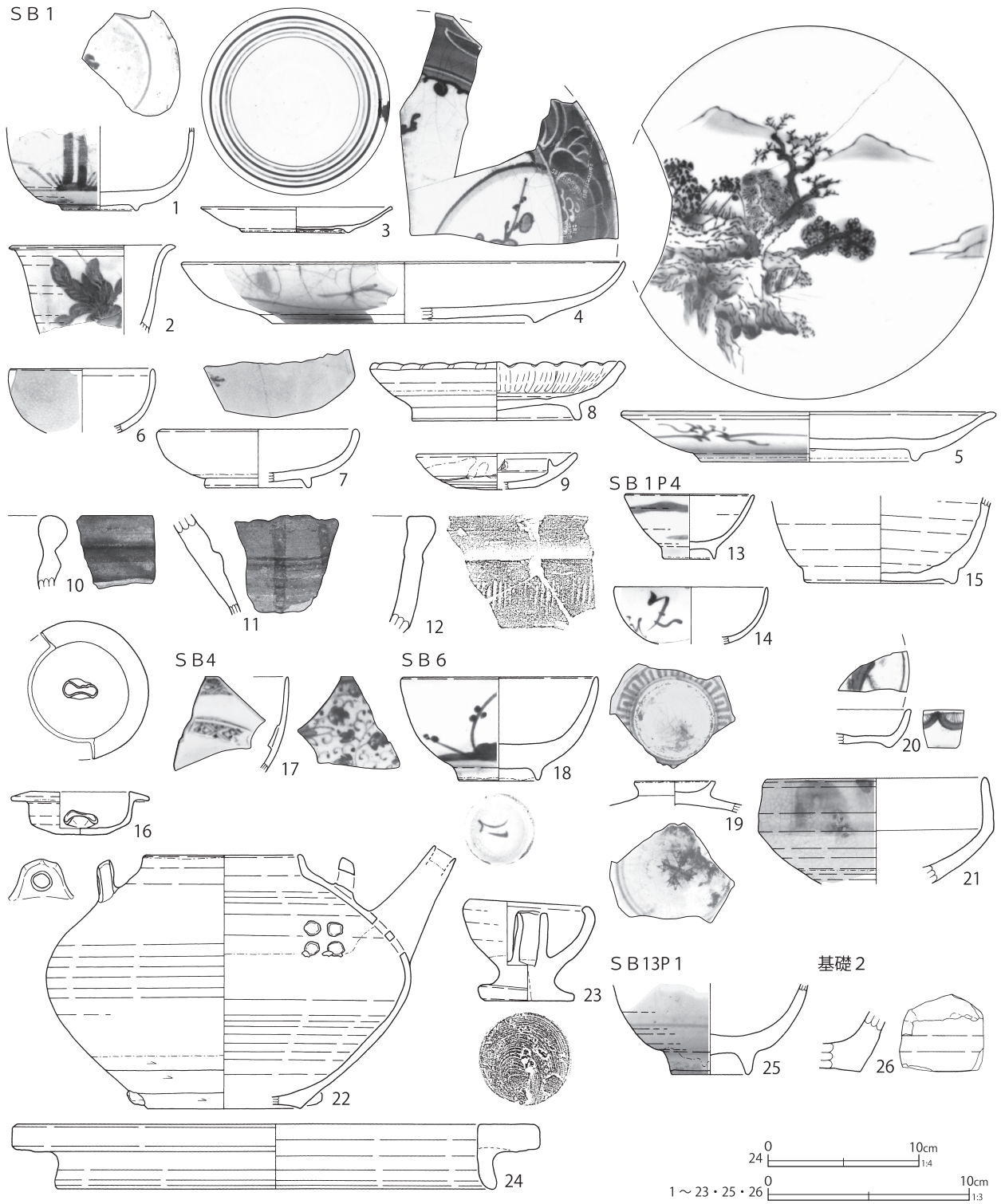
C6-D2グリッドの調査区西壁際に位置する。周囲の土層堆積は第6図の基本土層①（調査区西壁）で確認されたい。胞衣埋納孔は一面検出面より上部から掘り込まれ、径22cm、深さ30cmのピット状である。上部の掘り込みが広がる部分は、胞衣埋納に伴うものか否か判断し難い。容器は瓦質土器火鉢と火消壺の蓋を転用したものである（第29図）。身に用いられた火鉢は火箸状痕跡や口縁部の叩き打ちが認められず、使用痕跡が



第 24 図 第 16 号建物跡



第 25 図 第 1・2号基礎状遺構

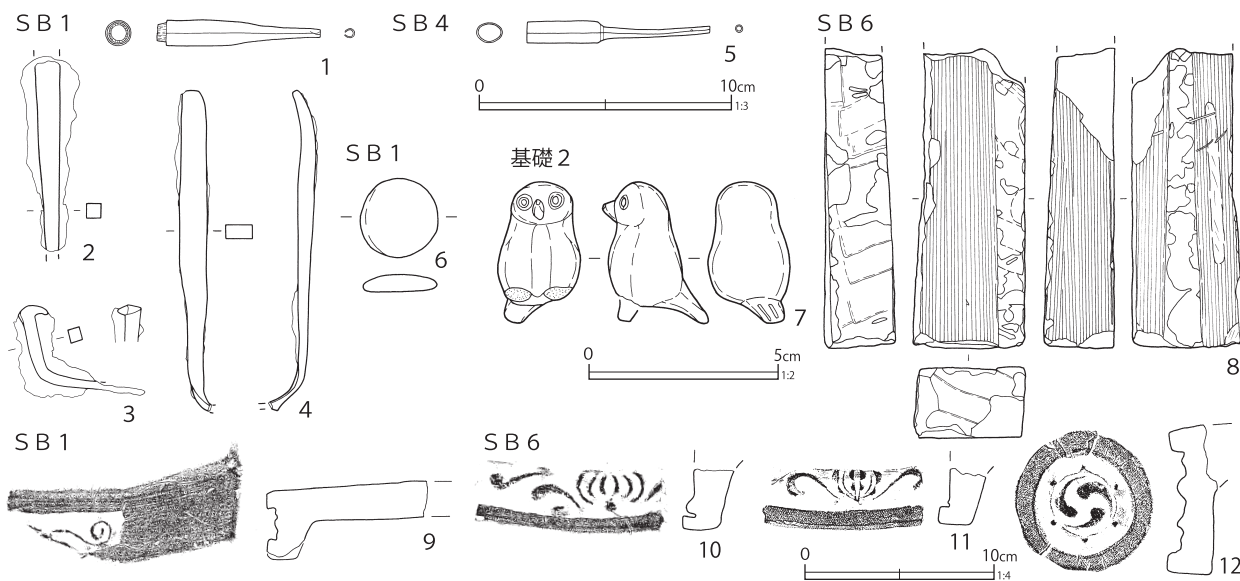


第26図 建物跡・基礎状遺構出土遺物（1）

第3表 建物跡・基礎状遺構出土遺物観察表（1）（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	—	[4.1]	(3.6)	—	35	良好	白	SB1	基礎北辺 肥前系 施釉・染付 強く被熱	
2	磁器	坏	7.8	[4.3]	—	—	90	良好	白	SB1	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
3	陶器	皿	9.3	1.3	5.2	—	100	良好	白	SB1	硬質陶器 施釉 内面上絵付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
4	磁器	皿	(21.8)	3.0	(13.0)	—	20	良好	白	SB1	基礎北辺・南辺接合 肥前系 施釉 被熱	26-1 26-2 26-3
5	磁器	皿	18.5	2.5	10.6	K	95	良好	白	SB1	瀬戸美濃系 施釉 内面染付	
6	陶器	坏	(7.0)	[3.2]	—	I	10	普通	灰白	SB1	京都信楽系 施釉 外面上絵付(緑)	
7	陶器	皿	(9.6)	2.9	(5.2)	I	20	良好	灰白	SB1	京都信楽系 施釉 内面鉄絵 被熱	
8	陶器	皿	(12.0)	2.8	8.3	IK	30	良好	灰白	SB1	瀬戸美濃系 灰釉・緑釉散らし 内面しのぎ状施文(菊皿)	
9	陶器	灯明皿	(7.8)	1.7	(3.9)	K	50	普通	灰白	SB1	基礎南辺 瀬戸美濃系 柿釉・重焼痕 被熱・黒化	
10	陶器	甕	—	[3.7]	—	CHIK	5	普通	褐灰	SB1	信楽系か 灰釉 被熱 11 と同一個体	
11	陶器	甕	—	[5.0]	—	IK	5	良好	灰白	SB1	信楽系か 施釉 外面鉄化粧か	
12	瓦質土器	火鉢	—	[5.7]	—	CI	5	普通	灰黄	SB1	外面施文 口縁部煤付着	
13	磁器	坏	(6.3)	3.2	(2.5)	—	50	良好	白	SB1P4	肥前系 施釉 外面染付	
14	磁器	坏	(7.4)	[2.8]	—	—	20	良好	白	SB1P4	肥前系 施釉 外面染付	
15	陶器	德利	—	[4.2]	(7.4)	IK	10	良好	にぶい黄橙	SB1P4	瀬戸美濃系 外面灰釉・下位拭き取り	
16	陶器	蓋	—	2.1	2.6	IK	80	良好	にぶい黄橙	SB1P4	上面柿釉 最大径 6.8	
17	磁器	碗	—	[4.7]	—	—	10	良好	白	SB4 トレンチ	肥前系 施釉・染付 強く被熱 別個体が溶着	
18	磁器	碗	(9.5)	5.1	(3.8)	—	35	良好	灰白	SB6	肥前系 施釉 外面染付	
19	磁器	蓋	3.9	[1.5]	—	—	30	良好	白	SB6	肥前系 施釉・染付 強く被熱 煤付着	
20	磁器	皿	—	1.9	—	—	5	良好	白	SB6	肥前系 施釉・染付	
21	陶器	碗	(10.8)	[5.2]	—	IK	30	不良	灰白	SB6	瀬戸美濃系 灰釉 外面呉須流掛・鉄釉 散らす	
22	陶器	土瓶	(7.4)	[13.0]	7.6	IK	80	普通	灰黄褐	SB6	松岡系 外面海鼠釉・煤付着	
23	陶器	乗燭	5.7	5.0	4.5	IK	100	良好	灰白	SB6	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 鉄釉	
24	瓦質土器	竈鏝	(34.4)	4.2	(29.0)	CHIK	25	不良	赤橙	SB6	上面中心に煤付着 被熱・赤変	
25	磁器	碗	—	[4.5]	3.8	—	60	普通	白	SB13P1	肥前系 施釉 外面染付	
26	陶器	瓶類か	—	[3.0]	—	I	5	普通	灰	基礎2	備前系	

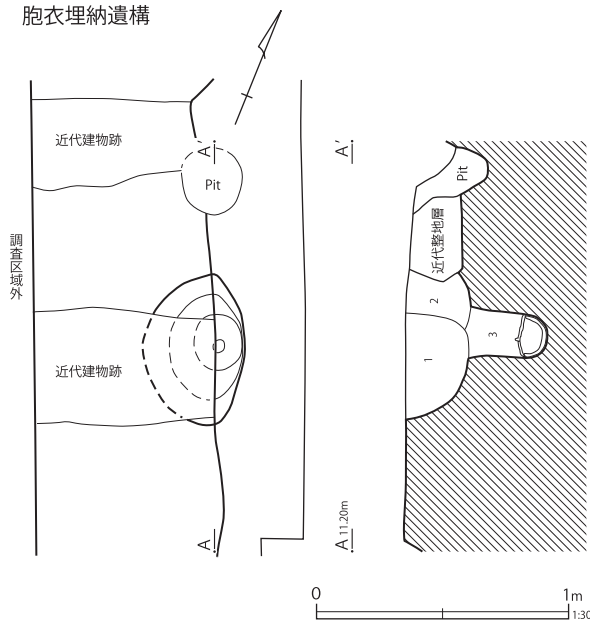


第27図 建物跡・基礎状遺構出土遺物(2)

第4表 建物跡・基礎状遺構出土遺物観察表(2)(第27図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長6.0 小口径1.0 口付径0.4 重8.4	SB1P4	吸口 羅字残存	98-1
2	鉄製品	釘	長[7.5] 幅0.6 厚0.6 重24.5	SB1P4		
3	鉄製品	釘	長[12.7] 幅1.1 厚0.5 重33.5	SB1		
4	鉄製品	釘	長[3.6] 幅0.5 厚0.5 重12.3	SB1		
5	銅製品	煙管	長7.2 小口径0.8×1.0 口付径0.3 重4.3	SB4	吸口	98-1

胞衣埋納遺構



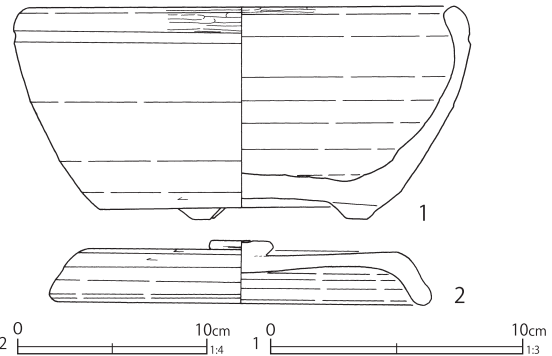
胞衣埋納遺構

- 1 黒褐色土 胞衣壺埋設に伴うものか 後世の攪乱の可能性もある
大礫を混入 しまり弱
2 黒褐色土 砂・大粒の炭少量 焼土小ブロック混入 しまり強
3 黒褐色土 砂多量 炭少量 焼土小ブロック混入 しまり弱

第 28 図 胞衣埋納遺構

観察されない。蓋についても、擦れや煤の付着が無く、あまり使用されていない状態のものが用いられたことが分かる。なお、内部の土壌に目立った混入物は確認されていない。掘り込み面から19世紀後半以降の帰属である。

胞衣埋納遺構



第 29 図 胞衣埋納遺構出土遺物

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
6	土製品	基石	径 2.1 厚 0.5 重 1.9	SB1	胎土赤褐色 内外面白色塗布物 煤少量付着	84-5
7	土製品	人形	高 3.7 幅 2.2 厚 2.7 重 11.0	基礎 2	胎土角閃石含み橙色 在地系 鼻 手捻り成形 中実	
8	石製品	砥石	長 [15.8] 幅 5.9 厚 3.7 重 579.3	SB6	幅広工具痕 ノコギリ痕 (目細かい) 刃物痕 被熱	
9	瓦	軒棧瓦	長 [9.0] 幅 [13.3] 厚 1.9	SB1	胎土に雲母・角閃石含 灰白色 銀化	
10	瓦	軒棧瓦	長 [2.5] 幅 [10.2] 厚 2.1	SB6	胎土に雲母・角閃石含 にぶい黄橙色 被熱・変色	
11	瓦	軒棧瓦	長 [2.0] 幅 [8.8] 厚 1.9	SB6	胎土に雲母含 橙色 銀化 被熱・変色	
12	瓦	軒棧瓦	径 [7.3] 幅 [7.2] 厚 2.3	SB6	胎土に雲母含 灰白色 左巻き 銀化 被熱・変色	

第 5 表 胞衣埋納遺構出土遺物観察表 (第 29 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦質土器	火鉢	16.8	8.3	11.2	CEHIK	100	良好	にぶい橙	胞衣埋納遺構	底部ナデ調整 口縁部ミガキ やや酸化炎焼成 胞衣壺転用	26-4
2	瓦質土器	蓋	—	3.3	19.4	CI	95	良好	にぶい橙	胞衣埋納遺構	上面砂目 やや酸化炎焼成 胞衣壺蓋に転用	26-4

(4) 埋設桶

埋設桶は計92基検出され、全て第一面に帰属する。個々の埋設桶についての記載は省略し、検出位置・規模・重複関係等については第6表・遺構図面は第30～38図に掲げた。以下に、全体的な傾向や特徴的な例について記述する

埋設桶の分布を確認すると、日光道中に沿った建物範囲の裏側で、本陣区画施設と考えられる第3号溝跡・第3～5号杭列との間に分布するもの

が多い。C 6 - A 3 グリッド周辺の第52・53・55・56・58号埋設桶や、C 6 - C 3 グリッド西側の第44・48・63・64・65・68・69・75号埋設桶等はその例である。また、調査区北西部のC 6 - A 1 グリッドには特に集中しており、第20～31・36～38・40～43・45・46号埋設桶が位置する(写真図版7-4)。この部分は、北側の日光道中に面した建物跡の裏手にあたり、建物と関連性をもって構築された可能性が高い。なお、この

第6表 第一面埋設桶一覧表 単位：m

番号	グリッド	外径	高さ	内径	深さ	掘方径	深さ	備考	
1	C6-D2	0.48	0.12	0.45	0.10	0.61	0.17		
2	C6-C2	0.50	0.25	0.45	-	0.61	0.27		
3	C6-C2	0.33	0.16	0.31	-	0.37	0.21	寛永通宝(新) 1	
4	C6-C2	0.50	0.12	0.48	-	0.63	0.18	寛永通宝 1	
5	C6-D2	0.50	0.24	0.48	-	0.63	0.24	SK176 より新	
6	C6-D2	-	-	-	-	0.38	0.13		
7	C6-D2	0.48	0.20	0.45	0.10	0.68	0.23	SK176 より新	
8	C6-B2	-	-	0.40	-	0.40	0.06	杭列 1 重複 寛永通宝四文銭 1	
9	C6-B2	-	-	0.40	-	0.40	0.10	SK160/175 より新	
10	C6-B2	0.48	0.18	0.44	0.16	0.67	0.25	杭列 1 より古 SE2/3 より新 寛永通宝(新) 1	
11	C6-A2	0.46	-	0.38	-	0.56	0.12	SK38 より新 不明銅銭 1	
12	C6-A2	0.47	0.08	0.43	0.04	0.50	0.10	SE1・SK46 より新 寛永通宝(新)2・不明銅銭 1	
13	C6-C2	-	-	-	-	0.67	0.14	不明銅銭 1 陶器常滑甕 1 個体分の破片出土	
14	外 内	C6-C1	0.53	-	0.47	-	0.58	0.21	
			0.50	0.21	0.43	0.20			
15	C6-A2	0.44	0.18	0.40	-	0.60	0.23	SK39 より新	
16	C6-A2	0.42	0.17	0.38	-	0.50	0.32	五十銭(明治十年)1・銭種不明銅銭 1(二銭銅貨とみられる)	
17	C6-A2	0.48	0.08	0.45	0.04	0.55	0.12	SK36 より新	
18	C6-A2	0.41	0.15	0.38	0.11	0.48	0.18	SK36 より新	
20	C6-A1	0.51	0.35	0.47	0.30	0.63	0.42	銅銭 3(寛永通宝四文銭 1 含)	
21	C6-A1	0.52	0.32	0.46	0.20	0.71	0.39	SK122 より新	
22	C6-A1	0.45	0.30	0.39	0.26	0.55	0.31		
23	C6-A1	0.46	0.23	0.40	0.22	0.55	0.30	Pit11 より新	
24	C6-A1	0.33	0.12	0.32	0.11	0.48	0.16	寛永通宝 1	
25	C6-A1	0.50	0.40	0.46	0.29	0.64	0.45	SK63 より新	
26	C6-A1	0.44	0.08	0.42	0.02	0.54	0.18	SK25 より新 寛永通宝四文銭 1・不明銅銭 2	
27	C6-A1	-	0.15	-	-	0.60	0.23	桶 28 より古	
28	C6-A1	0.48	0.16	0.46	0.16	0.64	0.25	桶 27・SK90 より新 寛永通宝四文銭 1	
29	C6-B1	0.52	0.05	0.49	-	0.55	0.12	木桶 7 より新	
30	C6-A1	0.40	0.08	0.36	0.07	0.51	0.16	桶 36 より新	
31	C6-A1	0.50	0.21	0.47	0.20	0.61	0.25	桶 43・SK71 より新	
32	C6-B2	0.46	0.13	0.40	0.12	0.57	0.17	SK30 より新	
33	C6-A2	-	0.27	-	0.22	0.49	0.39		
34	C6-A2	0.48	0.20	0.39	-	0.52	0.25	SK46 重複	
35	C6-C2	0.50	0.16	0.43	0.14	0.54	0.22	SK3/8 より新	
36	C6-A1	-	0.12	-	0.11	0.56	0.18	桶 30 より古	
37	C6-A1	0.43	0.07	0.39	0.06	0.52	0.10	不明銅銭 1	
38	C6-A1	-	-	-	-	0.58	0.19		
39	C6-B2	-	0.65	-	0.62	(1.37)	0.84	SB1・杭列 2 より古 底板は径 78 厚 3 cm内側に黒漆	
40	C6-A1	0.53	0.35	0.47	-	0.62	0.43	SK43 より新 SK29 より古	
41	C6-A1	-	-	-	-	0.73	0.20		
42	C6-A1	0.28	0.18	0.24	-	0.35	0.23	栗橋宿第 5 次 SB8 より新	
43	C6-A1	0.59	0.20	0.45	-	1.17	0.27	桶 31 より古 SK71 より新	
44	C6-C3	0.50	0.30	0.46	0.27	0.69	0.29		
45	C6-A1	0.48	0.16	0.43	-	0.59	0.32	SK37 より古 SK197 より新	
46	C6-A1	0.47	0.39	0.41	-	0.63	0.39	SK122/197 より新	
47	C6-A1	-	-	-	-	0.51	-	SK63 より新 寛永通宝 7(鉄銭 1・新 1・四文銭 2)	
48	C6-C3	0.42	-	-	-	0.49	0.28		
49	C6-A1	0.21	0.04	0.19	-	0.32	0.09	SK52 より古	
50	C6-A1	0.24	0.08	0.19	-	0.31	0.13	SK133 より新	
51	C6-A2	0.45	0.08	0.41	0.07	0.51	0.17	SK102/153 より新	
52	C6-A2	0.41	0.09	0.42	0.03	0.53	0.13	SK75/80 より新	
53	C6-A3	-	-	-	-	0.50	0.09		
54	C6-B3	0.43	0.09	0.39	-	0.51	0.13	SK86 より新 杭列 2 重複	
55	C6-A3	0.47	0.34	0.43	0.30	0.64	0.41	桶 56 より新 寛永通宝 3(古 1, 四文銭 1 含)・寛永通宝四文銭カ 7・不明銅銭 2	
56	外 内	C6-A3	0.53	0.27	0.47	0.18	0.58	0.36	桶 55 より古 入れ子状
			0.42	0.08	0.40	0.05			
58	C6-A3	0.45	0.30	0.39	-	0.65	0.37	文久永宝 1, 不明銅銭 1	
59	C6-B2	0.46	0.08	0.42	0.07	0.58	0.14		
60/61	C6-B2	0.30	0.17	0.25	-	0.75	0.21	同一掘方に桶 2 基検出 新旧の可能性あり	
		-	0.15	-	-				
62	C6-B3	-	0.08	-	-	0.69	0.16	SK100, 199 より新 不明銅銭 1	

番号	グリッド	外径	高さ	内径	深さ	掘方径	深さ	備考
63	C6-C3	0.49	0.15	0.45	0.14	0.62	0.23	SK211 より新 寛永通宝(新)1
64	C6-C3	0.45	0.31	0.41	0.25	0.50	0.36	寛永通宝四文鉄銭1・不明銅銭1
65	C6-C3	0.50	0.30	0.45	0.29	0.60	0.35	SK267 より新
66	C6-A3	0.53	0.37	0.46	0.34	0.66	0.39	SK157/181 より新 寛永通宝(新)1・不明銅銭1
67	C6-D3	0.49	0.06	0.45	0.05	0.60	0.12	SK188 より新
68	C6-C3	-	-	0.44	-	0.58	0.04	桶75・SK274 より新
69	C6-C3	0.42	0.01	0.39	-	0.54	0.11	桶75・SK274 より新
70	C6-A3	0.26	0.05	0.23	-	0.29	0.08	
71	C6-B3	-	0.37	-	0.34	0.75	0.39	SK86 より新 SD3 重複
72	C6-B3	0.92	0.49	0.80	0.41	1.24	0.61	SK76/157・杭列2 より新
73/77	C6-A1. B1	0.48	0.14	0.47	0.11	0.70	0.46	SK106/107 より新
		0.52	0.25	0.50	-			
74	C6-D3	-	0.09	-	-	0.59	0.14	SE5 より新
75	C6-C3	0.43	0.21	0.40	0.15	0.60	0.21	桶68/69 より古 SK274 より新 銅銭10(寛永通宝(新)1, 四文銭カ1 含), 鉄銭1
76	C6-A2	0.43	0.31	0.41	0.28	0.49	0.40	木樋4 重複
78	C6-C3	0.49	0.36	0.42	0.37	0.62	0.33	SD5 より古 SK166 重複
79	C6-E3	0.51	0.08	0.42	-	0.73	0.21	
80	C6-E3	0.45	0.08	0.42	0.06	0.67	0.24	
81	C6-F3/4	-	-	0.44	-	0.55	0.05	
82	C6-E3	0.49	0.19	0.41	0.12	0.60	0.19	SK255 より新 寛永通宝(新)1
83	C6-F4	-	-	0.43	-	0.57	0.10	SK297 より新
84	C6-F3/4	0.53	0.32	0.46	0.30	0.69	0.33	
86	C6-A3	0.45	0.19	0.42	0.15	0.75	0.30	
87	C6-A3	-	-	-	-	0.45	0.29	寛永通宝四文銭カ3
88	C6-C4	0.71	0.70	0.67	0.61	0.93	0.85	竹樋2 と接続 遺構図は第66 図参照
89	C6-F3	0.50	0.26	0.46	0.25	0.60	0.43	
90	C6-D2	-	-	0.19	0.16	0.63	0.22	
91	C6-F4	0.50	0.33	0.45	0.30	0.69	0.55	寛永通宝四文銭カ1・不明銅銭1
92	C6-E4	-	-	-	-	0.54	0.19	
93	C6-E2	0.50	0.23	0.45	0.20	0.65	0.28	
94	C6-F4	-	-	0.36	-	0.68	0.30	SK297 より新 不明銅銭1
95	C6-F4	-	-	0.43	-	0.52	0.26	

建物跡については隣接調査区にまたがるので、『栗橋宿跡V』で報告する。

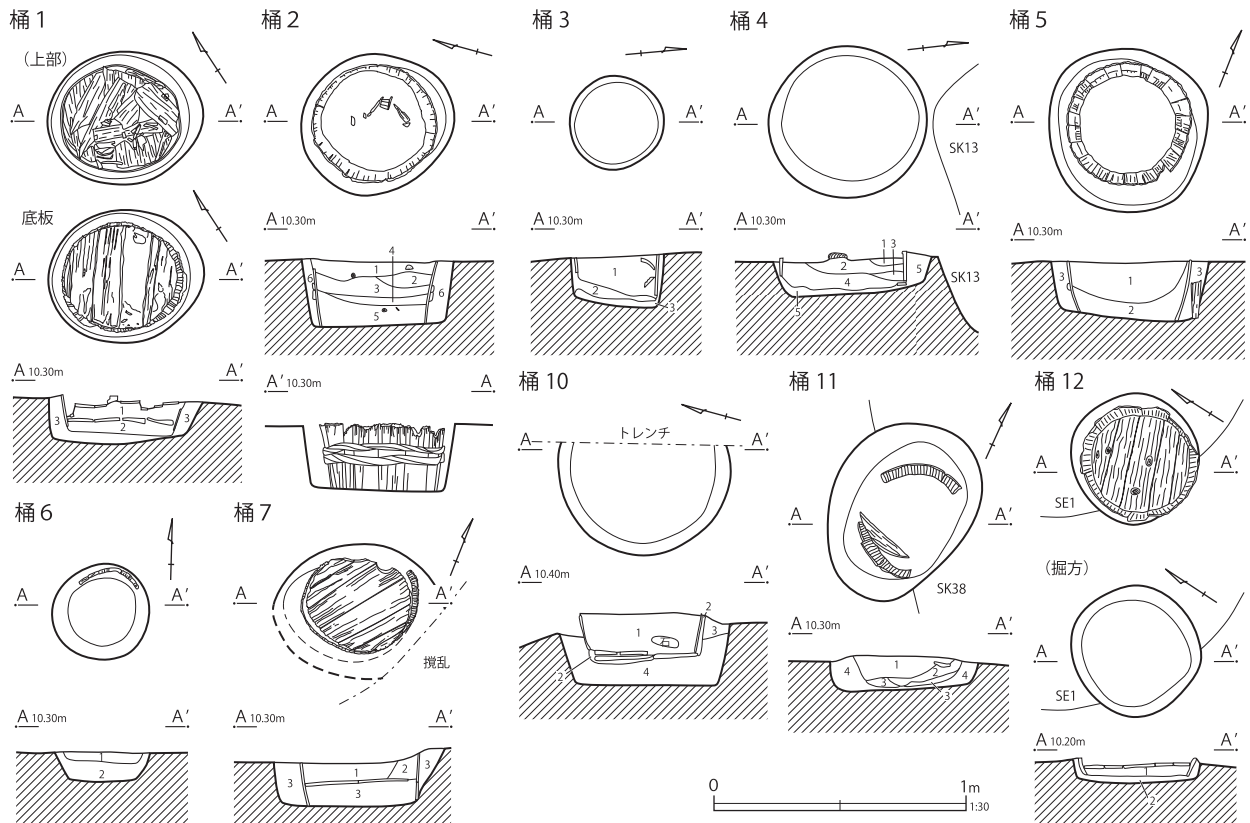
構造に注目すると、底板が伴っていなかったと考えられる例が認められる。遺存状況により、全ての埋設桶の底板の有無を確認することはできないが、第2・4・5・22・40・42・45・46号埋設桶等は、側板のみ良好に遺存しており、当初より底板が除かれていた可能性がある。浸透枘のような用途を推定すべきであろうか。なお、第73・77号埋設桶は、二重構造の埋設桶とみられ、外桶のみ底板が残っていない。

このほか、第76号埋設桶は第4号木樋と、第88号埋設桶は第2号竹樋と接続しており、地下の樋と一体化した施設である。

出土遺物に特色があるのは、銭貨12枚を出土した第55号埋設桶と、11枚を出土した第75号埋設桶である。銭貨の多くは底板直上で出土し、第

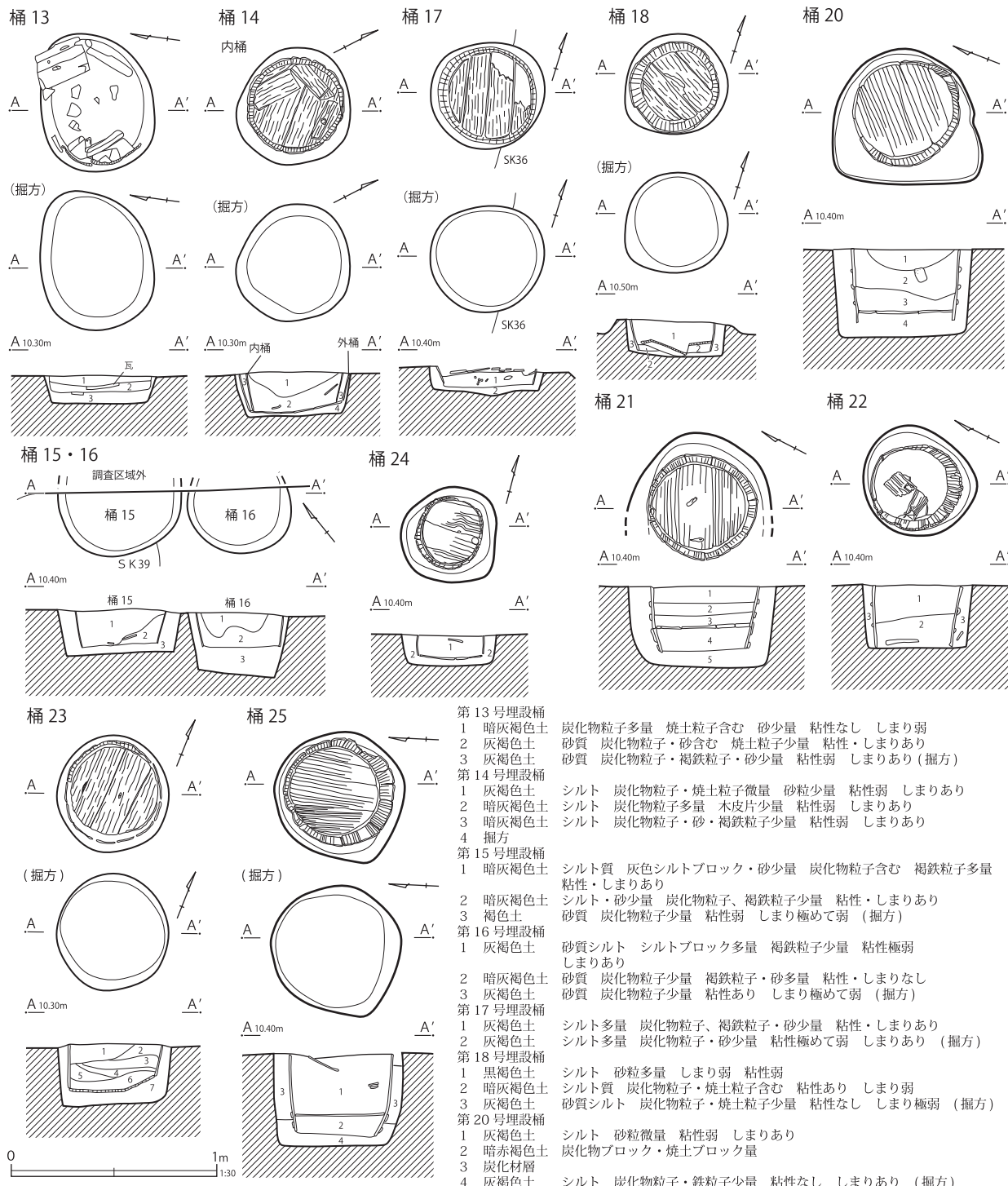
55号埋設桶では羅宇が残る煙管(第42図7)も伴っていた。第75号埋設桶では、銅銭8・鉄銭1が鑄着して出土しており、縹の状態であったと思われる。銭貨が複数枚出土する例は、より南側の町屋範囲で多く認められたが、今回の報告範囲ではやや少ない傾向にある。出土した銭貨の種・枚数については、第6表の備考欄に記入した。

各埋設桶から出土した主要な遺物については、第39～42図に示す。埋設桶出土の陶磁器のうち、完形で出土したものは原則図示した。第40図32・33は、第63号埋設桶から出土した京都信楽系の坏である。鉄絵を施した器面に、特徴的なマークと「紅」銘が上絵付けされている。同様の坏は、第二面の溝跡等から多く出土しているが、鉄絵を施す坏を用いたものは少数である。第41図50は第94号埋設桶から出土した陶器の緑釉瓶掛で、第204号土壇の遺物と接合している。



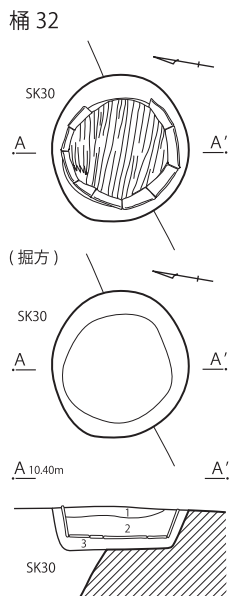
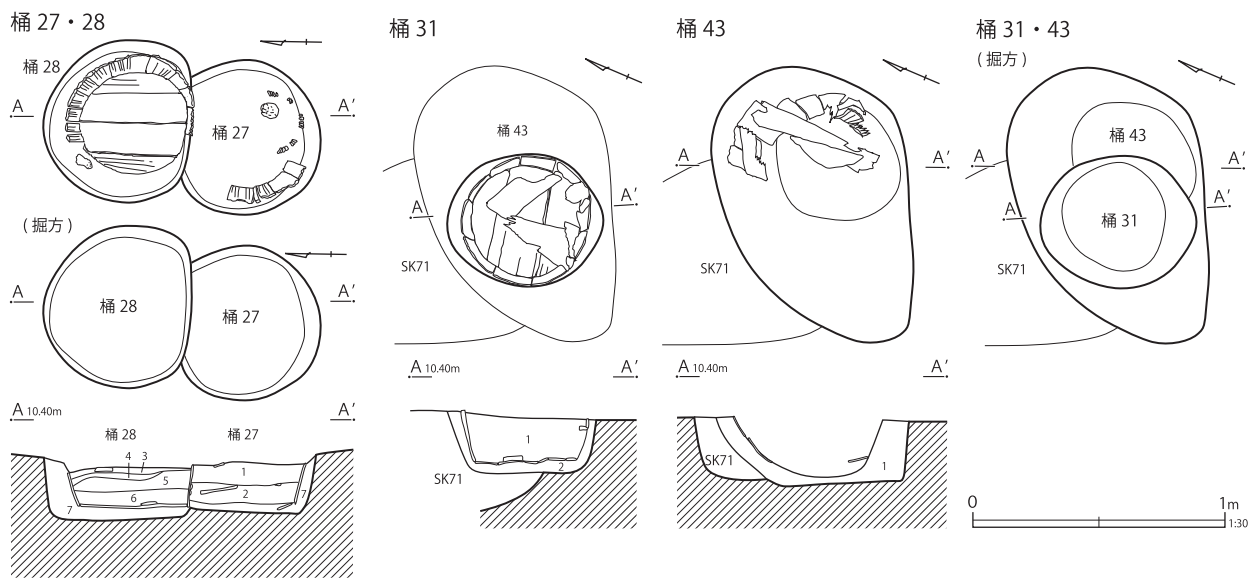
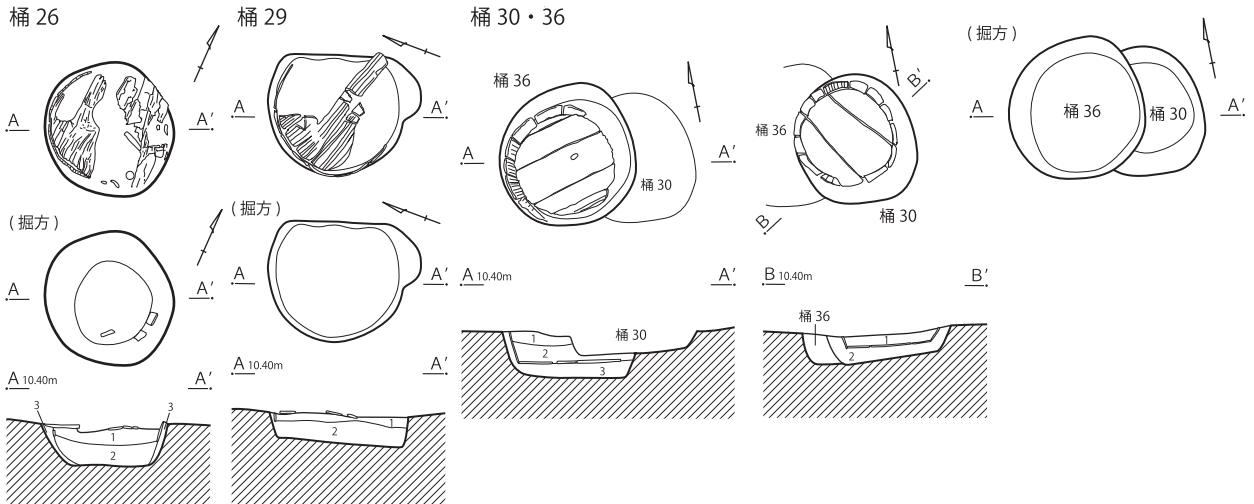
- 第1号埋設桶
 1 灰褐色土 砂質 炭化物粒子・酸化鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性なし しまり弱
 2 灰褐色土 シルト質 炭化物粒子(φ5mm)・酸化鉄粒子(φ2~3mm)少量 粘性・しまりあり
 3 暗灰褐色土 シルト質 砂粒多量 暗灰色シルトブロック(φ3~5mm)少量 粘性・しまりあり
- 第2号埋設桶
 1 灰褐色土 砂多量 炭化物粒子・シルト粒子・酸化鉄粒子少量 粘性・しまりあり
 2 灰褐色土 砂質 砂(φ1mm以下)含む 酸化鉄粒子(φ2~3mm)少量 粘性・しまりあり
 3 暗灰褐色土 シルト質土主体 酸化鉄粒子(φ2~3mm)少量 粘性強 しまりあり
 4 灰褐色土 砂質 砂多量 炭化物粒子・酸化鉄粒子少量 粘性・しまりあり
 5 暗褐色土 シルト質土主体 酸化鉄粒子(φ1mm以下)少量 粘性強 しまりあり
 6 暗灰褐色土 シルト・砂・炭化物粒子(φ1~2mm)少量 粘性・しまりあり (掘方)
- 第3号埋設桶
 1 灰白色土 砂質土主体 酸化鉄粒子(φ1mm)少量 粘性・しまりなし
 2 灰褐色土 シルト質主体 酸化鉄粒子(φ2~3mm)含む 炭化物粒子少量 粘性あり しまりなし
 3 灰褐色土 砂質土 シルト・炭化物粒子・酸化鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性・しまりなし (掘方)
- 第4号埋設桶
 1 灰色砂 粘性・しまりなし
 2 灰褐色土 シルト質土主体 炭化物粒子・焼土粒子(φ2~3mm)含む 粘性弱 しまりあり
 3 橙褐色土 砂質 砂極多量 酸化鉄粒子(φ1mm)多量粘性なし しまり極強
 4 暗褐色土 シルト質土主体 砂粒(φ1mm以下)含む 腐蝕有機物多量 粘性・しまり弱
 5 灰褐色土 砂質土 砂粒極多量 酸化鉄粒子(φ1mm以下)多量 粘性なし しまり極強 (掘方)
- 第5号埋設桶
 1 暗灰褐色土 砂質土主体 炭化物粒子含む シルトブロック(φ5mm程)斑状に混入 粘性・しまりあり
 2 暗褐色土 シルト質 砂粒(φ1mm以下)少量 炭化物粒子(φ2~3mm)含む 粘性強 しまりあり
 3 暗灰褐色土 砂質 炭化物粒子(φ2~3mm)多量 酸化鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性・しまりあり
- 第6号埋設桶
 1 灰褐色土 砂質 炭化物粒子(φ3~4mm)・酸化鉄粒子(φ2~3mm)少量 粘性なし しまり強
 2 灰褐色土 砂質 炭化物粒子・酸化鉄粒子・シルトブロック少量 粘性なし しまり強 (掘方)
- 第7号埋設桶
 1 暗灰褐色土 シルト 砂粒多量 粘性弱 しまりあり
 2 灰褐色砂
 3 暗灰褐色土 砂質シルト 砂粒・シルトブロック(φ2~3mm)多量 粘性・しまりあり (掘方)
- 第8号埋設桶
 1 暗灰褐色土 シルト 粘性・しまり弱 (掘方)
- 第9号埋設桶
 1 暗灰褐色土 シルト 粘性・しまり弱 (掘方)
- 第10号埋設桶
 1 褐色土 砂質シルト 砂多量 焼土・炭化物粒子微量 粘性なし しまり弱
 2 暗灰褐色土 シルト 砂・焼土粒子・炭化物粒子含む 粘性弱 しまりあり (掘方)
 3 灰褐色土 シルト 灰色シルトブロック(φ2~3cm)多量 しまり・粘性あり (掘方)
- 第11号埋設桶
 1 黒褐色土 シルト 炭化物粒子・焼土粒子・砂少量 埋戻しか 粘性・しまり弱
 2 灰褐色砂 炭化物粒子・焼土粒子含む 埋戻しか 粘性なし しまり弱
 3 暗褐色土 砂質シルト 焼土ブロック(φ1cm)・砂多量 埋戻しか 粘性なし しまり弱
 4 灰褐色土 砂質シルト 炭化物粒子(φ3~5mm)含む 焼土粒子(φ3~5mm)少量 粘性あり しまり弱 (掘方)
- 第12号埋設桶
 1 灰褐色土 シルト粒子(φ2~3cm)含む 炭化物粒子(φ2~5mm)少量 粘性極めて弱 しまりあり (掘方)
 2 暗灰褐色土 シルト質 炭化物粒子・焼土粒子(φ2~3mm)少量 粘性・しまりあり (掘方)

第30図 埋設桶 (1)



- 第 13 号埋設桶
- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子多量 焼土粒子含む 砂少量 粘性なし しまり弱
 - 2 灰褐色土 砂質 炭化物粒子・砂含む 焼土粒子少量 粘性・しまりあり
 - 3 灰褐色土 砂質 炭化物粒子・褐鉄粒子・砂少量 粘性弱 しまりあり (掘方)
- 第 14 号埋設桶
- 1 灰褐色土 シルト 炭化物粒子・焼土粒子微量 砂粒少量 粘性弱 しまりあり
 - 2 暗灰褐色土 シルト 炭化物粒子多量 木皮片少量 粘性弱 しまりあり
 - 3 暗灰褐色土 シルト 炭化物粒子・砂・褐鉄粒子少量 粘性弱 しまりあり
 - 4 掘方
- 第 15 号埋設桶
- 1 暗灰褐色土 シルト質 灰色シルトブロック・砂少量 炭化物粒子含む 褐鉄粒子多量 粘性・しまりあり
 - 2 暗灰褐色土 シルト・砂少量 炭化物粒子・褐鉄粒子少量 粘性・しまりあり
 - 3 褐色土 砂質 炭化物粒子少量 粘性弱 しまり極めて弱 (掘方)
- 第 16 号埋設桶
- 1 灰褐色土 砂質シルト シルトブロック多量 褐鉄粒子少量 粘性極弱 しまりあり
 - 2 暗灰褐色土 砂質 炭化物粒子少量 褐鉄粒子・砂多量 粘性・しまりなし
 - 3 灰褐色土 砂質 炭化物粒子少量 粘性あり しまり極めて弱 (掘方)
- 第 17 号埋設桶
- 1 灰褐色土 シルト多量 炭化物粒子・褐鉄粒子・砂少量 粘性・しまりあり
 - 2 灰褐色土 シルト多量 炭化物粒子・砂少量 粘性極めて弱 しまりあり (掘方)
- 第 18 号埋設桶
- 1 黒褐色土 シルト 砂粒多量 しまり弱 粘性弱
 - 2 暗灰褐色土 シルト質 炭化物粒子・焼土粒子含む 粘性あり しまり弱
 - 3 灰褐色土 砂質シルト 炭化物粒子・焼土粒子少量 粘性なし しまり極弱 (掘方)
- 第 20 号埋設桶
- 1 灰褐色土 シルト 砂粒微量 粘性弱 しまりあり
 - 2 暗赤褐色土 炭化物ブロック・焼土ブロック量
 - 3 炭化材層
 - 4 灰褐色土 シルト 炭化物粒子・鉄粒子少量 粘性なし しまりあり (掘方)
- 第 21 号埋設桶
- 1 灰褐色土 シルト 灰白色シルト粒子多量 粘性弱 しまりあり
 - 2 暗褐色土 シルト 砂少量 木片等含む 粘性・しまり弱
 - 3 暗灰褐色土 シルト 炭化物粒子微量 木片少量 粘性弱 しまりあり
 - 4 明灰褐色土 砂質シルト 炭化物粒子・鉄粒子含む 粘性なし しまり弱
 - 5 暗褐色土 シルト 砂 炭化物粒子少量 しまりあり (掘方)
- 第 22 号埋設桶
- 1 暗褐色土 砂質 砂多量 炭化物粒子微量 粘性なし しまり弱
 - 2 暗褐色土 シルト 炭化物粒子・焼土粒子微量 砂少量 粘性あり しまり弱
 - 3 暗灰褐色土 砂質 炭化物粒子少量 粘性・しまりなし (掘方)
- 第 23 号埋設桶
- 1 暗灰褐色土 シルト 砂少量 粘性弱 しまりあり 埋戻し
 - 2 明灰褐色土 シルト 砂少量 粘性弱 しまりあり 埋戻し
- 第 24 号埋設桶
- 1 暗灰褐色土 シルト 砂粒・炭化物粒子・焼土粒子含む 粘性弱 側板腐食 埋戻し
 - 2 暗灰褐色土 シルト 炭化物粒子・砂少量 粘性あり しまり弱 (掘方)
- 第 25 号埋設桶
- 1 暗灰褐色土 シルト 炭化物粒子・木皮片多量 粘性弱 しまり弱
 - 2 黄褐色土 シルト多量 (黄褐色に変色) 木質含む 粘性・しまりなし 埋戻し
 - 3 灰褐色土 炭化物粒子少量 焼土粒子・黄褐色粒子含む 粘性・しまりあり (掘方)
 - 4 暗灰褐色土 シルト質 炭化物粒子・焼土粒子多量 粘性あり しまり弱 (掘方)

第 31 図 埋設桶 (2)



第26号埋設桶

- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・砂少量 粘性・しまりあり
- 2 灰褐色土 シルト質 シルトブロック・炭化物粒子・焼土粒子少量 粘性・しまりあり
- 3 灰褐色土 シルト質 炭化物粒子・砂少量 粘性弱 しまりあり (掘方)

第27・28号埋設桶

- 1 暗褐色砂質土 砂質土主体 鉄粒子(φ1mm)少量 粘性・しまりなし (桶27)
- 2 暗褐色砂質シルト シルトブロック・砂少量 木質の腐植土 粘性弱 しまりあり (桶27)
- 3 橙褐色砂質土 砂質土主体 鉄粒子(φ1mm)少量 粘性なし しまり弱 (桶28)
- 4 灰褐色砂質土 砂質土主体 シルト少量 粘性なし しまりあり (桶28)
- 5 橙褐色砂質土 砂質土主体 炭化物粒子(φ3~5mm)・鉄粒子少量 粘性なし しまりあり (桶28)
- 6 暗褐色砂質シルト シルトブロック多量 砂少量 粘性なし しまりあり (桶28)
- 7 暗灰褐色土 掘方

第29号埋設桶

- 1 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ3~5mm)少量 シルトブロック・砂含む 粘性なし しまりあり
- 2 暗灰褐色シルト質土 炭化物粒子含む 砂少量 鉄粒子少量 粘性なし しまりあり (掘方)

第30号埋設桶

- 1 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子・鉄粒子少量 粘性あり しまり極弱
- 2 暗灰褐色土 炭化物粒子(φ1~2mm)・焼土粒子少量 シルト・砂含む 粘性あり しまりなし (掘方)

第31号埋設桶

- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子少量 シルト含む 粘性弱 しまり極弱
- 2 暗灰褐色土 焼土粒子・炭化物粒子多量 シルト含む 粘性あり しまり極弱 (掘方)

第32号埋設桶

- 1 明褐色土 炭化物粒子含む 鉄粒子・砂少量 粘性なし しまりあり
- 2 灰褐色砂質土 鉄粒子多量 砂・シルト含む 粘性弱 しまりあり
- 3 暗灰褐色土 炭化物粒子・砂少量 粘性なし しまり弱 (掘方)

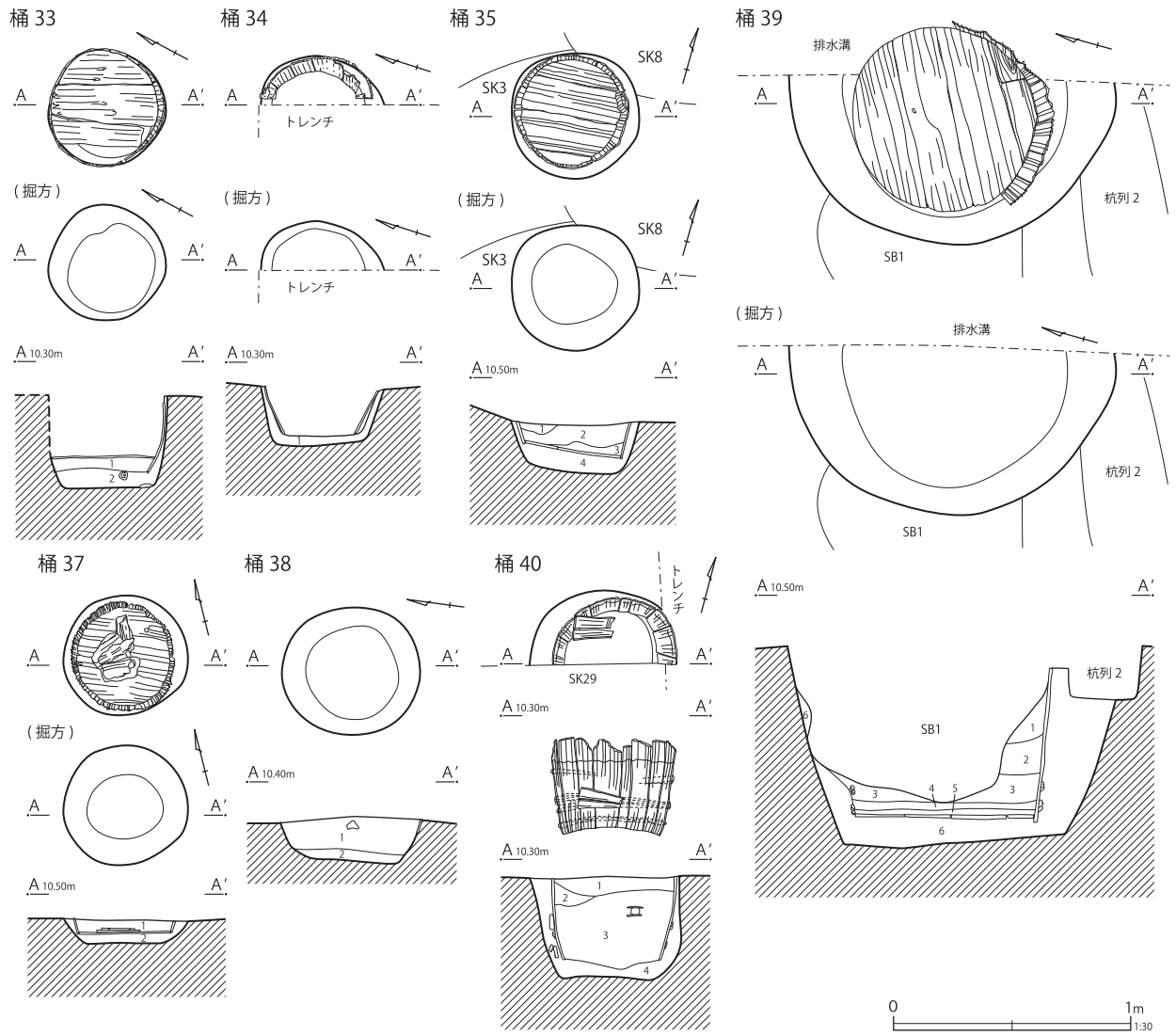
第36号埋設桶

- 1 暗灰褐色土 シルト・炭化物粒子含む 焼土粒子・砂少量 粘性なし しまりあり
- 2 暗灰褐色砂質土 炭化物粒子・焼土粒子含む 砂多量 粘性・しまり弱
- 3 暗灰褐色シルト質土 シルトブロック・炭化物ブロック 斑状に多量 砂・褐鉄少量 粘性あり しまり極弱 (掘方)

第43号埋設桶

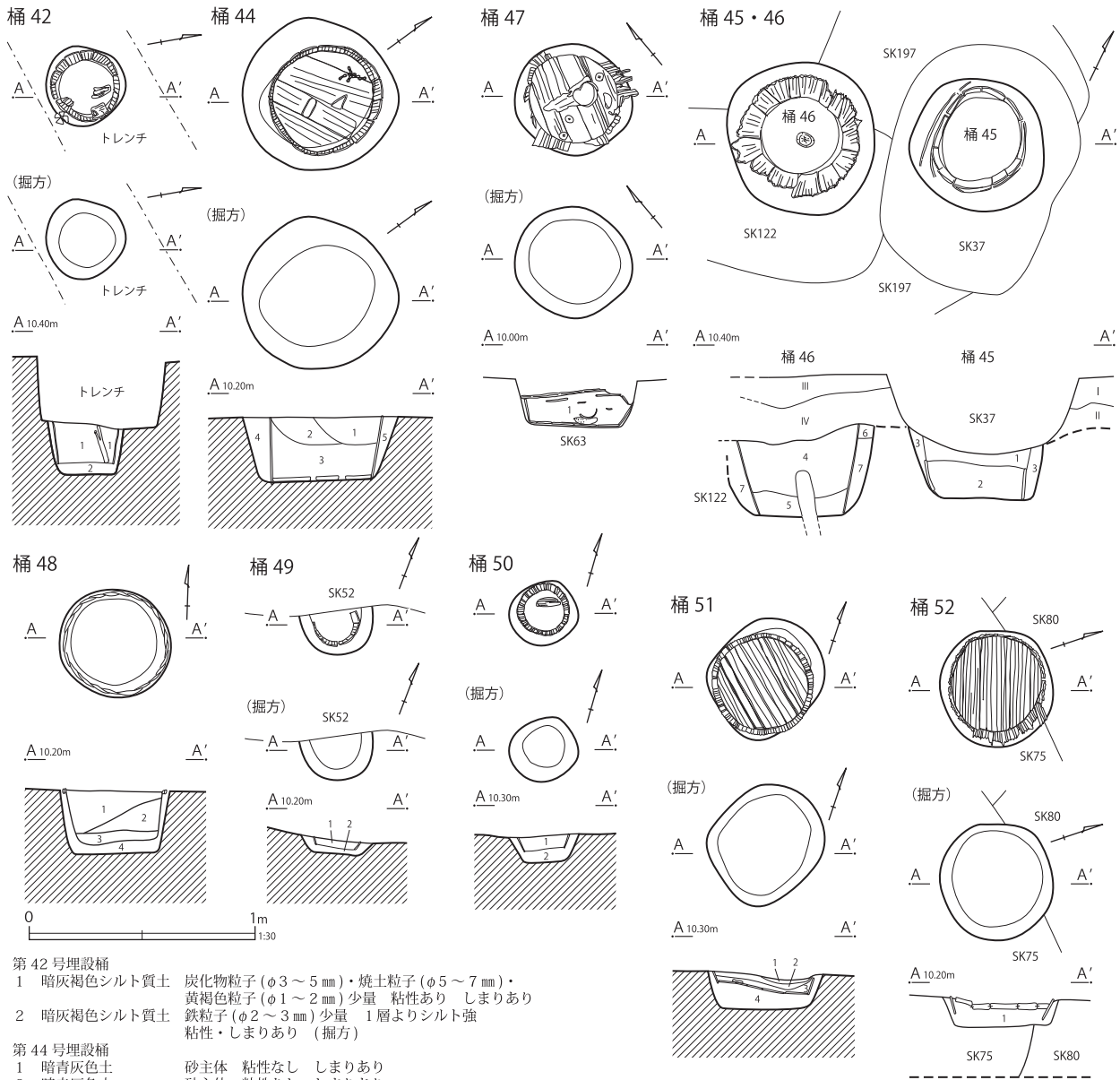
- 1 橙褐色砂質土 焼土ブロック含む シルト粒子少量 粘性弱 しまりあり (掘方)

第32図 埋設桶 (3)



- 桶 37
- 桶 38
- 桶 40
- 桶 41
- 第 33 号埋設桶
 1 灰褐色土 炭化物粒子 (φ2~3mm)・焼土粒子 (φ1~2mm) 少量 鉄粒子含む シルト多量 粘性・しまりあり (掘方)
 2 灰褐色土 炭化物粒子 (φ3~5mm)・焼土粒子 (φ1mm) 少量 炭化物ブロック含む 粘性・しまりあり (掘方)
- 第 34 号埋設桶
 1 灰褐色土 炭化物粒子 (φ1~2mm)・鉄粒子 (φ2~3mm) 少量 シルト・砂含む 粘性・しまりあり (掘方)
- 第 35 号埋設桶
 1 暗灰褐色シルト質土 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 シルト質土主体 粘性なし しまりあり
 2 橙褐色土 炭化物ブロック (φ5~10mm) 少量 焼土粒子 (φ3~5cm) 多量 シルト含む 粘性なし しまり強
 3 炭化物
 4 暗灰褐色シルト質土 炭化物粒子 (φ1~2mm)・砂少量 粘性あり しまり弱 (掘方)
- 第 37 号埋設桶
 1 明灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ1~2mm)・鉄粒子少量 粘性弱 しまりなし
 2 暗灰褐色土 炭化物粒子 (φ2~3mm)・焼土粒子 (φ2~3mm)・シルト・砂少量 粘性・しまりなし (掘方)
- 第 38 号埋設桶
 1 明灰褐色土 炭化物ブロック (φ1~3cm)・焼土ブロック・シルトブロック斑状に多量 粘性・しまりあり
 2 灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ1~2mm)・鉄粒子少量 粘性なし しまり弱
- 第 39 号埋設桶
 1 暗灰褐色土 粘質土を主体とする 炭化木・焼土塊を混入
 2 暗灰褐色土 1層より混入物少ない
 3 暗黄褐色砂質土 砂を多量に含み・酸化したためか褐色を呈する
 4 暗黒色土 粘土質で混入物は殆んど含まない
 5 灰褐色砂 砂の純層である
 6 黒褐色土 黒褐色の粘質土を主体 炭化木小ブロックを混入 (掘方)
- 第 40 号埋設桶
 1 明灰褐色砂質シルト 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 焼土粒子 (φ1~2mm)・鉄粒子・シルト粒子 (φ2~3mm) 含む 1mm厚で長さ5mmの橙色粒子やや多量 粘性なし しまりあり
 2 橙褐色砂質土 (焼土・炭) 炭化物粒子 (φ5~6mm)・焼土粒子極多量 シルト粒子 (φ3~5mm) 少量 粘性弱 しまりあり
 3 灰褐色砂質シルト (やや暗めの色) 炭化物粒子 (φ3~7mm)・焼土粒子 (φ3~5mm) 少量 シルト粒子 (φ3~10mm) 斑状に多量 粘性・しまりあり
 4 灰褐色砂質シルト 焼土粒子 (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ2~3mm)・砂ブロック (φ3~5cm) 少量 粘性・しまりあり (掘方)

第 33 図 埋設桶 (4)



第42号埋設桶

- 1 暗灰褐色シルト質土 炭化物粒子 (φ3~5mm)・焼土粒子 (φ5~7mm)・黄褐色粒子 (φ1~2mm) 少量 粘性あり しまりあり
- 2 暗灰褐色シルト質土 鉄粒子 (φ2~3mm) 少量 1層よりシルト強 粘性・しまりあり (掘方)

第44号埋設桶

- 1 暗青灰色土 砂主体 粘性なし しまりあり
- 2 暗赤灰色土 砂主体 粘性なし しまりあり
- 3 褐灰色土 砂主体 暗青灰色土シルト少量 粘性弱 しまりあり
- 4 赤褐色土 砂質 暗青灰色土が混入 焼土粒子 (φ3~5mm)・炭 (φ10mm) 少量 粘性なし しまりあり (掘方)
- 5 暗赤灰色土 砂主体 粘性なし しまりあり (掘方)

第45・46号埋設桶

- I 橙褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~3mm) 含む 焼土粒子 (φ2~5mm) 多量 粘性なし しまりあり
- II 暗灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~5mm) 含む 鉄粒子 (φ2~3mm)・シルト粒子 (φ3~5mm) 少量 粘性弱 しまりあり
- III 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子 (φ2~3mm)・焼土粒子少量 粘性なし しまりあり
- IV 灰褐色砂質シルト 焼土粒子 (φ1~3mm) 含む シルトブロック (φ1~4cm) 多量 粘性弱 しまりあり
- 1 暗褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 鉄粒子 (φ1~2mm)・シルト粒子 (φ2~3mm) 含む 粘性・しまりあり (桶45)
- 2 暗灰褐色砂質シルト 鉄粒子 (φ2~3mm) 含む シルトブロック (φ5~15mm) 斑状にやや多量 粘性・しまりあり (桶45の掘方)
- 3 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子 (φ2~3mm)・鉄粒子含む 粘性・しまりあり (桶45の掘方)
- 4 灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~3mm) 含む 焼土粒子多量 粘性あり しまり弱 (桶46)
- 5 灰色砂質土 4層より砂質強 粘性なし しまり極弱 (桶46)
- 6 暗灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~3mm)・鉄粒子 (φ2mm) 少量 シルト含む 粘性・しまりあり (桶46の掘方)
- 7 暗灰褐色シルト 橙褐色粒子 (φ2~3mm) 含む 粘性・しまりあり (桶46の掘方)

第47号埋設桶

- 1 暗灰色土 砂質シルト 粘性・しまり弱 砂粒多量

第48号埋設桶

- 1 暗黒褐色土 炭化木・焼土粒子少量
- 2 黄褐色土 1層と粘土ブロックが混在している
- 3 黒褐色土 混入物は殆んどなく・若干粘性がある
- 4 掘方

第49号埋設桶

- 1 灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~5mm) 含む シルト粒子 (φ3~5mm) 少量 粘性あり しまりなし
- 2 灰褐色砂質土 鉄粒子 (φ2~3mm) 少量 炭化物粒子 (φ3~7mm)・シルト粒子少量 粘性・しまりあり

第50号埋設桶

- 1 灰褐色砂質土 炭化物粒子 (φ2~3mm)・シルト粒子含む 橙色粒子 (φ1~2mm) 少量 粘性・しまりあり

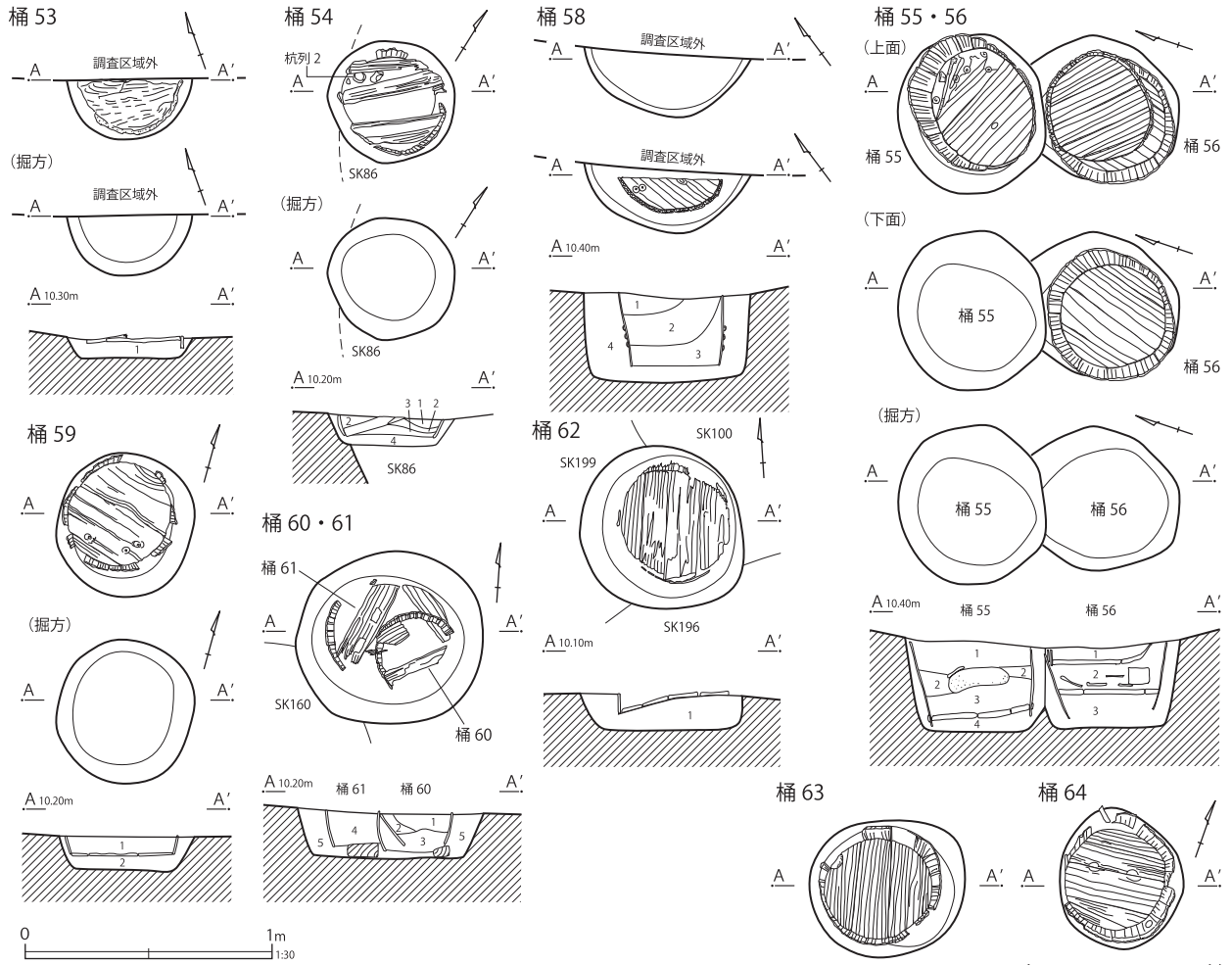
第51号埋設桶

- 1 褐色砂質土 1~2mm大の褐鉄粒子少量 粘性あり しまりややあり
- 2 暗褐色シルト質土 2~5mm大の炭化物粒子含む (有機質の腐蝕により黒変したシルト) 粘性あり しまりやや強

第52号埋設桶

- 1 掘方 2~3mm大の褐鉄粒子含む 砂主体 粘性なし しまりややなし 砂と粘土をブロック状に混在する (掘方)

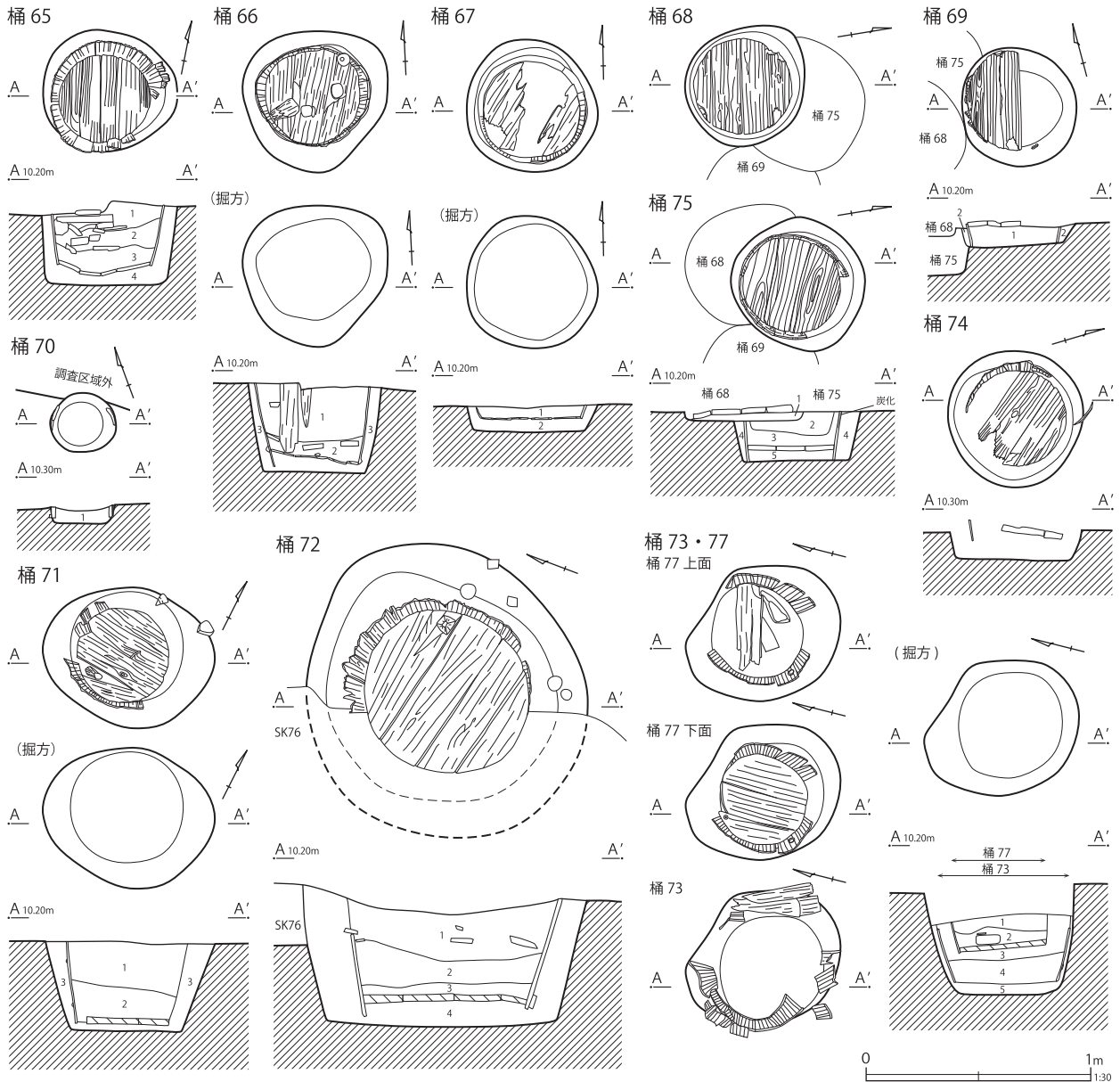
第34図 埋設桶 (5)



- 第53号埋設桶
 1 灰褐色砂質土 炭化物粒子(φ2~3mm)含む シルト粒子(φ1~2mm)少量 粘性なし しまり極めて弱 (掘方)
- 第54号埋設桶
 1 明灰褐色砂質土 鉄粒子(φ1~2mm)含む シルト粒子少量 粘性弱 しまりなし
 2 暗灰褐色シルト質土 炭化物粒子(φ1~2mm)・焼土粒子少量 粘性あり しまり弱
 3 灰褐色シルト質土 鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性弱 しまりあり
 4 掘方
- 第55号埋設桶
 1 灰褐色砂質シルト 砂質土主体 シルトブロック(φ5~10mm)含む 黄橙色粒子(φ2~5mm)・炭化物粒子(φ2~10mm)少量
 2 暗灰褐色土 シルト粒子(φ2~3mm)少量 有機物多量 腐食木質含む 粘性あり しまり弱
 3 暗灰褐色砂層 砂主体 粘性・しまりなし
 4 灰褐色砂質シルト 鉄粒子(φ2~3mm)・橙色粒子・シルトブロック含む 炭化物粒子少量 粘性あり しまりあり (掘方)
- 第56号埋設桶
 1 暗灰褐色砂質シルト 焼土粒子(φ2~5mm)・シルト含む 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 粘性あり しまりあり
 2 暗灰褐色砂質シルト 黄橙色粒子(φ3~5mm)多量 粘性・しまりあり
 3 灰褐色砂質土 炭化物粒子(φ1~2mm)・シルト粒子(φ3~5mm)少量 鉄粒子含む 粘性・しまりあり (掘方)
- 第58号埋設桶
 1 灰褐色砂質土 焼土粒子(φ2~3mm)多量 炭化物粒子(φ1~2mm)少量 粘性弱 しまりなし
 2 橙褐色焼土層 焼土ブロック(φ3~5cm)極多量 シルト(φ2~3mm)少量 粘性なし しまりあり
 3 黒褐色炭化物層 炭化物粒子(φ2~3cm)極多量 粘性弱 しまりなし
 4 掘方
- 第59号埋設桶
 1 灰褐色砂質シルト 鉄粒子(φ1~2mm)・黄橙色粒子(φ2~3mm)含む シルト粒子(φ2~3mm)斑状に含む 粘性弱 しまりあり
 2 掘方

- 第60・61号埋設桶
 1 暗灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ2~5mm)やや多量 シルト粒子(φ3~7mm)斑状に含む 鉄粒子(φ2~3mm)含む 粘性弱 しまりなし (桶60)
 2 灰褐色砂質土 黄橙色粒子(φ2~3mm)・炭化物粒子(φ1~2mm)・シルト粒子少量 砂主体 粘性・しまりなし (桶60)
 3 灰褐色砂質土 鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性・しまりなし (桶60)
 4 灰褐色砂質シルト 鉄粒子(φ2~3mm)・焼土粒子(φ1~2mm)少量 シルト粒子(φ2~3mm)・炭化物粒子(φ2~3mm)含む 粘性・しまりあり (桶61)
- 5 掘方
- 第62号埋設桶
 1 暗灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ1~2mm)少量 シルト含む 粘性弱 しまりあり (掘方)
- 第63号埋設桶
 1 暗灰褐色土 砂質シルト 橙褐色粒子(φ2~3mm)・シルト粒子(φ2~3mm)少量 木片含む 粘性・しまりあり
 2 灰褐色砂質シルト 焼土粒子(φ1~2mm)・シルト(φ2~3mm)少量 粘性あり しまりややあり (掘方)
- 第64号埋設桶
 1 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ5~10mm)・焼土粒子(φ1~2mm)少量 粘性・しまりあり
 2 橙褐色土 焼土層 焼土ブロック(φ3~10mm)・瓦多量 炭化物粒子(φ5~10mm)含む 黄橙色粒子(φ2~3mm)少量 粘性・しまりなし
 3 黒褐色土 炭化物層 炭化物ブロック(φ5~10mm)極多量 粘性なし しまり弱
 4 黒褐色土 シルト質 炭化物粒子少量 砂粒子含む (掘方)

第35図 埋設桶(6)

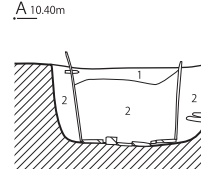
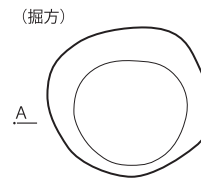
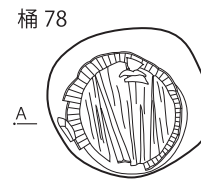
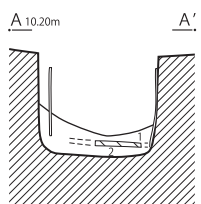
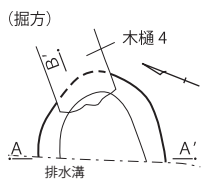
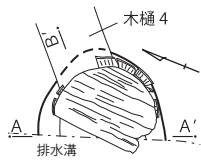


- 第65号埋設桶
 1 灰褐色土 砂質シルト シルト粒子(φ2~3mm)含む 粘性・しまりあり
 2 暗灰褐色土 炭化物粒子、シルト粒子(φ2~3mm)少量 粘性・しまりあり
 3 暗灰褐色土 シルト質 酸化鉄粒子少量 粘性やや強 しまりあり
 4 掘方
- 第66号埋設桶
 1 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ2~3mm)・鉄粒子少量 シルト粒子(φ5~7mm)多量 粘性なし しまりあり
 2 橙褐色砂質土 焼土粒子(φ2~3mm)・瓦多量 砂・シルト含む 粘性なし しまり強 (掘方)
 3 灰褐色砂質土 炭化物粒子・焼土粒子(φ2~3mm)少量 シルト粒子(φ2~5mm)含む 粘性あり しまりあり (掘方)
- 第67号埋設桶
 1 灰褐色砂質シルト シルト粒子(φ2~3mm)少量 炭化物粒子(φ2~5mm)少量 粘性なし しまりなし
 2 灰褐色砂質土 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 焼土粒子(φ2~3mm)少量 粘性なし しまり極弱 (掘方)
- 第68・75号埋設桶
 1 灰色土 砂質 しまり弱 粘性なし (桶68の掘方)
 2 赤褐色土 砂質 焼土ブロック多量 しまりあり 粘性なし (桶75)
 3 灰色土 灰層 しまり弱 (桶75)
 4 黒褐色土 シルト質 炭化物粒子少量 しまり弱 粘性ややあり (桶75の掘方)
 5 砂層 しまり弱 粘性なし (桶75の掘方)

- 第69号埋設桶
 1 灰褐色砂 しまり・粘性なし (掘方)
 2 黒褐色土 シルト質 炭化物粒子少量 粘性・しまり弱 (掘方)
- 第70号埋設桶
 1 灰褐色砂質土 褐鉄粒子(φ1~2mm)少量 黄褐色粒子(φ1~2mm)・シルト含む 粘性弱 しまりあり
- 第71号埋設桶
 1 灰褐色砂質土 褐鉄粒子(φ2~3mm)・炭化物粒子(φ2~3mm)含む シルト粒子少量 瓦多量 粘性あり しまり極弱
 2 暗灰褐色シルト 砂含む 鉄粒子少量 粘性あり しまり極弱
 3 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ3mm)少量 粘性弱 しまりあり (掘方)
- 第72号埋設桶
 1 暗褐色土 炭化木と少量の焼土混入
 2 淡青灰色土 砂質土主体 炭化木多量
 3 黒色木炭層 炭化木主体 下部に薄く灰色砂堆積
 4 掘方
- 第73・77号埋設桶
 1 灰色砂質土 橙色粒子(φ2~3mm)少量 シルト粒子(φ1~2cm)含む 粘性あり しまりあり (桶77)
 2 暗灰褐色砂質シルト 焼土粒子(φ2~3mm)少量 粘性なし しまりあり (桶77)
 3 暗灰褐色シルト 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 粘性・しまりあり (桶77の掘方)
 4 灰褐色砂質シルト 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 粘性強 しまりあり (桶73)
 5 暗灰褐色シルト 粘性あり しまり弱 (桶73の掘方)

第36図 埋設桶(7)

桶 76



第 76 号埋設桶

- 1 灰褐色砂質土
- 2 灰褐色砂質土

砂主体 炭化物 (φ2~3mm) 少量 粘性・しまりなし
炭化物粒子 (φ5~15mm) 含む 焼土 (φ2~3mm) 少量
シルト含む 粘性なし しまり極弱 (掘方)

第 78 号埋設桶

- 1 灰褐色砂質シルト
- 2 灰褐色砂質シルト

炭化物粒子 (φ3~5mm) 含む 焼土粒子 (φ1~2mm)・
シルト粒子少量 粘性あり しまりあり
炭化物粒子 (φ3~5mm) 少量 焼土粒子 (φ2~3mm)
含む 粘性・しまりあり

第 79 号埋設桶

- 1 灰色土
- 2 灰褐色土
- 3 暗灰褐色土
- 4 暗灰色土

砂質 炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 酸化鉄粒子 (φ2~5mm)
・シルト粒子 (φ3~5mm) 多量 粘性なし しまりあり
シルト質 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 酸化鉄粒子 (φ2~
3mm) 多量 粘性弱 しまり強
シルト質 酸化鉄粒子 (φ2~3mm)・シルト粒子 (φ5~
6mm) 含む 粘性やや強 しまりやや弱
粘土ブロック多量 炭化物少量 しまり強 (掘方)

第 80 号埋設桶

- 1 灰色土
- 2 暗灰色土

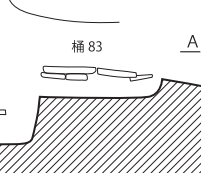
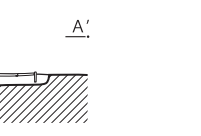
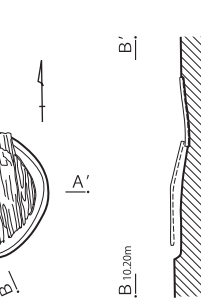
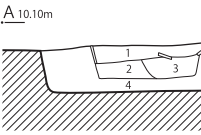
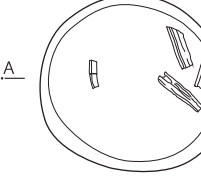
砂質 炭化物粒子 (φ1~2mm)・シルト粒子少量 粘性なし
しまり弱
粘土ブロック多量 炭化物少量 (掘方)

第 81 号埋設桶

- 1 暗褐色土

砂粒を多量に含むが均一な層である しまり強

桶 79



第 82 号埋設桶

- 1 灰褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 灰褐色土

砂質シルト 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量 シルト
粒子 (φ2~10mm) 含む 木質多量 粘性なし
しまり強
炭化木・板材片多量 しまり弱 (掘方)
砂質土 炭化木わずかに混入 (掘方)

第 84 号埋設桶

- 1 褐色土
- 2 褐色土
- 3 黒褐色土

炭化木、酸化鉄多量 しまり強
炭化木顕著 酸化鉄多量 しまり強
均一な層 炭化物粒子少量

第 86 号埋設桶

- 1 灰褐色砂質土
- 2 暗灰褐色シルト質土
- 3 灰色砂質シルト
- 4 灰褐色シルト質土

炭化物粒子 (φ2~3mm)・シルト粒子 (φ3~5mm)
少量 粘性弱 しまりあり
炭化物粒子 (φ2~5mm)・シルト粒子 (φ5~15mm)
含む 粘性・しまりあり
炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量 粘性・しまりあり
(掘方)

第 87 号埋設桶

- 1 灰褐色土
- 2 暗褐色土

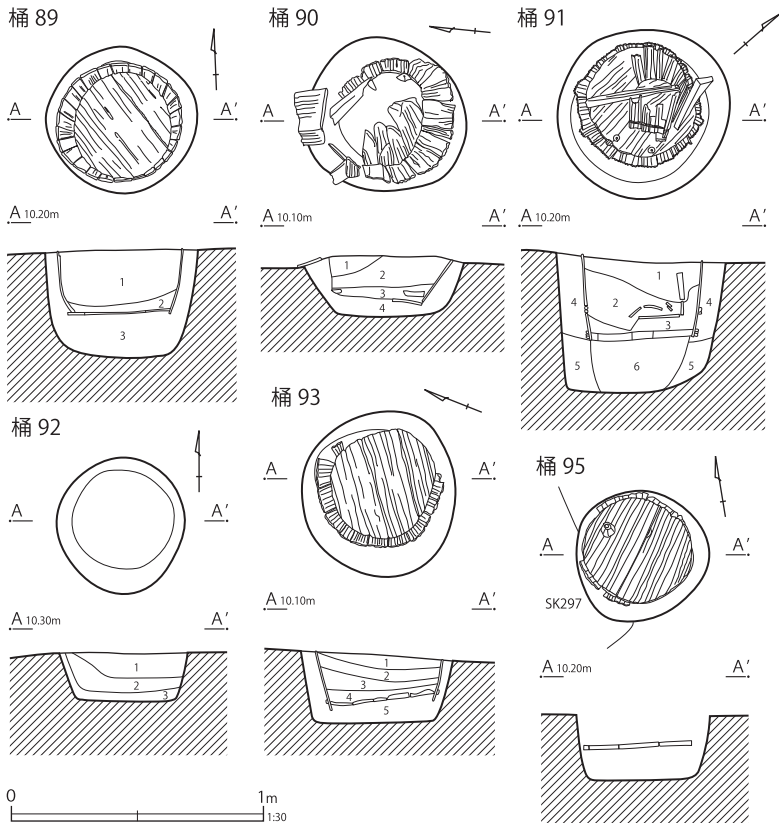
粘土ブロック、炭化物少量 (掘方)
酸化鉄多量 (掘方)

第 88 号埋設桶

- 1 灰褐色土
- 2 暗褐色土

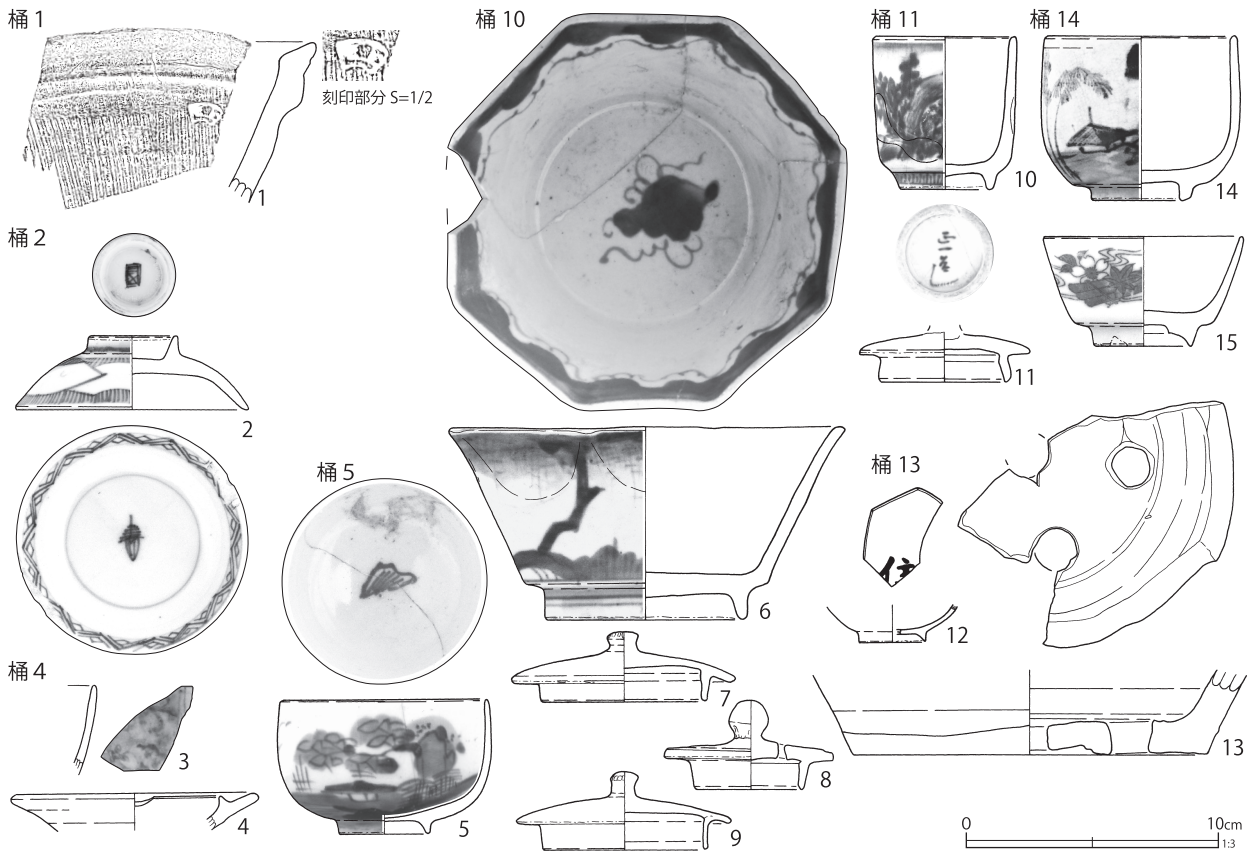
粘性・しまりあり (掘方)

第 37 図 埋設桶 (8)

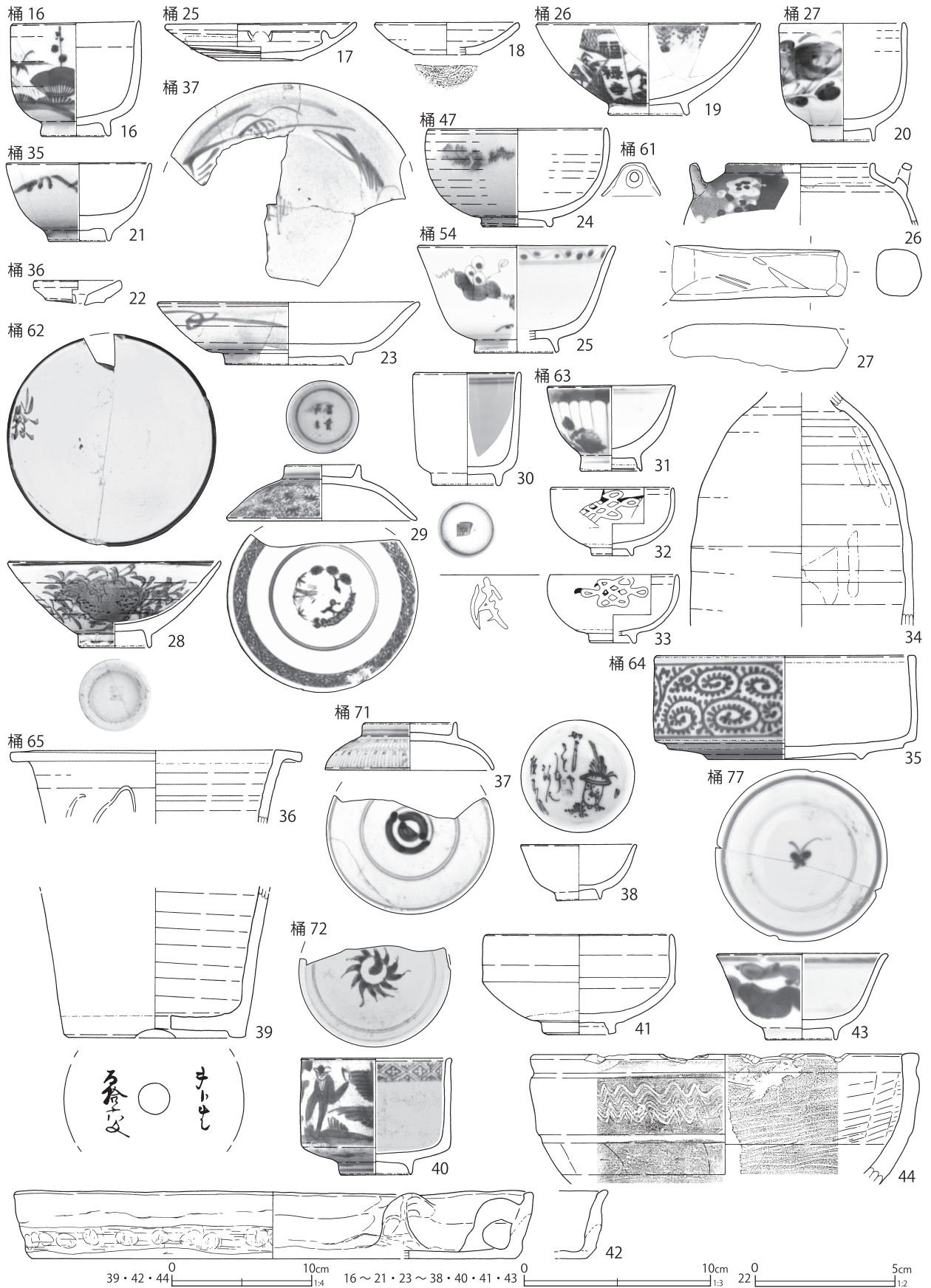


- 第89号埋設桶
 1 暗褐色土 比較的均質な層 焼土粒子・砂粒微量
 2 黒褐色土 炭化木、板材混入 粘性あり
 3 黒褐色土 粘性あり (掘方)
- 第90号埋設桶
 1 黄褐色土 粘質 砂多量
 2 暗黒褐色土 粘質 炭化粒子多量 灰色砂質土
 小ブロック斑に混入
 3 暗黒褐色土 粘質 炭化粒子多量 灰色砂質土
 小ブロック斑に混入
- 4 掘方
- 第91号埋設桶
 1 灰褐色土 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・瓦含む 砂混入
 2 黒褐色土 炭化物多量 炭化物ブロック・焼土ブロック含む
 3 黄褐色砂 混入物なし
 4 暗褐色土 木片・炭化物少量 (掘方)
 5 灰色土 粘質土 混入物なし (掘方)
 6 暗灰褐色土 炭化物少量 粘質 硬い (掘方)
- 第92号埋設桶
 1 焼土層 焼土粒子・炭化物粒子顕著
 2 焼土層 硬い焼土ブロック多量
 3 黒色土 炭化物層 炭化物粒子主体
- 第93号埋設桶
 1 灰褐色土 砂質シルト 炭化物(φ1~2mm)含む
 しまりあり
 2 黒色土 粘性シルト 炭に似た黒い土
 しまりなし
 3 暗灰色土 砂質シルト 炭化物(φ1mm)含む
 しまりあり
 4 灰褐色土 砂層(φ1mmまで) しまりなし
 5 暗灰色土 砂質シルト 炭化物(φ5~10mm)・灰褐色シルトブロック(φ2~3mm未風化)多量 しまりややあり
 粘性あり (掘方)

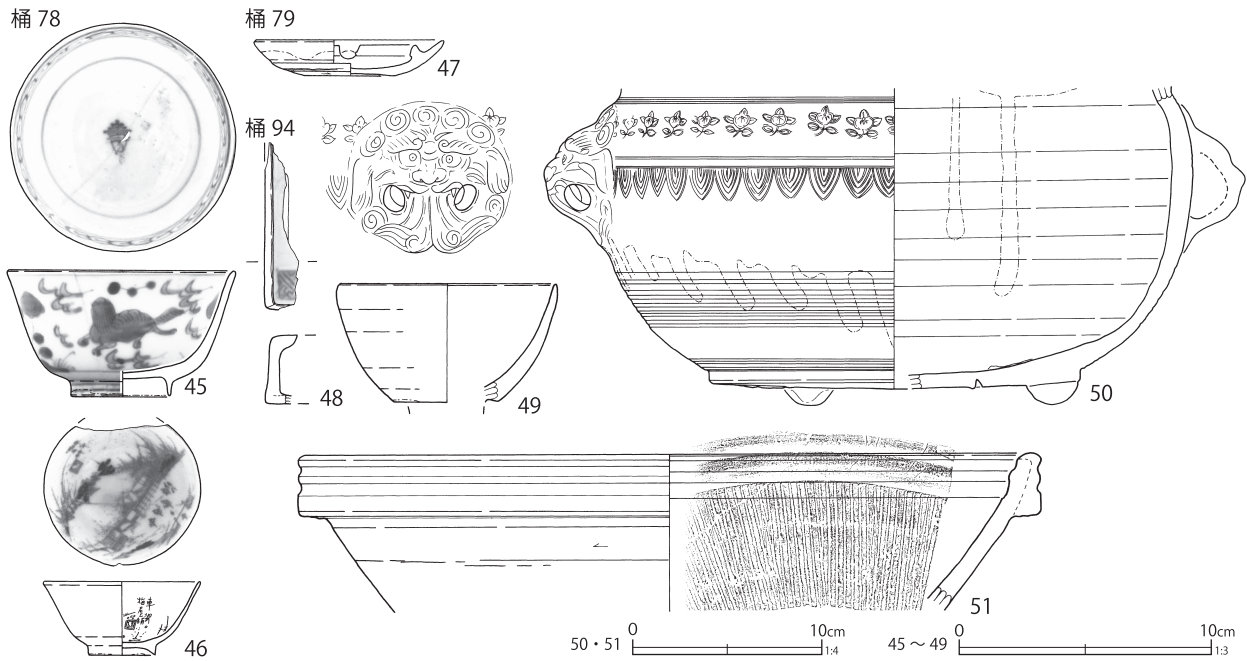
第38図 埋設桶 (9)



第39図 埋設桶出土遺物 (1)



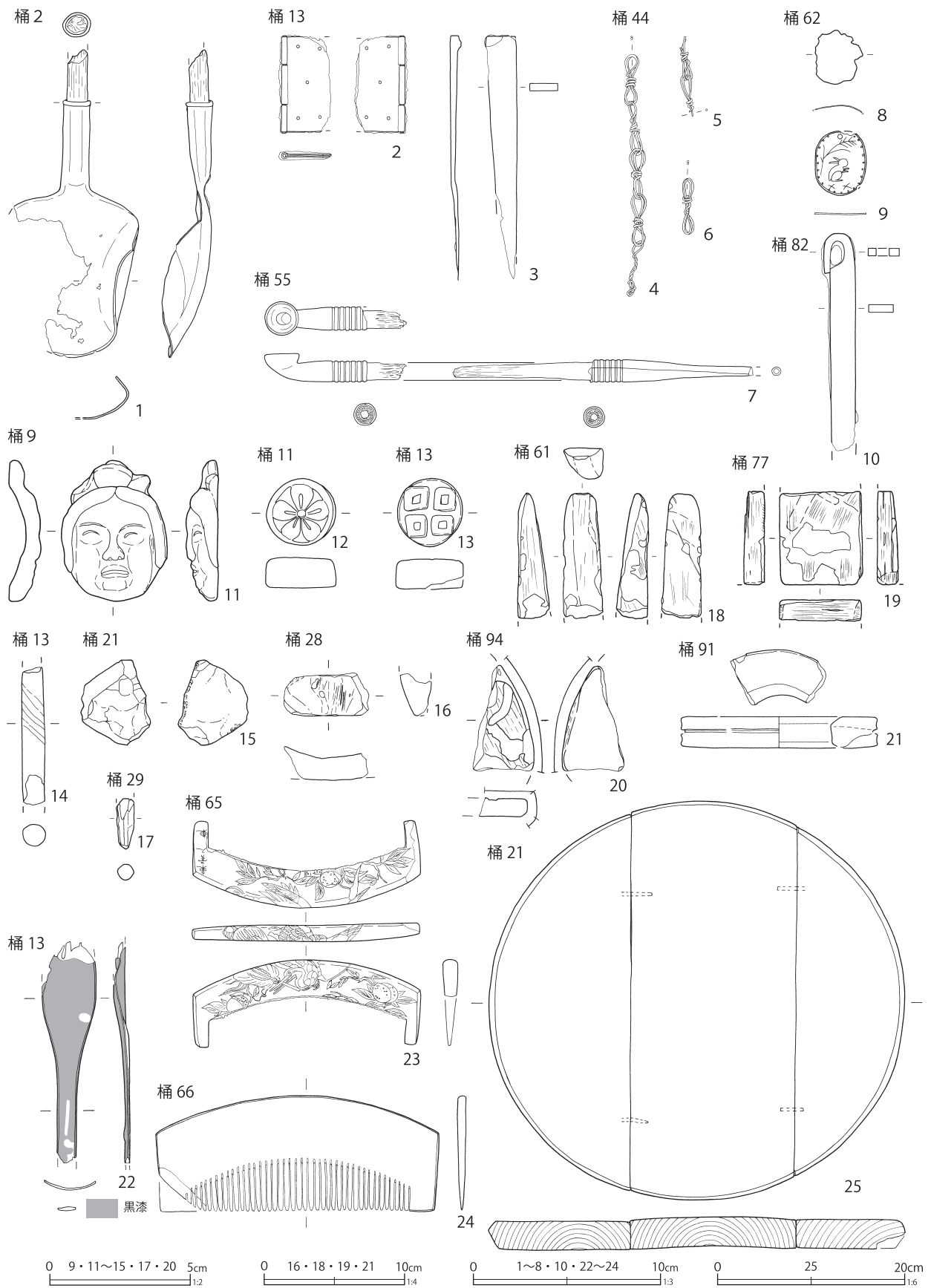
第 40 図 埋設桶出土遺物 (2)



第41図 埋設桶出土遺物(3)

第7表 埋設桶出土遺物観察表(1)(第39~41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	播鉢	—	[6.3]	—	I	5	普通	灰白	桶1	堺明石系 内面播目・刻印	
2	磁器	蓋	3.4	2.9	9.0	—	95	良好	白	桶2	瀬戸美濃系 施釉・染付	
3	磁器	碗	—	[3.5]	—	—	5	良好	白	桶4	肥前系 施釉 外面色絵	
4	施釉土器	灯明皿	(9.4)	[1.4]	—	IK	15	良好	橙	桶4	透明釉	
5	磁器	碗	8.1	5.3	3.5	—	100	良好	白	桶5	肥前系 施釉・染付	
6	磁器	鉢	15.3	7.6	7.7	—	75	良好	白	桶10	肥前系 施釉・染付 弱く被熱	
7	陶器	蓋	—	2.7	6.4	IK	100	良好	灰白	桶10	上面青緑釉 つまみ菊花状 最大径8.8	
8	陶器	蓋	—	3.5	4.2	HK	95	良好	灰黄	桶10	外面青緑釉 穿孔1 つまみ球形 最大径6.7(土瓶)	
9	陶器	蓋	—	3.1	6.3	K	70	良好	灰白	桶10	大塚相馬系か 上面糠白釉(貫入多い) 最大径8.5(土瓶)	
10	磁器	坏	5.4	6.0	3.5	—	95	良好	白	桶11	瀬戸美濃系 施釉 酸化コバルト染付 外面一部色絵(緑)・しのぎ状窪み	
11	陶器	蓋	—	[1.9]	5.0	DK	90	普通	にぶい黄橙	桶11	松岡系 上面灰釉・縁辺部は海鼠釉状 最大径6.6(土瓶)	
12	磁器	坏	—	[1.6]	(2.6)	—	20	良好	白	桶13	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付(青)	
13	瓦質土器	焜炉	—	[3.4]	(14.0)	CIK	15	普通	にぶい橙	桶13	被熱・赤化 焜炉部品	
14	磁器	碗	7.3	6.5	3.2	—	95	不良	灰白	桶14	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
15	磁器	坏	(7.8)	4.3	3.8	—	55	普通	白	桶14	瀬戸美濃系 施釉 外面銅版転写染付	
16	磁器	碗	6.7	6.1	3.5	—	95	良好	白	桶16	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
17	陶器	灯明皿	10.0	2.0	4.4	—	90	良好	灰褐	桶25	瀬戸美濃系 柿釉・重焼痕	
18	施釉土器	灯明皿	(7.5)	1.7	(3.5)	H	30	良好	にぶい橙	桶25	底部糸切痕 透明釉 口縁部煤付着	
19	磁器	碗	(11.8)	4.7	(4.1)	—	50	良好	白	桶26	瀬戸美濃系 施釉・銅版転写染付	
20	磁器	碗	(6.5)	6.3	3.3	—	80	良好	灰白	桶27	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
21	磁器	坏	(7.6)	4.2	3.2	—	40	普通	灰白	桶35	肥前系 施釉 外面染付	
22	かわらけ	小皿	3.0	0.8	2.1	AK	100	普通	にぶい橙	桶36	底部糸切痕・焼成前穿孔	
23	陶器	皿	(13.0)	3.4	6.4	I	40	普通	灰白	桶37	桶31 接合 施釉・染付(太白手)	
24	陶器	碗	9.5	5.2	3.5	IK	95	良好	灰白	桶47	京都信楽系 施釉 外面鉄絵	
25	磁器	碗	(10.4)	5.7	(4.4)	—	40	良好	白	桶54	瀬戸美濃系 施釉・染付	
26	陶器	土瓶	(7.6)	[3.2]	—	GK	30	良好	灰黄	桶61	外面灰釉・白盛, 鉄絵で絵付	
27	瓦質土器	十能	—	[2.5]	—	CHIK	5	普通	灰白	桶61	把手部破片 長[9.5]	
28	磁器	碗	11.2	4.6	3.8	—	90	良好	白	桶62	瀬戸美濃系 施釉・酸化コバルト染付	



第 42 図 埋設桶出土遺物 (4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
29	磁器	蓋	3.9	3.0	10.0	—	90	良好	白	桶 62	瀬戸美濃系 施釉・染付	26-5
30	磁器	坏	(5.6)	6.0	3.4	—	85	良好	白	桶 62	瀬戸美濃系 施釉 (外面瑠璃釉)・染付	
31	磁器	坏	6.7	4.5	3.2	—	70	良好	白	桶 63	瀬戸美濃系 施釉・染付	
32	陶器	坏	(6.5)	3.6	2.2	HK	40	良好	灰白	桶 63	京都信楽系 施釉 外面鉄絵・上絵付	
33	陶器	坏	6.7	3.6	(2.4)	HK	60	良好	灰白	桶 63	京都信楽系 施釉 外面鉄絵・上絵付	
34	陶器	德利	—	[12.5]	—	IK	10	普通	黄灰	桶 63	瀬戸美濃系 外面灰釉	
35	磁器	段重	(13.8)	5.5	(8.2)	—	40	良好	白	桶 64	肥前系 施釉 外面染付 焼継痕	
36	陶器	植木鉢	(12.8)	[3.9]	—	IK	10	良好	灰白	桶 65	瀬戸美濃系 緑釉 外面施文 被熱	
37	磁器	蓋	(4.8)	2.5	8.9	—	70	良好	白	桶 71	肥前系 施釉・染付 焼継痕	
38	磁器	坏	6.1	3.0	2.3	—	95	良好	白	桶 71	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付 (青)	
39	陶器	植木鉢	—	[10.8]	12.3	DIK	35	良好	灰白	桶 71	瀬戸美濃系 灰釉 墨書「[]/百拾六文」	75-1
40	磁器	碗	7.9	6.2	3.7	—	55	不良	白	桶 72	肥前系 施釉・染付	
41	陶器	碗	(9.8)	5.3	3.2	IK	55	不良	灰白	桶 72	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
42	瓦質土器	焙烙	(36.8)	4.7	(34.4)	CHI	30	普通	灰白	桶 72	底部シワ状痕 燻す	
43	磁器	碗	9.0	4.6	3.7	—	95	良好	白	桶 77	瀬戸美濃系 施釉・染付	
44	瓦質土器	火鉢	(27.2)	[9.2]	—	CHI	5	普通	灰白	桶 77	外面櫛歯波状文	
45	磁器	碗	8.9	5.0	3.8	—	100	普通	白	桶 78	瀬戸美濃系 施釉・染付	
46	磁器	坏	6.1	2.9	2.6	—	85	不良	白	桶 78	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付 (青・金)	
47	陶器	灯明皿	7.4	1.4	3.6	CJ	95	良好	灰白	桶 79	瀬戸美濃系 柿釉・重焼痕	
48	磁器	水滴	—	[2.7]	—	—	5	良好	白	桶 94	瀬戸美濃系 外面施釉・染付	
49	陶器	碗	(8.5)	[4.6]	—	HK	30	良好	灰白	桶 94	京都信楽系 施釉	
50	陶器	瓶掛	—	[16.7]	(19.0)	IK	70	良好	灰白	桶 94	SK204 接合 瀬戸美濃系 鉄化粧 外面緑釉・スタンプ文 内面目跡	
51	陶器	播鉢	(38.3)	[8.3]	—	EIK	15	普通	赤	桶 94	桶 83 接合 堺明石系 内面播目	

第8表 埋設桶出土遺物観察表(2)(第42図)

番号	種別	器種	法量					遺構	備考	図版		
1	銅製品	十能	長16.4 幅6.6 厚0.1 重28.4					桶 2	木柄残存	97-1		
2	銅製品	蝶番	長5.2 幅[2.6] 厚0.1 cm 重8.7					桶 13				
3	鉄製品	楔か	長[13.0] 幅1.5 厚0.4 重28.9					桶 13				
4	銅製品	鎖	長12.9 幅0.8 厚0.1 重3.4					桶 44				
5	銅製品	鎖	長4.2 幅0.6 厚0.1 重0.8					桶 44				
6	銅製品	鎖	長3.0 幅0.6 厚0.1 重0.6					桶 44				
7	銅製品	煙管	雁首 長5.4 火皿径1.8 小口径1.2 重12.9 吸口 長[8.8] 小口径1.2 口付径0.5 重13.4					桶 55	全長(26.0) 羅字残存			
8	銅製品	不明	縦[2.9] 横[2.5] 厚0.05 重1.0					桶 62				
9	銅製品	飾金具	縦2.3 横1.8 厚0.05 重1.5					桶 62	ススキにウサギ 型押しか			
10	鉄製品	不明	長[11.6] 幅1.3 厚0.4 重26.1					桶 82				
11	土製品	泥面子	長5.0 幅3.8 厚1.2 重8.8					桶 9	胎土 AI 橙 在地系 型押成型 大形	84-6		
12	土製品	泥面子	径2.4 厚1.1 重7.0					桶 11	胎土 AH 橙 江戸在地系 面打 表裏雲母付着			
13	土製品	泥面子	径2.4 厚1.0 重6.1					桶 13	胎土 A 橙 江戸在地系 面打	102-7		
14	硝子製品	筭	長[4.9] 径0.8 重6.0					桶 13	透明 中実 硝子内に白濁した螺旋状の変色が入る			
15	石製品	火打石	長3.0 幅2.5 厚1.3 重8.8					桶 21	玉髓			
16	瓦	転用砥具	長3.0 幅[6.0] 厚1.7					桶 28	胎土 AIK 灰白色 丸瓦玉縁を転用 刃ならし痕			
17	石製品	石筆	長[1.8] 径0.6 重0.9					桶 29	滑石 白色			
18	石製品	砥石	長[8.9] 幅2.8 厚2.8 重62.5					桶 61	流紋岩 刃物痕 砥面 4 下端欠損部丸み帯びる			
19	石製品	砥石	長[6.0] 幅5.3 厚[1.3] 重64.7					桶 77	粘板岩 砥面 4 以上 剥離激しい			
20	瓦	転用砥具	長[3.7] 幅[2.2] 厚0.6 重3.9					桶 94	灰白色 平瓦破損面を使用 裏面は瓦本来の面残す			
21	土製品	環状製品	外径(14.0) 厚2.2 重44					桶 91	胎土 ACEGHK にぶい橙 丁寧にナデ 被熱・酸化			
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取	遺構	備考	図版
22	木製品	匙	[11.7]	2.7	0.2	—	—	—	—	桶 13	竹製か 黒漆	91-1
23	木製品	櫛	12.0	4.6	0.9	—	—	—	—	桶 65	全面に金・黒・桃・赤・茶で文様「東雲久東」	
24	骨角製品	櫛	15.0	6.0	0.4	—	—	—	—	桶 66	鼈甲	96-16
25	木製品	樽	—	—	3.2	34.5	—	—	板目	桶 21	蓋 表面墨書(第76表30) 木釘残	104-30

(5) 井戸跡

井戸跡は10基が検出された。全体的には日光道中に面した店子町屋範囲の裏手に多い傾向があるが、より街道に近い位置や、本陣敷地内と考えられる位置からも検出されている。

栗橋宿本陣跡南部の町屋地区では、井戸側最下段の直下に、木組みの基礎を有す井戸跡が多く検

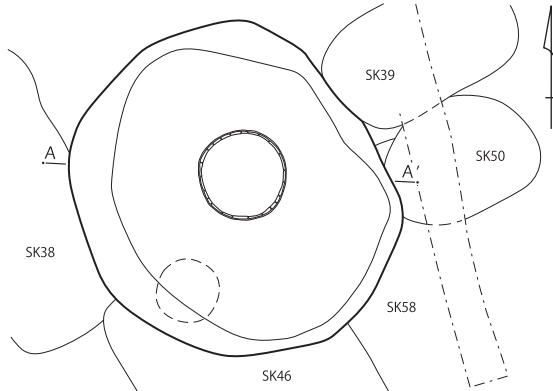
出された。しかし、今回報告する範囲では、最下段まで掘削した井戸跡にもこのような構造物は確認されていない。井戸の構築方法の差が何に起因するのか、興味深い問題である。

位置・規模等の基本情報は第9表、遺構図面は第43～49図にまとめた。以下、各井戸跡の特徴について記述する。

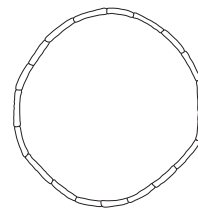
第9表 第一面井戸跡一覧表 単位：m

番号	グリッド	外径	高さ	内径	深さ	掘方径	掘方深さ	備考
1	C6-A2	0.69	(1.87)	0.78	(1.87)	(2.68)	(1.93)	桶12・SK38より古 2段目外径0.75内径0.72
2	C6-B2	0.71	(0.54)	0.67	(0.87)	3.37	(0.92)	桶10・杭列1より古 SE3より新 竹筒地下に217cm続く
3	C6-B2	0.48	1.33	0.53	(1.33)	(1.26)	(1.48)	桶10・SE2・杭列1より古 2段目外径0.53内径0.52 3段目外径0.49内径0.47 寛永通宝(古5新7四文銭2)不明銅銭1
4	C6-B3	0.80	2.55	0.78	2.45	3.57	(2.55)	SK198/201より新 2段目外径0.77内径0.73 寛永通宝(新2古2)
5	C6-D2/3	0.59	2.46	0.58	(2.46)	3.02	(2.46)	桶74より古 SK176より新 2段目外径0.58内径0.65 外側上段外径0.88内径0.85 外側下段外径0.82内径0.78 外側上下段高(1.72) 寛永通宝(新)1
6	C6-E3	0.68	(1.63)	0.65	(1.63)	2.08	(1.73)	竹樋2重複 2段目外径0.65内径0.61 3段目外径0.61内径0.55
7	C6-E3	0.75	1.70	0.72	1.62	2.08	(1.60)	SK162重複 2段目外径0.72内径0.73 3段目外径0.73内径0.71
8	C6-E4・F4	0.62	1.98	0.57	1.98	3.08	1.98	SK230/257より古 2段目外径0.57内径0.52 3段目外径0.52内径0.54 寛永通宝(四文銭1・新1)
9	C6-F3/4	0.62	1.65	0.61	1.65	1.87	1.69	SK207/237より古 2段目外径0.61内径0.58 寛永通宝(新)1
10	C6-E3/4	0.45	(1.17)	0.49	(1.17)	1.06	(1.17)	SK248/255より古 2段目外径0.42内径0.48 3段目外径0.43内径0.52

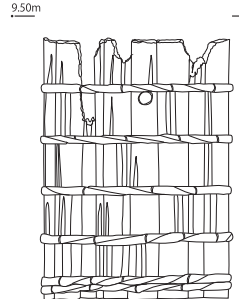
SE 1



(下段平面図)

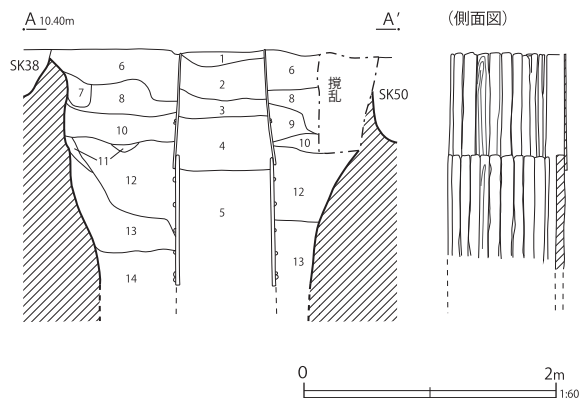


(下段側面図)



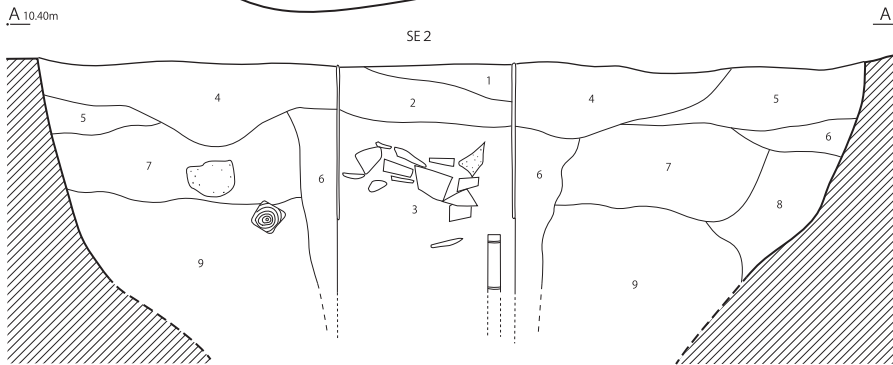
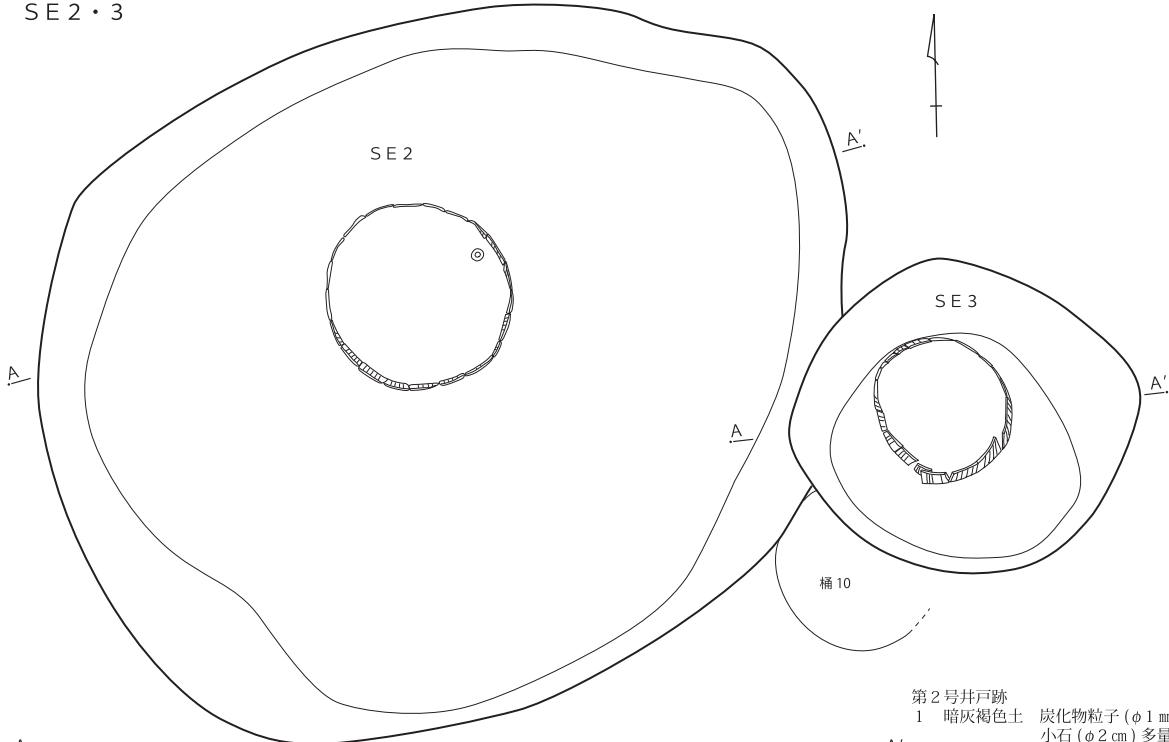
第1号井戸跡

- 1 灰褐色砂質土 鉄粒子多量 シルトブロック(φ2~5mm)・炭化物粒子(φ3~10mm)少量 粘性なし しまりあり
- 2 灰褐色土 シルト質 砂・炭化物粒子・鉄粒子(φ2~3mm)少量 粘性あり しまり極弱
- 3 暗褐色土 シルト 炭化物粒子(φ2~3mm)・鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性あり しまりなし
- 4 暗灰褐色土 シルト質 炭化物粒子(φ1~2mm)含む 粘性・しまりあり 炭化物粒子
- 6 明灰褐色土 砂質 シルトブロック(φ1~4cm)・炭化物粒子(φ2~3mm)・焼土ブロック(φ5~20mm)含む 鉄粒子(φ1~3mm)少量 粘性極弱 しまりあり (掘方)
- 7 灰褐色土 シルト粒子(φ2~3mm)・炭化物粒子(φ2~3mm)・砂少量 鉄粒子(φ2~3mm)多量 粘性なし しまり弱 (掘方)
- 8 暗灰褐色土 砂質シルト シルト粒子(φ1~2cm)斑状に含む 炭化物粒子(φ3~5mm)多量 焼土粒子(φ3~5mm)含む 白色粒子(φ1~2mm)微量 粘性弱 しまりあり (掘方)
- 9 橙褐色土 砂質シルト シルト粒子(φ3~5mm)多量 炭化物粒子(φ1~2mm)・焼土粒子(φ2~3mm)少量 鉄粒子(φ1mm)多量 粘性なし しまり弱 (掘方)
- 10 暗灰褐色土 砂質シルト シルトブロック(φ5~20mm)斑状に多量 炭化物粒子(φ3~7mm)含む 焼土粒子(φ3~5mm)少量 粘性・しまりあり (掘方)
- 11 灰色土 シルト 粘性・しまりあり (掘方)
- 12 暗灰褐色土 シルト 炭化物粒子(φ1~2mm)・鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性あり しまり弱 (掘方)
- 13 暗灰色土 粗粒な砂からなる砂質土 軽石(φ2~3mm)少量 (掘方)
- 14 暗灰色土 炭化物粒子多量 鉄分含む 粘性・しまり強 (掘方)



第43図 第1号井戸跡

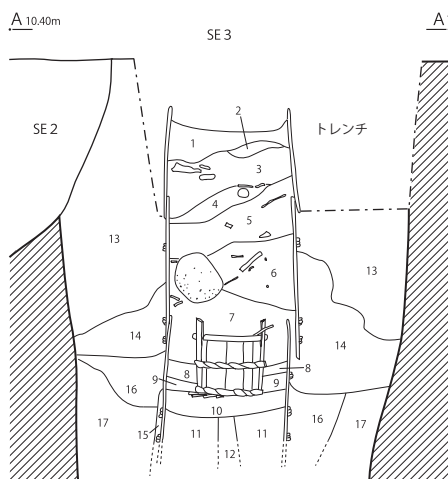
SE 2・3



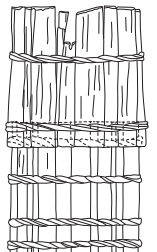
第2号井戸跡

- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子(φ1mm)少量
小石(φ2cm)多量 しまりあり 粘性なし
- 2 灰褐色土 灰褐色シルト(φ1~1.5cm)多量 炭化物粒子(φ2~3mm)含む 鉄粒子(φ1~2mm)・砂少量 しまり強 粘性なし
- 3 橙褐色土 炭化物ブロック(φ1~2cm)・焼土ブロック(φ1cm)極多量 鉄粒子(φ1~2mm)少量 煉瓦と瓦多量 しまり・粘性なし
- 4 褐灰色土 酸化鉄含む(掘方)
- 5 褐灰色土 酸化鉄少量含む(掘方)
- 6 褐灰色土 酸化鉄含む 若干砂質(掘方)
- 7 暗青灰色土 混入物は殆ど含まない(掘方)
- 8 青灰色土 焼土塊・炭化木・ブロック状の砂を混在する(掘方)
- 9 暗青灰色土 砂質土 混入物は殆ど含まない(掘方)

(SE 2 中段平面図)



(SE 3 中・下段側面図)



(SE 3 下段底面図)

第3号井戸跡

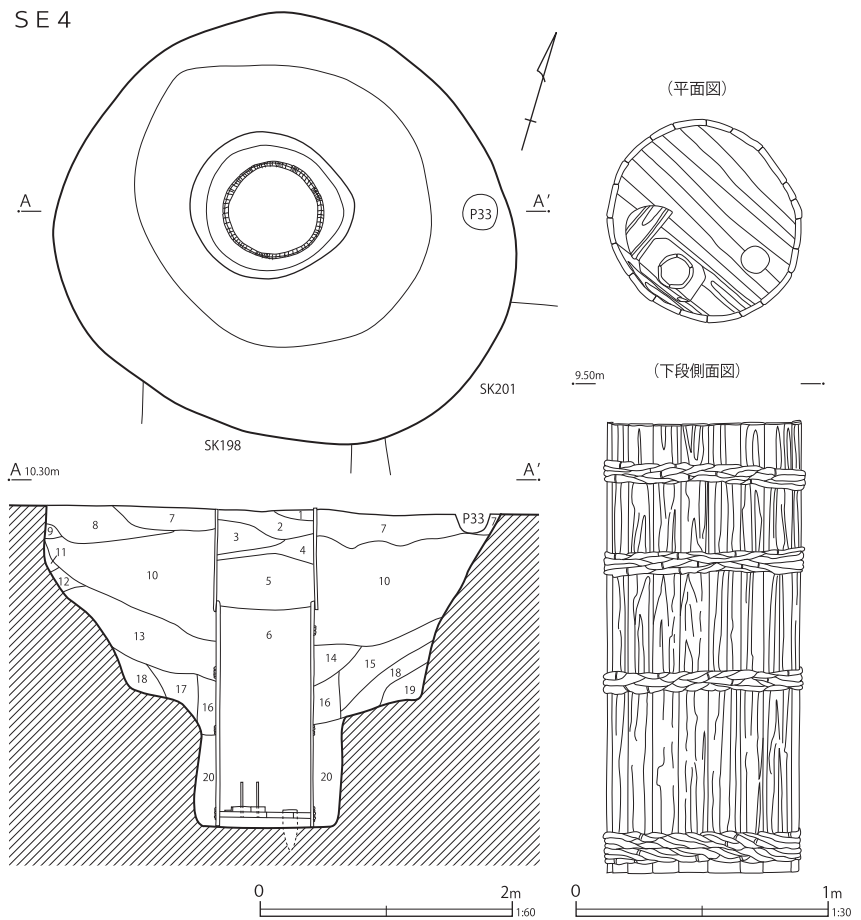
- 1 明灰褐色土 シルトブロック(φ2~5cm)含む 鉄粒子(φ1~2mm)多量 粘性あり しまり極弱
- 2 明灰褐色土 シルト質 シルトブロック(φ2cm)多量 炭化物粒子(φ1~2mm)含む 鉄粒子(φ1~2mm)少量 粘性あり しまり弱
- 3 灰褐色土 シルト質 炭化物粒子(φ2~3mm)多量 鉄粒子(φ2~3mm)含む 砂少量 粘性あり しまり弱
- 4 橙褐色土 シルト含む 炭化物粒子(φ2~3mm)・焼土粒子(φ2~3mm)多量 粘性・しまりあり
- 5 暗灰褐色土 シルト層 炭化物粒子(φ1~2mm)少量 木片多量 粘性あり しまり弱
- 6 暗褐色土 シルト 炭化物(φ1~3mm)少量 灰色土ブロック(φ5~10mm)含む 鉄分が顕著 木片含む 粘性・しまりなし
- 7 暗灰色土 シルト 炭化物粒子(φ2~5mm)少量 灰色土ブロック(φ5~10mm)含む 鉄分少量 粘性あり しまりなし
- 8 暗灰色土 粘質 鉄分・木片含む 粘性あり しまりなし
- 9 暗灰色土 粘質 混入物なし 粘性あり しまりなし
- 10 黒色砂 粗い砂
- 11 暗灰色砂 粒度の細かい砂 しまりあり
- 12 黒色砂 粗い砂
- 13 灰色土 シルト 炭化物粒子(φ2~4mm)含む 粘性なし しまり強 (掘方) 粒子の粗い砂混入 (掘方)
- 14 砂 粗い砂 (掘方)
- 15 黒色砂 粗い砂 (掘方)
- 16 灰色土 シルト 砂質土が少量混じる しまり・粘性あり (掘方)
- 17 暗灰色土 砂質 粘性・しまりなし (掘方)



第44図 第2・3号井戸跡

第1号井戸跡 (第43図)

C 6-A 2 グリッドに位置する。桶を井戸側とするもので、二段目まで検出した。掘方は径2.5m以上、井戸側は径70cm内外の桶を用いる。出土した陶磁器のうち、井戸側内のものは19世紀後半以降のものが主体であった。掘方からは肥前系磁器端反碗や八角鉢など、19世紀前葉以降のものが出土した。「九谷」銘款を持つ赤絵上絵付けの磁器坏(第50図6)がやや新しい。構築時期は19世紀中葉からさほど降らない時期、廃絶は19世紀末以降と考えられる。



第2号井戸跡 (第44図)

C 6-B 2 グリッドに位置する。径3mを越える大形の掘方内に径70cm程の桶を井戸側として据えている。井戸下部には竹筒が縦位置に検出され、地下に217cm続いていた。

第50・51図16~28に出土した陶磁器を示す。酸化コバルト染付磁器の瓶類蓋(19)や笠間系陶器の皿

(20)から19世紀後半以降の構築と帰属と推定される。なお、肥前系磁器広東碗や小丸碗等、被熱した近世の陶磁器も多く出土した。24は肥前系陶器の壺類と思われ、胎土は炆器質で硬い。内面に当て具痕、外面に叩き状の痕跡を有す。25は陶器土瓶であるが、内面に鉄分の付着が激し

第4号井戸跡

- | | |
|---------|---|
| 1 灰褐色土 | 砂質シルト 小石・褐鉄含む |
| 2 灰褐色土 | 砂質シルト 鉄粒子含む |
| 3 青灰色土 | シルト 鉄粒子含む 粘性なし しまりあり |
| 4 灰褐色土 | 砂質シルト 褐鉄・小石・木質含む しまり・粘性あり |
| 5 青灰色土 | シルト 粘性あり しまり極弱 |
| 6 黒色土 | |
| 7 灰褐色土 | 砂質シルト シルトブロック(φ3~5cm)と灰褐色土との混合層 炭化物粒子(φ3~5mm)・鉄粒子(φ2~3mm)含む 粘性なし しまりあり (掘方) |
| 8 灰褐色土 | 砂質シルト シルトブロック(φ1~5cm)斑状に多量 鉄粒子(φ1~2mm)・砂含む 粘性なし しまりあり (掘方) |
| 9 灰色土 | 砂質 灰褐色シルト含む 粘性なし しまりあり (掘方) |
| 10 暗褐色土 | シルトブロック(φ2~3cm)斑状に多量 炭化物粒子(φ2~10mm)・鉄粒子含む 粘性・しまりあり (掘方) |
| 11 灰褐色土 | 砂質シルト 炭化物粒子(φ1~2mm)・褐鉄粒子少量 粘性極弱 しまりあり (掘方) |
| 12 灰褐色土 | シルト 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 粘性あり しまり極弱 (掘方) |
| 13 黒灰色土 | 炭化物粒子(φ2~5mm)・灰色土ブロック(φ5~30mm)多量 焼土粒子(φ2mm)微量 しまりあり (掘方) |
| 14 暗灰色土 | 砂質 灰色土多量 炭化物粒子(φ5mm)混入 しまりなく脆く崩れやすい (掘方) |
| 15 暗灰色土 | 14層よりしまり強 (掘方) |
| 16 黒色土 | 砂質 灰色土ブロック(φ10~15mm)含む 脆く崩れやすい 粘性弱 しまりなし (掘方) |
| 17 暗灰色土 | 砂質 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 灰色土混入 粘性・しまり弱 (掘方) |
| 18 黒灰色土 | 砂質 炭化物粒子(φ2~5mm)含む 灰色土・黒色砂多量 13層より暗い色調である (掘方) |
| 19 灰色土 | 炭化物粒子(φ2~3mm)多量 灰色土・暗灰色砂質土混入 (掘方) |
| 20 黒色土 | 砂混入 脆く崩れやすい (掘方) |

第45図 第4号井戸跡

く、お歯黒壺に転用されたものと考えられる。第55図1は金属製品の火箸である。7は土製品の小壺で所謂「つぼつぼ」に類似する。栗橋宿跡からの出土は比較的多く、概ね19世紀中葉以降に認められるようだ。8はままごと道具と考えられる玩具類で、白色胎土に黄色の釉薬がかけられ

る。第56図4・5は石製品の砥石と石筆で、4は掘方からの出土である。

第3号井戸跡 (第44図)

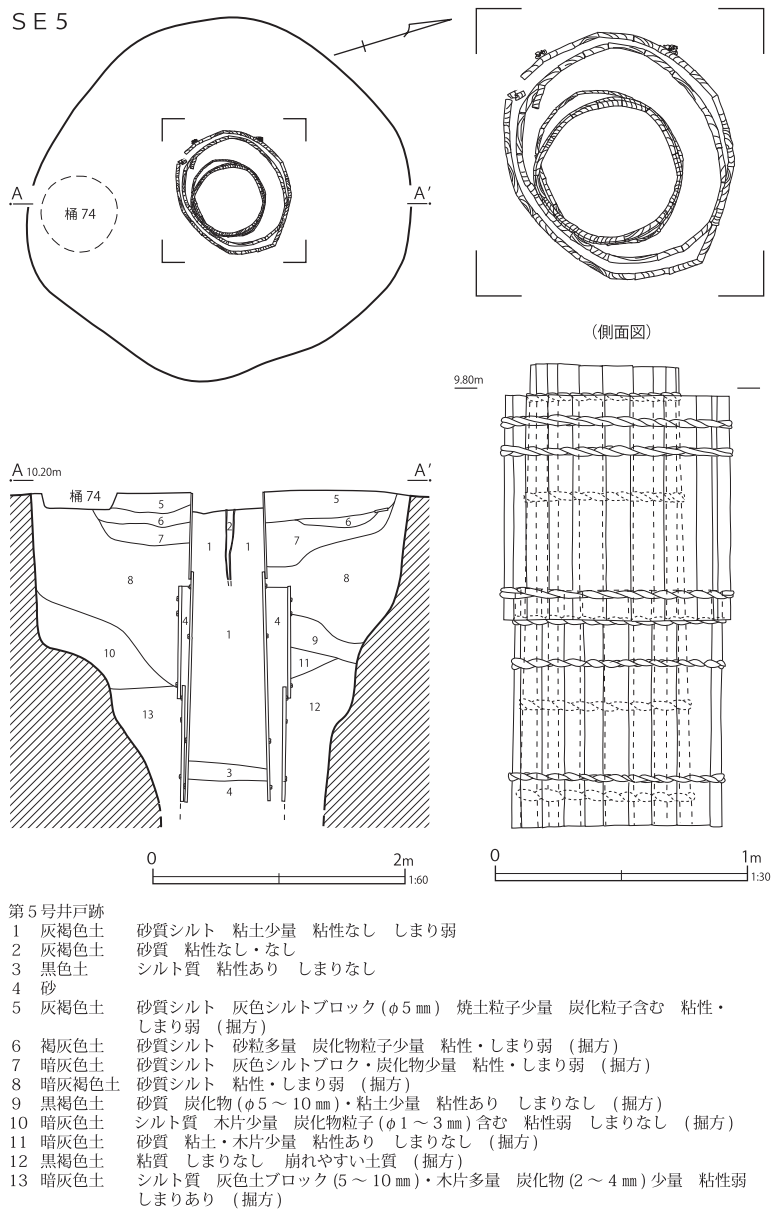
C6-B2グリッドに位置し、重複する第2号井戸跡より古い。掘方径は1m強で、径50cm内外の桶3段以上を井戸側として用いる。3段目の井戸側内から、桶状の木製釣瓶が検出されている。釣瓶は両手が突出する水汲桶の形態のものである(写真図版11-7)。釣瓶の下は砂層の堆積が認められ、その中から銭貨15枚が出土した。銭種不明の1点を除き寛永通宝で、内訳は新寛永7・古寛永5・四文銭2である。一部を第56図16~27に示す。釣瓶との位置関係から井戸廃絶時に投げ込まれた可能性が考慮される。

第51図29~31は出土した陶磁器類である。31は黄土色の不透明釉が掛けられた陶器土瓶で、お歯黒壺に転用されている。図示した以外に磁器湯呑形碗・土器竈鏝・真壁産土器甕が出土しており、19世紀第2四半期後半~第3四半期前半頃の廃絶と推定される。第55図3は金属製品の容器蓋である。

第4号井戸跡 (第45図)

C6-B3グリッドに位置し、径3.5m程の掘方に径80cm程の桶二段を設置する。底板に竹筒を貫通させる掘り抜きの井戸と考えられる。掘方部分が、19世紀中葉と考えられる第201号土壌を壊しており、それ以降の構築である。

井戸側内からは、地方窯系陶器と考えられる植木鉢・土鍋が出土した。第51図46は大堀相馬系

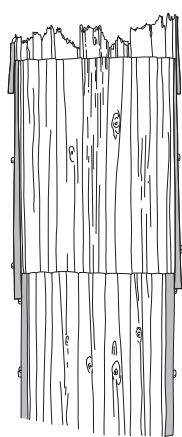
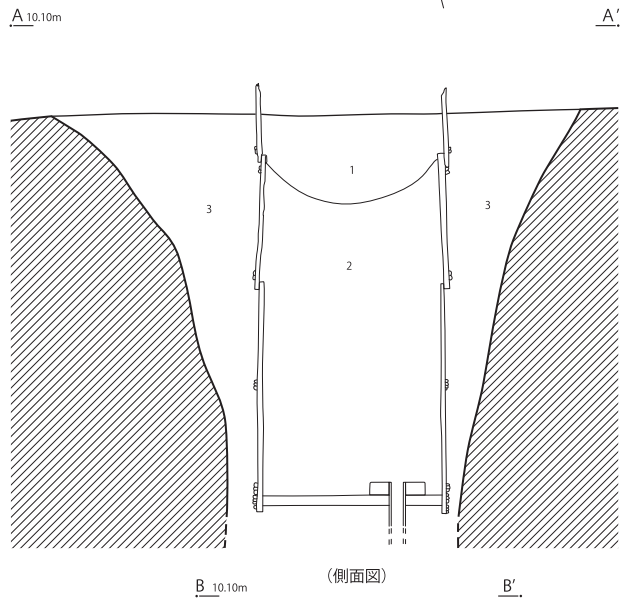
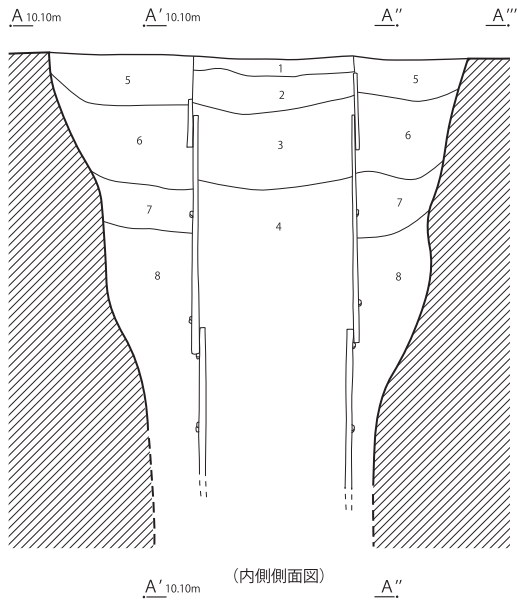
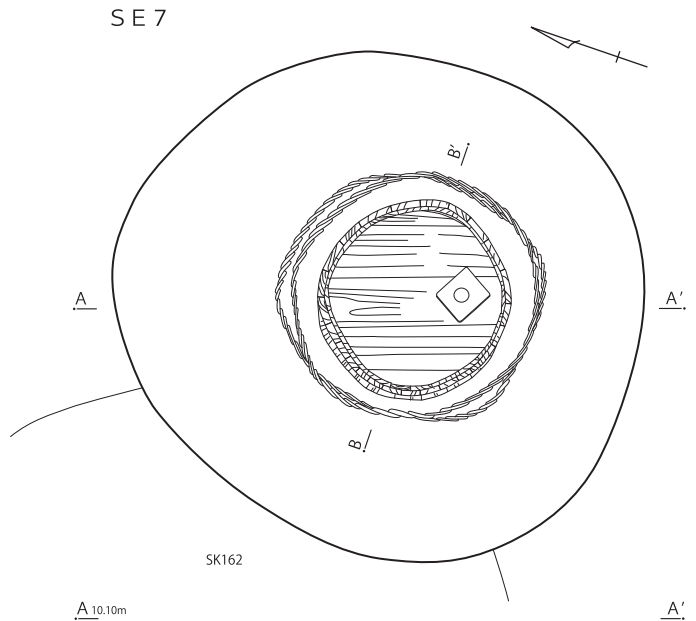
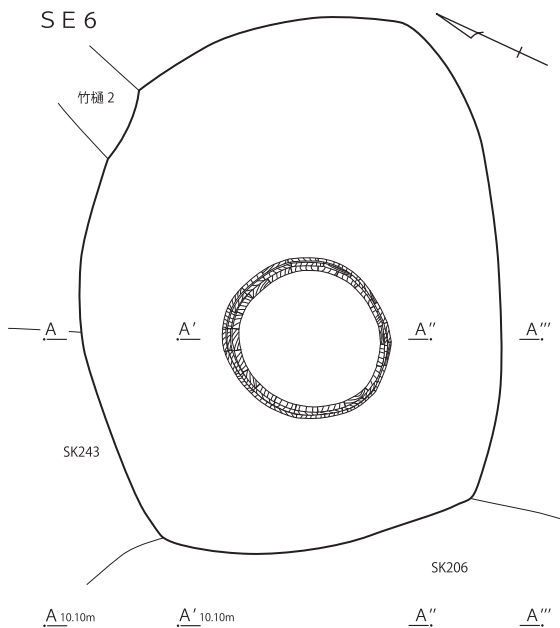


第46図 第5号井戸跡

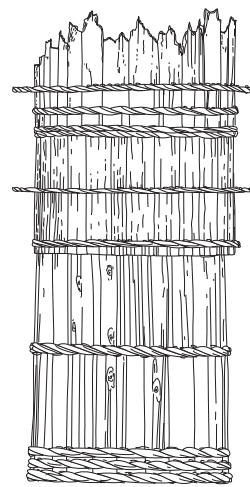
陶器と考えられる青ヒビ釉の土瓶で、体部は木瓜形に成形される。ヤマに「田」の釘書きを持つ磁器皿(37)や鉢(40)も特徴的な遺物である。第56図9~11は石製品砥石である。いずれもホルンフェルスや粘板岩製で、大型・板状のものである。19世紀第3四半期頃に構築され、比較的短期間で廃絶したものと考えられる。

第5号井戸跡 (第46図)

C6-D2・3グリッドに位置する。井戸側の桶は入れ子状態になっており、径3m程の掘方



- 第6号井戸跡
- 1 明灰褐色土 砂質 シルト粒子 ($\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$) 少量
炭化物粒子 ($\phi 2 \sim 5 \text{ mm}$)・鉄粒子 ($\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$) 多量 粘性・しまり弱
 - 2 灰褐色土 砂質シルト シルト ($\phi 5 \text{ mm}$ 以下)・炭化物粒子 ($\phi 2 \sim 7 \text{ mm}$) 少量 鉄粒子 ($\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$) 多量
 - 3 灰色土 木片少量 粘性あり しまり弱
シルト主体 炭化物粒子 ($\phi 3 \sim 5 \text{ mm}$) 少量含む 粘性あり しまり弱
 - 4 灰色土 砂質土 シルト粒子少量
粘性なし しまり弱
 - 5 黒褐色砂 炭化物・焼土ブロック少量 (掘方)
 - 6 黒褐色砂 (掘方)
 - 7 暗黒褐色土 粘質土 炭化物少量 (掘方)
 - 8 灰色砂 掘方
- 第7号井戸跡
- 1 現代の遺物を含む
 - 2 褐色土 シルト質
 - 3 灰色砂 酸化鉄含む (掘方)



0 1m
1:30

第47図 第6・7号井戸跡

に、径60cm程の桶を二段、その外側に径80cm以上の桶を二段以上重ねて構築される。井戸の改修が行われたものと考えられる。第52図51～60は出土した陶磁器で、19世紀中葉の様相を示す。非掲載の資料も含め、磁器の湯呑形碗がやや多く、陶器土瓶類も目立った。掘方と井戸側内の遺物様相に大きな時期差はなく、比較的短期間の使用と考えられる。第55図15は硝子製の髪飾り類である。

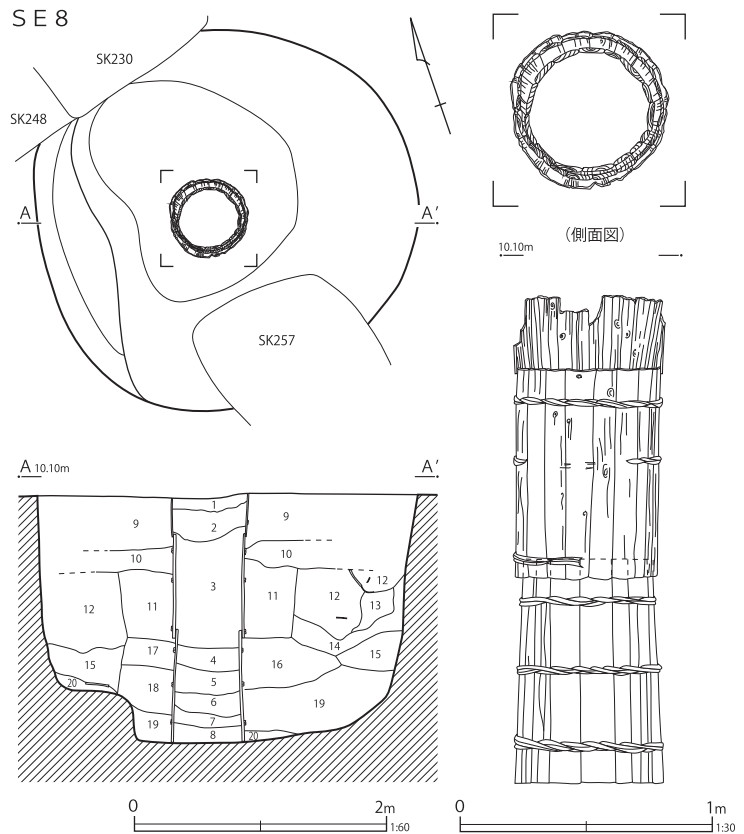
第6号井戸跡 (第47図)

C6-E3グリッドに位置し、長軸2m程の掘方に径60cm内外の桶を重ねて構築される。掘方北側に第2号竹樋が重複するが、井戸側との接続関係は認められず、関連は明らかではない。井戸側の桶は三段目まで掘り下げた。第52図61～67は出土した陶磁器類で、63の瀬戸美濃系磁器端反坏や、66の陶器爛徳利、67の土瓶がみられる。磁器湯呑形碗や陶器三彩土瓶も出土しており、19世紀中葉の様相を示す。第55図9は釜の蓋を模したミニチュア土製品である。

第7号井戸跡 (第47図)

C6-E3グリッドに位置する。径2m程の掘方に径70cm強の桶を3段重ねて構築される。底板に竹筒を貫通させる掘り抜き井戸である。

第52・53図68～81に出土した陶磁器を示す。72は硬質陶器の皿で、内面口縁に青の圈線が巡る「青縁皿」である。裏銘は緑色で「ROYAL IRONSTONE CHINA」「JOHNSON BROS ENGLAND」の文字と、ライオン・ユニコーンをデザインした英国王室紋章である。英国名門陶器メーカーのジョンソン・ブラザーズ社製で、19世紀末前後



- | | |
|---------|------------------------------------|
| 第8号井戸跡 | |
| 1 褐灰色土 | シルト質 炭化物・炭化粒子・円礫(φ3cm)含む 粘性弱 しまりあり |
| 2 灰褐色土 | 粘質シルト 炭化物粒子・円礫・木片含む 粘性・しまりあり |
| 3 暗灰褐色土 | 粘質シルト 砂質 炭化粒子微量 粘性あり しまり弱 |
| 4 暗灰褐色土 | シルト質 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色土 | 砂質 木片多量 |
| 6 黒褐色土 | 粘質 木片多量 |
| 7 黒色土 | 木片多量 |
| 8 黒色砂 | |
| 9 灰褐色土 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化物・木片少量 上位ほど砂含む (掘方) |
| 10 黒褐色土 | 粘土ブロック少量 炭化物微量 (掘方) |
| 11 暗灰色土 | 焼土ブロック少量 粘土ブロック・炭化物多量 木片・瓦含む (掘方) |
| 13 灰色土 | 粘質 粘土ブロック少量 (掘方) |
| 14 褐色土 | 砂質 粘土ブロック少量 炭化物微量 (掘方) |
| 15 暗灰色土 | 砂質 (掘方) |
| 16 暗褐色土 | 粘土ブロック多量 焼土ブロック・炭化物少量 (掘方) |
| 17 灰褐色土 | 砂質 焼土・炭化物微量 (掘方) |
| 18 暗褐色土 | 砂質 炭化物少量 (掘方) |
| 19 黒色土 | 粘質 炭化物多量 (掘方) |
| 20 砂層 | 砂鉄・軽石多量 (掘方) |

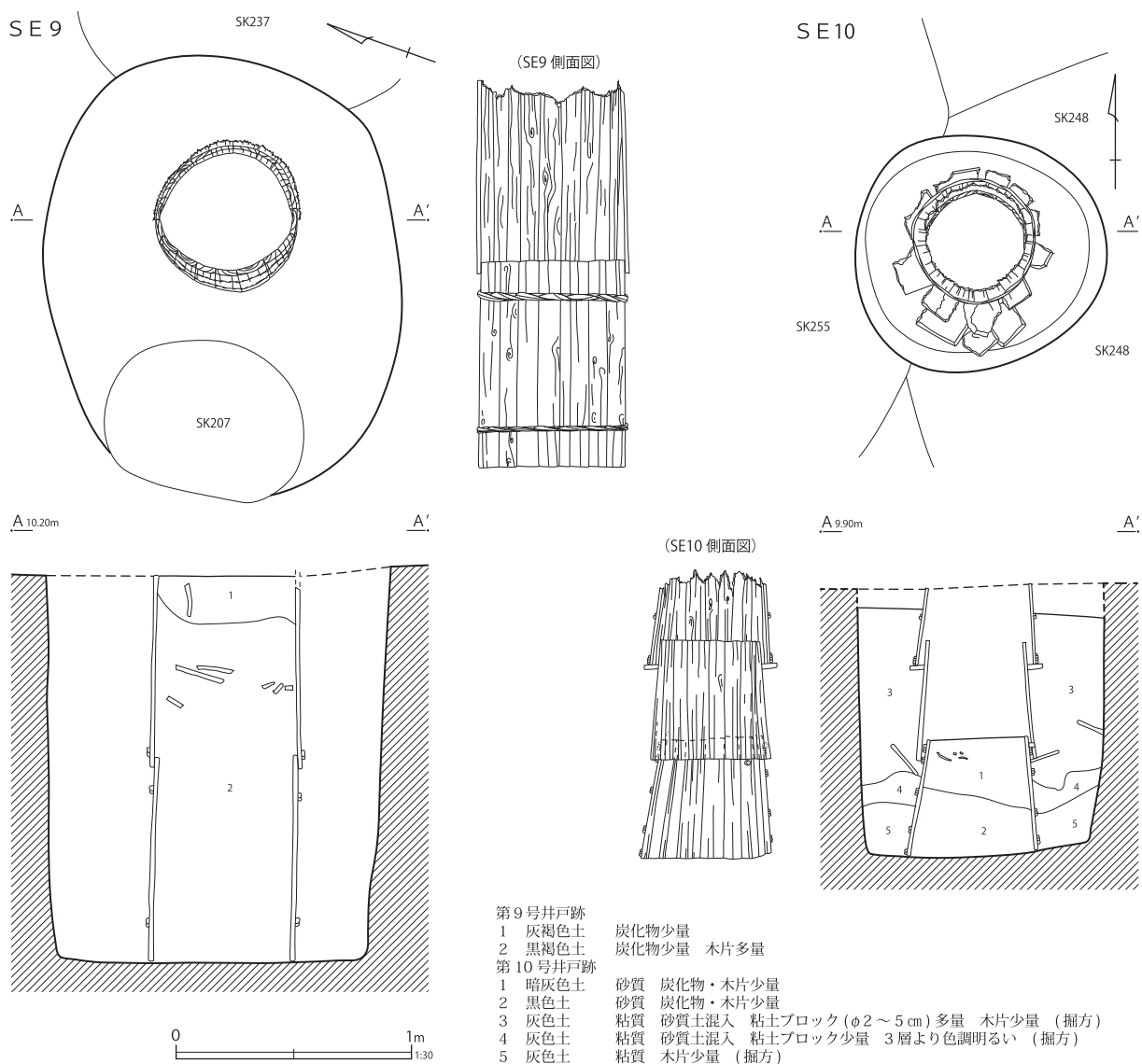
第48図 第8号井戸跡

の製品とみられる。

井戸側内には近代の資料が含まれるが、掘方には近代陶磁器が含まれず、構築時期は大分遡る可能性がある。

第8号井戸跡 (第48図)

C6-E4、F4グリッドに位置し、径3m程の掘方内に径50～60cmの桶を3段重ねて構築される。掘方底面まで完掘しているが、根側の桶を支える基礎は確認されなかった。



第49図 第9・10号井戸跡

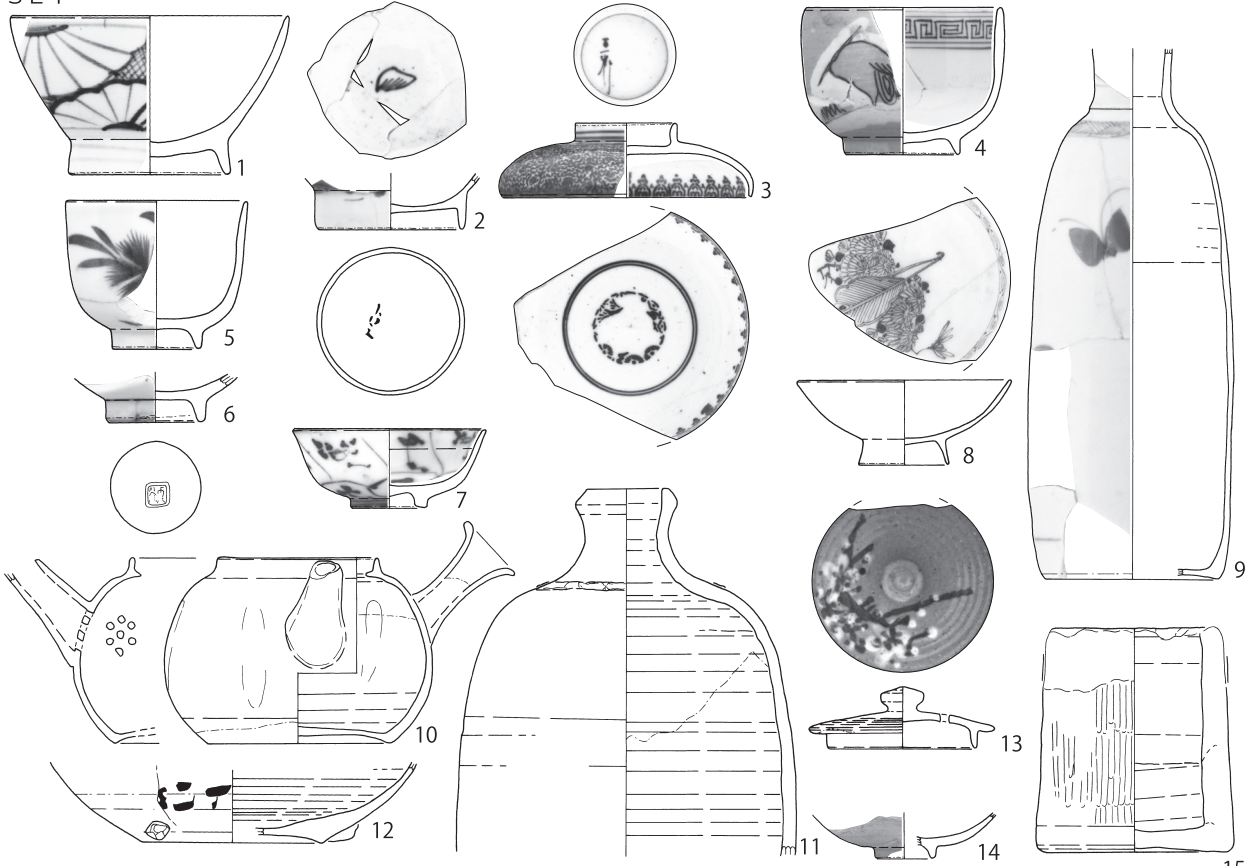
第53・54図82~108は出土した陶磁器である。82は外面に鉄釉を施釉する磁器碗で、17世紀に遡るものである。95の磁器急須には、把手裏面に酸化コバルト染付で「[]製」の銘が認められる。産地を示す可能性があるが、欠損が惜しまれる。100は糠白釉が掛けられた大堀相馬系陶器の鉢で、第212号土壌から同一個体と考えられる破片が出土している(第208図305)。大堀相馬系陶器は出土量自体が少ないが、本資料のような平碗形の鉢は出土例があまり無いものと思われる。102は埴塙に転用された瀬戸美濃系陶器の坏

である。106は瓦質土器の火鉢で、外面に印花文と墨痕が認められる。輪高台が付く在地系の火鉢と思われるが、墨描きで模様が描かれる例は珍しい。105の破片と同一個体と考えられる。

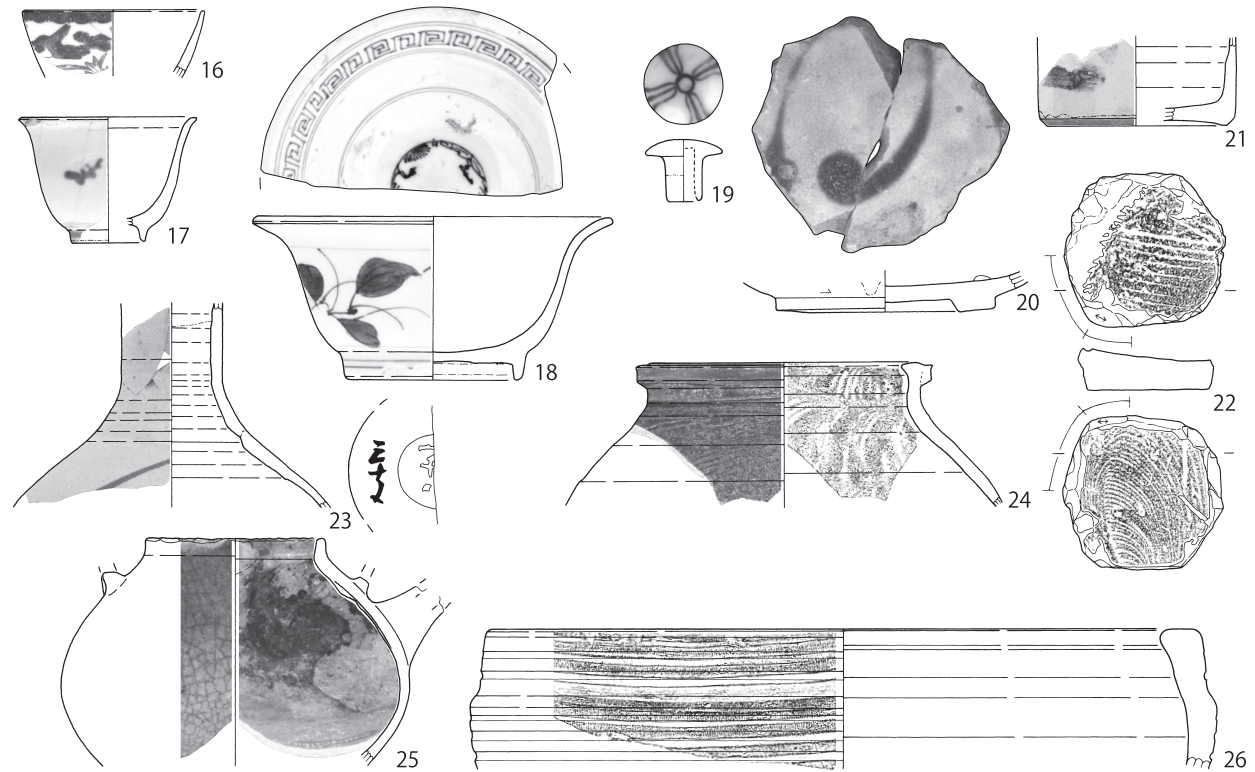
井戸側内には酸化コバルト染付の磁器平碗、端反坏、急須・三田青磁の皿が含まれるが、型紙摺絵染付の製品はみられない。掘方では瀬戸美濃系磁器湯呑形碗が最新期の資料である。19世紀中葉までに構築され、19世紀後半の早い段階で廃絶したと考えられる。

第55図4は金属製品の刃子、10は土瓶を模し

SE 1

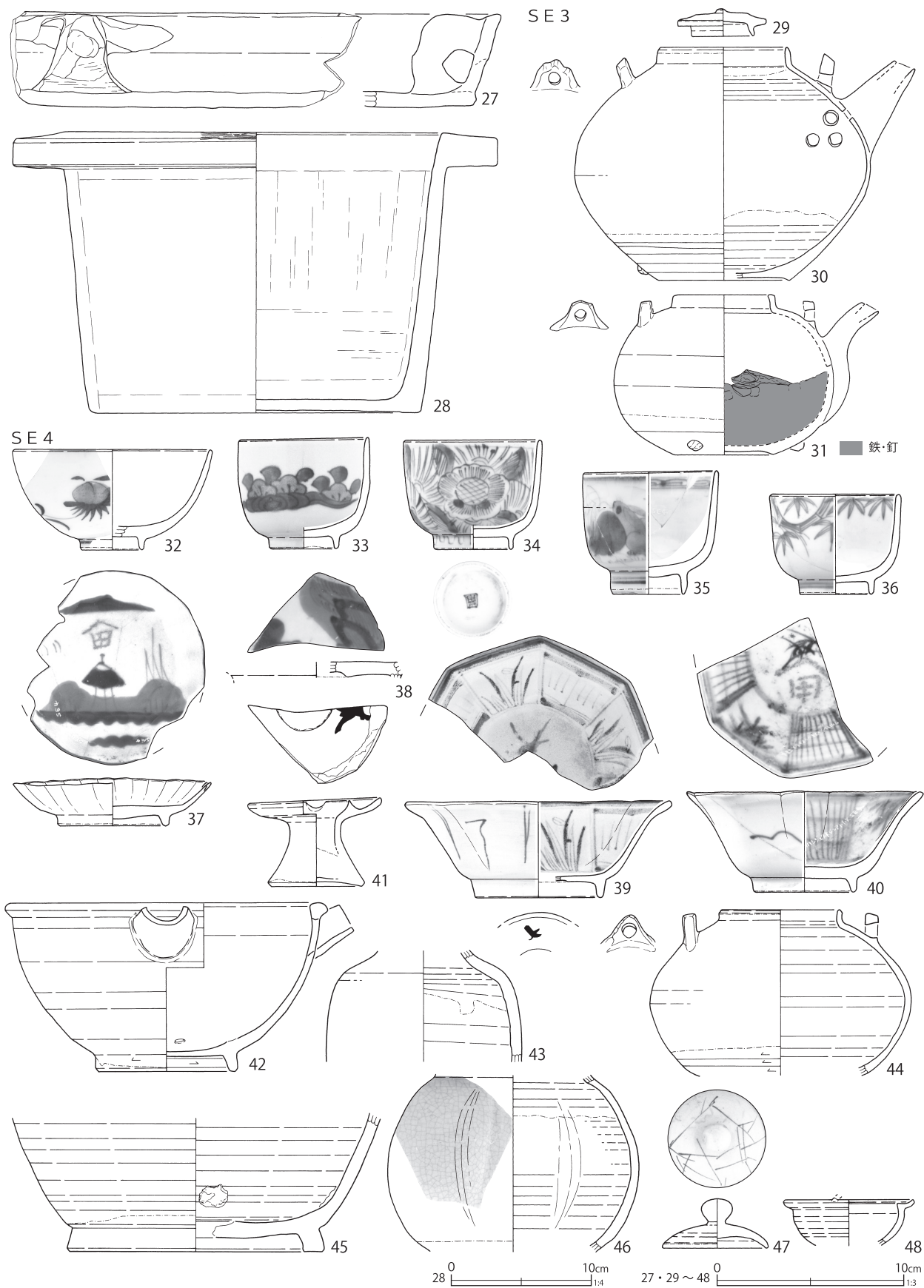


SE 2

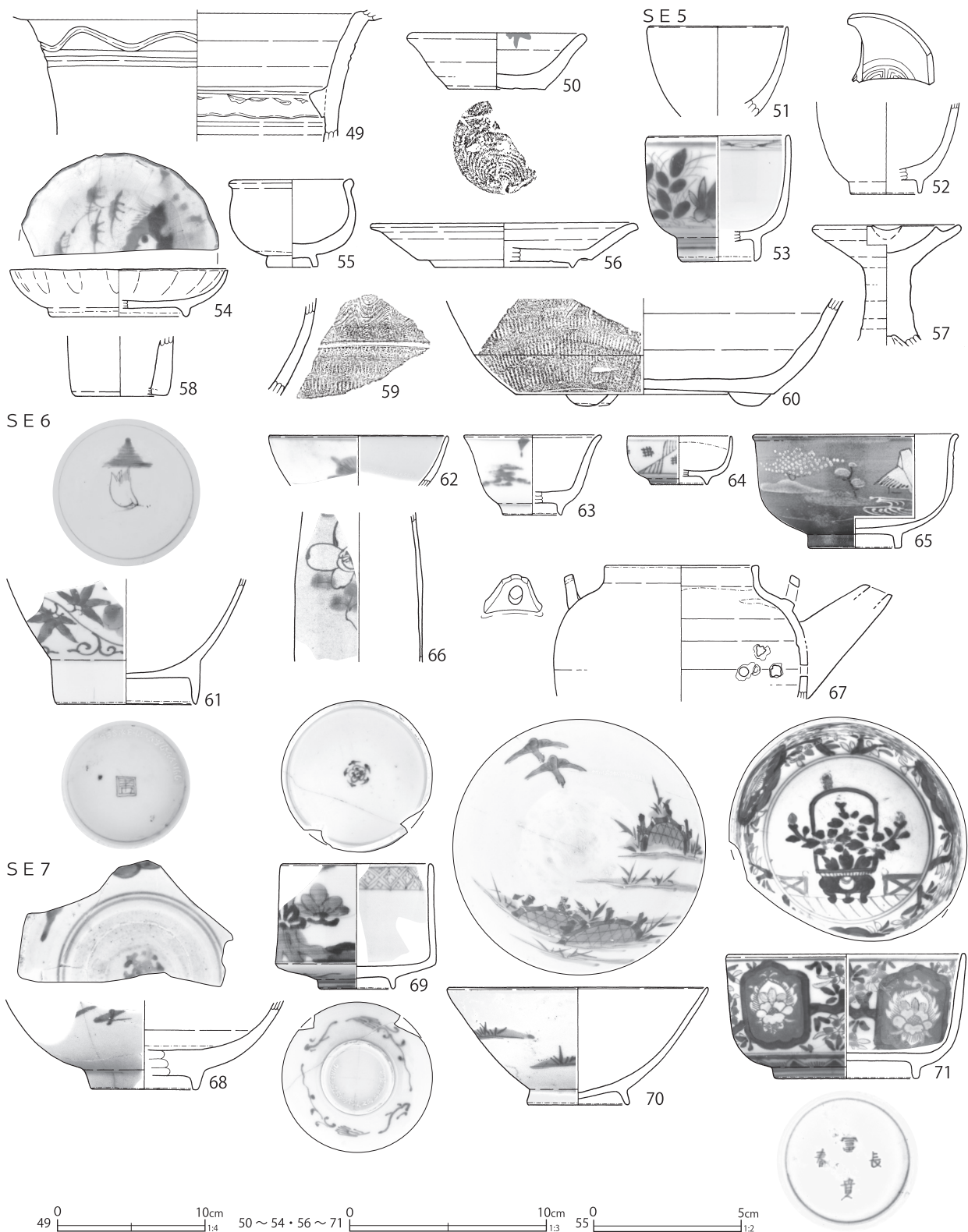


0 10cm 0 10cm
 1/4 1 ~ 23 · 25 · 26 1/3

第 50 図 井戸跡出土遺物 (1)



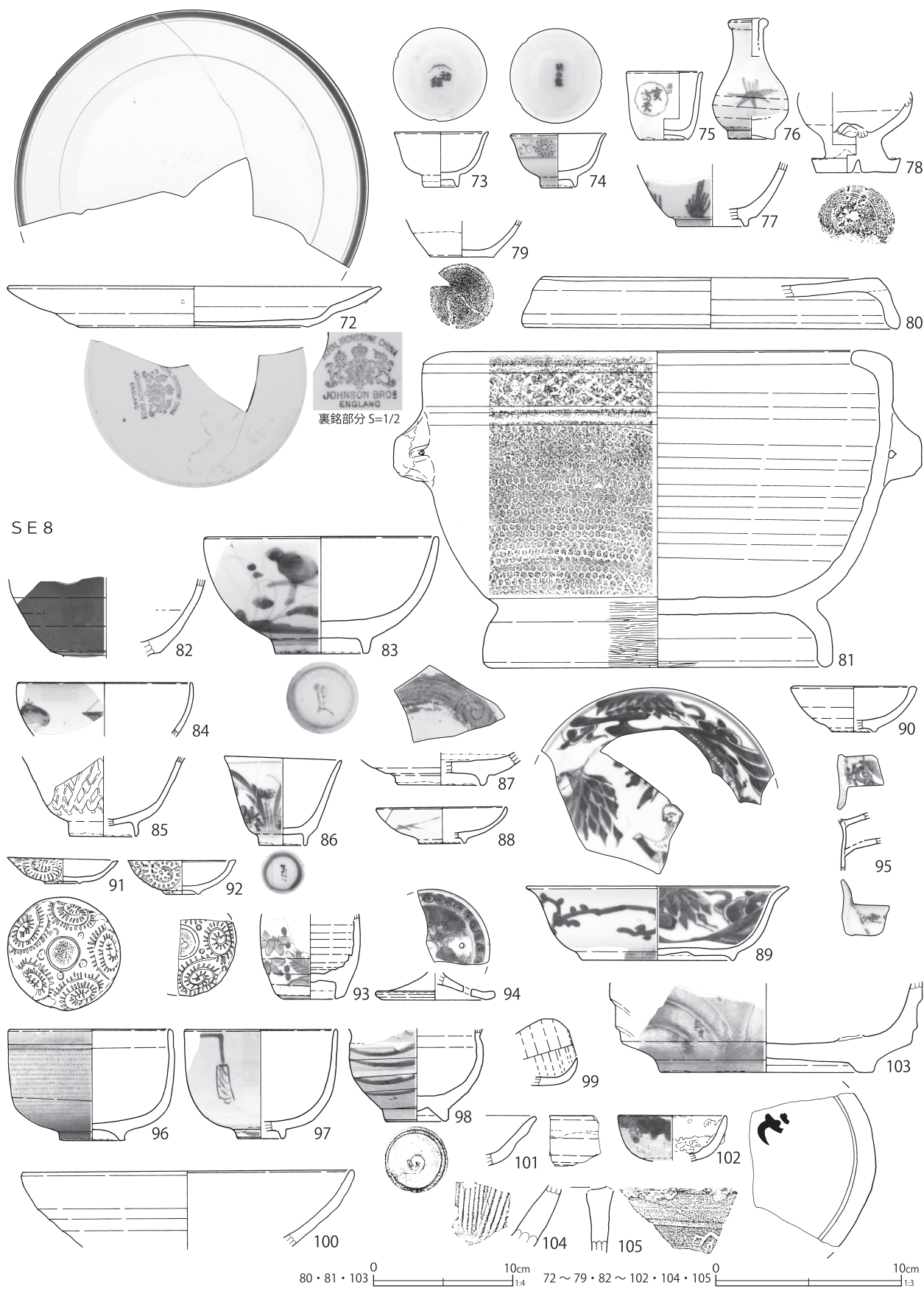
第 51 図 井戸跡出土遺物 (2)



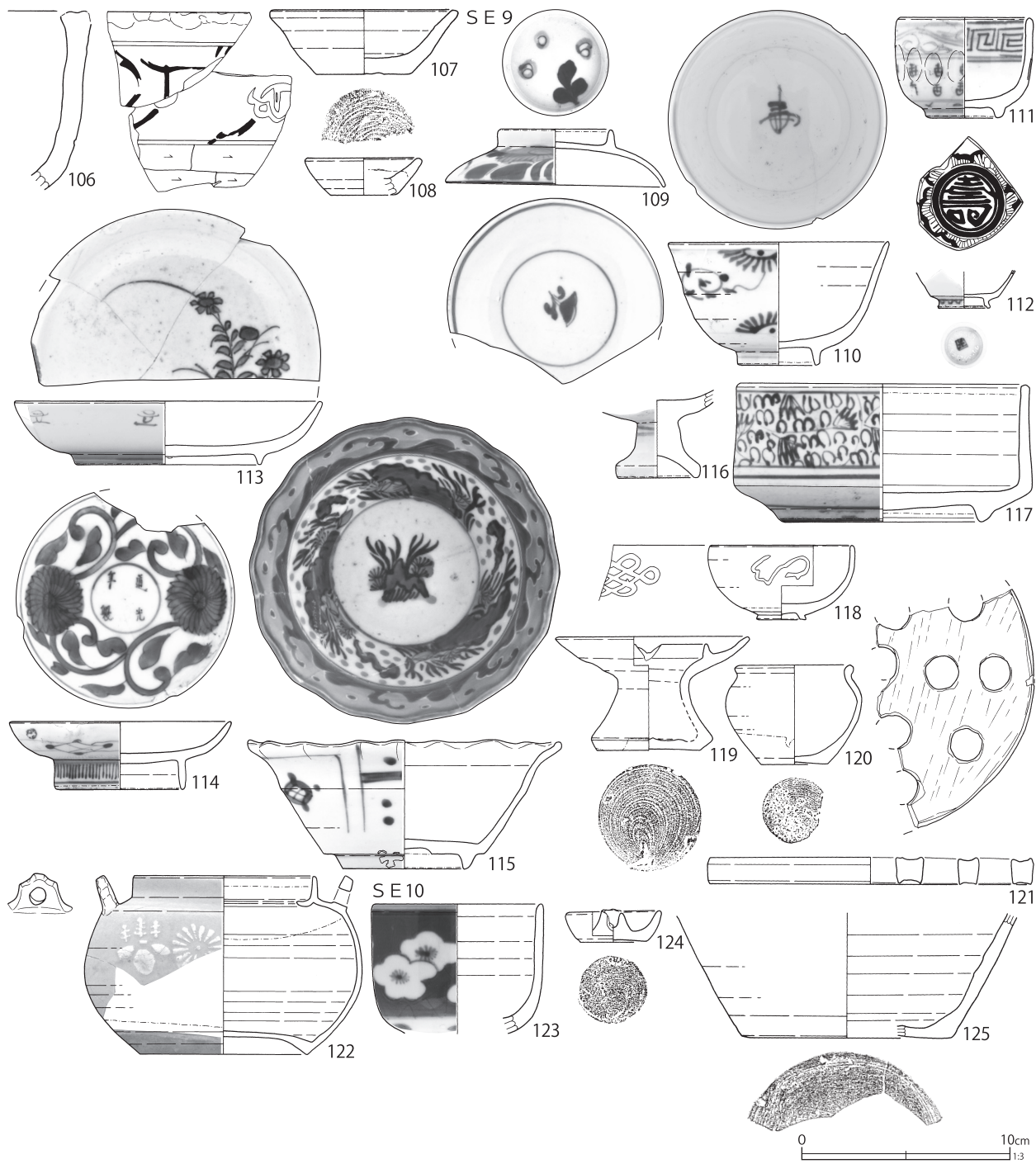
第52図 井戸跡出土遺物（3）

たミニチュア土製品（玩具類）である。橙色胎土に白化粧を施し、上位には灰釉と緑釉流し掛けを模した着色が認められる。第56図13は砥石であ

るが、背面に円筒形の貫通しない孔が多数穿たれる。孔内面の中心は突出しており、竹管文のような形状である。内面に僅かながら緑青状の物質が



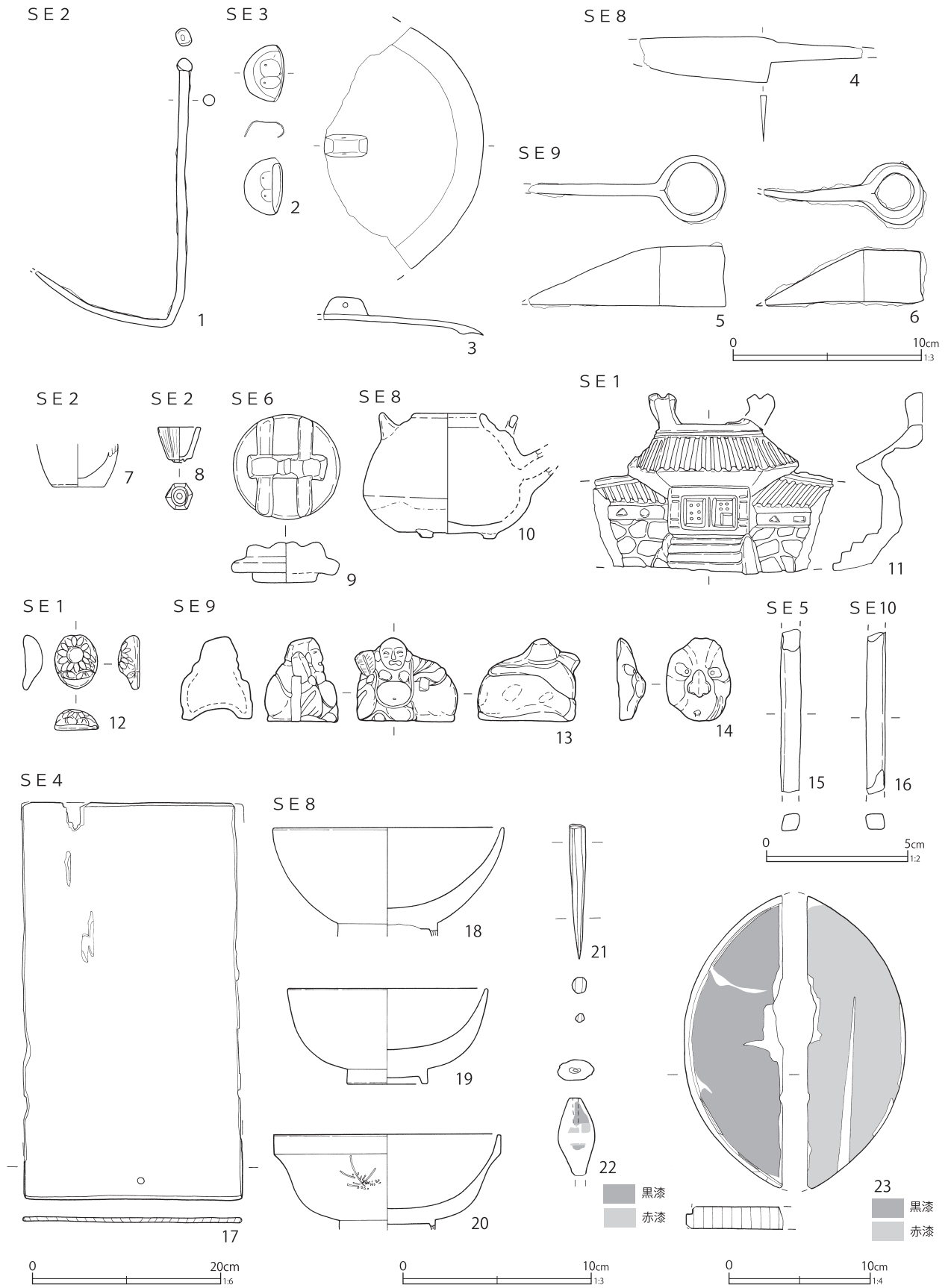
第 53 図 井戸跡出土遺物 (4)



第54図 井戸跡出土遺物(5)

第10表 井戸跡出土遺物観察表(1)(第50~54図)

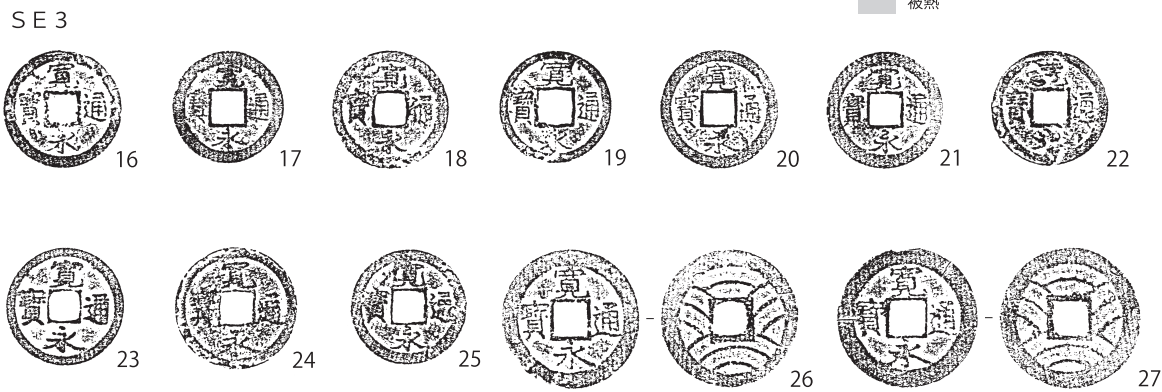
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.8)	6.2	(6.2)	—	40	普通	白	SE1	肥前系 施釉 外面染付	26-6
2	磁器	碗	—	[2.2]	(5.6)	—	90	良好	白	SE1	肥前系 施釉・染付 焼継印	
3	磁器	蓋	4.0	2.9	(9.8)	—	60	良好	白	SE1	瀬戸美濃系 施釉・型紙摺絵染付	
4	磁器	碗	(7.6)	5.8	4.4	—	40	普通	白	SE1	肥前系 施釉 内面染付 外面絵付	
5	磁器	碗	(7.0)	[5.8]	3.9	—	60	良好	白	SE1	肥前系 施釉 外面染付	
6	磁器	碗	—	[1.9]	3.6	—	70	良好	白	SE1	堀方 瀬戸美濃系 施釉 外面上絵付(赤)	
7	磁器	坏	(7.5)	3.1	2.9	—	40	良好	白	SE1	瀬戸美濃系 施釉・酸化コバルト染付	
8	磁器	坏	(8.3)	[3.3]	(3.4)	—	45	良好	白	SE1	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付(青)	



第 55 図 井戸跡出土遺物 (6)



被熱



0 5cm 1.2 1~4・6~15 0 10cm 1.4 16~27 0 5cm 2.3

第 56 図 井戸跡出土遺物 (7)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
9	磁器	爛德利	—	[20.9]	(6.8)	—	60	良好	白	SE1	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	75-3	
10	磁器	急須	(6.2)	8.7	7.1	—	60	不良	白	SE1	瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
11	陶器	德利	3.2	[14.5]	—	K	20	良好	灰白	SE1	瀬戸美濃系 外面灰釉 肩部窯道具痕		
12	陶器	土瓶	—	[3.1]	(7.0)	K	30	良好	灰白	SE1	外面青緑釉・墨書 内面透明釉		
13	陶器	蓋	—	2.4	5.7	HK	90	良好	灰白	SE1	上面灰釉・絵付(鉄絵・呉須絵・白盛)		
14	施釉土器	碗か	—	[1.8]	(2.2)	H	5	良好	にぶい橙	SE1	掘方 外面施釉・上絵付(緑)		
15	土師質土器	香炉	—	[8.8]	(7.0)	AHI	50	普通	浅黄橙	SE1	外面ミガキ 口縁部二次敲打		
16	磁器	坏	(7.0)	[2.7]	—	—	25	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 施釉 外面銅版転写染付		
17	磁器	坏	(6.8)	4.9	(2.8)	—	40	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
18	磁器	鉢	(13.9)	6.4	(6.5)	—	45	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 施釉・染付 釘書 焼継痕・焼継印(赤)		26-7 75-4
19	磁器	蓋	—	2.4	1.2	—	100	良好	白	SE2	上面施釉・酸化コバルト染付 最大径 3.0		
20	陶器	皿	—	[1.6]	5.7	IK	80	良好	明褐灰	SE2	笠間系 内面二彩(糠白・緑釉)・目跡		26-8
21	陶器	爛德利	—	[3.5]	(7.2)	IK	40	良好	灰白	SE2	外面灰釉・呉須絵(文字)		
22	陶器	播鉢	—	—	—	GK	5	良好	淡黄	SE2	瀬戸美濃系 底部糸切痕 内面播目 円盤状製品転用, 側縁二次研磨 幅 6.3 厚 1.6		
23	陶器	德利	—	[8.0]	—	I	5	良好	灰	SE2	外面灰釉・呉須絵		
24	陶器	壺	(13.9)	[7.6]	—	IK	30	良好	灰白	SE2	肥前系 施釉 内面同心円状あて具痕 外面叩き目	26-9	
25	陶器	土瓶	(6.7)	[8.9]	—	I	20	普通	淡黄	SE2	外面海鼠釉 内面鉄分付着(お歯黒壺転用)		
26	瓦質土器	火鉢	(27.6)	[5.5]	—	IK	10	良好	灰白	SE2	外面施文・赤彩 燻す		
27	瓦質土器	焙烙	—	5.0	—	CHI	5	普通	灰白	SE2	底部シワ状痕 燻す		
28	瓦質土器	掘炬燵	25.7	20.1	23.0	C	80	普通	黒	SE2	砂目底 口縁部ミガキ 燻す		
29	陶器	蓋	—	1.4	3.2	—	95	良好	浅黄	SE3	京都信楽系 上面施釉 径 4.7(カンテラ)		
30	陶器	土瓶	6.8	12.4	7.0	IK	80	良好	灰白	SE3	最下層 外面銅緑釉 内・外面底面煤少量付着		
31	陶器	土瓶	4.9	8.5	5.2	IK	95	普通	灰黄	SE3	外面施釉(黄褐色の釉) 内面鉄釘・鉄塊遺存(お歯黒壺転用)	26-10	
32	磁器	碗	(10.4)	5.3	(3.2)	—	15	良好	白	SE4	下層 瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付		
33	磁器	碗	6.9	5.9	3.4	—	100	良好	白	SE4	瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
34	磁器	碗	7.1	5.8	4.0	—	100	良好	白	SE4	肥前系 施釉・染付 煤付着		
35	磁器	碗	7.0	6.2	3.7	—	75	良好	白	SE4	瀬戸美濃系 施釉・染付		
36	磁器	碗	6.8	5.3	3.3	—	80	良好	白	SE4	瀬戸美濃系 施釉・染付		
37	磁器	皿	10.5	2.2	5.6	—	70	良好	白	SE4	肥前系 施釉 内面染付・釘書(へに「田」)	26-11	
38	磁器	皿	—	[0.9]	—	—	15	良好	白	SE4	肥前系 施釉 内面染付 墨書		
39	磁器	鉢	(14.0)	5.1	(6.6)	—	40	良好	白	SE4	肥前系 施釉・染付 焼継痕・焼継印(赤)		
40	磁器	鉢	(12.3)	5.3	(5.2)	—	30	普通	白	SE4	肥前系 施釉 内面染付 内面釘書(へに「田」)		
41	陶器	灯火具	6.9	4.5	4.8	K	95	良好	灰白	SE4	京都信楽系 施釉		
42	陶器	片口鉢	(16.5)	(8.9)	7.3	DIK	30	良好	にぶい橙	SE4	下層 松岡系 灰釉 内面目跡 上下接点のない破片から図上復元		
43	陶器	德利	—	[5.9]	—	IK	10	普通	灰白	SE4	瀬戸美濃系 灰釉(つけ掛け)		
44	陶器	土瓶	(6.2)	[8.8]	—	IK	30	不良	灰白	SE4	外面青緑釉		
45	陶器	甕	—	[7.1]	(13.4)	DEIK	40	良好	灰白	SE4	瀬戸美濃系 柿釉 内面目跡 植木鉢転用		
46	陶器	土瓶	—	(9.4)	—	K	15	良好	灰白	SE4	大堀相馬系 施釉(青ヒビ) 上下接点のない2破片から図上復元		
47	陶器	蓋	—	2.5	5.5	F	95	良好	浅黄	SE4	外面白土・施釉・鉄絵 最大径 5.6		
48	陶器	鍋	(6.8)	[2.4]	—	HIK	20	良好	灰白	SE4	柿釉 把手欠失 小形, ミニチュアか		
49	瓦質土器	焜炉	—	[8.9]	—	CEHK	20	普通	灰	SE4	外面施文 燻す		
50	かわらけ	小皿	(8.2)	2.8	4.9	CEHIK	40	普通	にぶい橙	SE4	底部糸切痕(右) 口縁部煤付着		
51	磁器	坏	(7.0)	[4.5]	—	—	35	良好	白	SE5	瀬戸美濃系 施釉 口紅		
52	磁器	碗	—	[4.6]	3.5	—	10	良好	白	SE5	瀬戸美濃系 施釉 内面型押文		
53	磁器	碗	(7.0)	6.3	(3.8)	—	15	普通	白	SE5	瀬戸美濃系 施釉・染付		
54	磁器	皿	(11.0)	2.3	(6.7)	—	50	良好	白	SE5	肥前系 施釉 内面染付 口紅		
55	陶器	坏	4.0	3.0	1.7	I	95	良好	淡黄	SE5	京都信楽系 施釉		
56	陶器	皿	(13.0)	2.2	7.0	IKL	25	普通	灰白	SE5	瀬戸美濃系 灰釉 内面ピン痕		
57	施釉土器	灯火具	7.2	[6.1]	—	IK	80	良好	にぶい橙	SE5	掘方 透明釉		
58	土師質土器	焼塩壺	—	[3.1]	(4.6)	ADHIK	20	普通	にぶい橙	SE5	板作成形 胎土粉質 雲母多量		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
59	瓦質土器	火鉢	—	[5.0]	—	CEI	5	良好	灰	SE5	外面トビガンナ状施文・櫛歯波状文	
60	瓦質土器	火鉢	—	[5.4]	(13.0)	CI	25	良好	灰	SE5	底部ヘラナデ調整後にケガキ状条線有 外面トビガンナ状施文 燻す	
61	磁器	碗	—	[6.3]	(7.0)	—	75	良好	白	SE6	肥前系 施釉・染付 焼継痕	26-12
62	磁器	坏	(9.0)	[2.5]	—	—	20	良好	白	SE6	瀬戸美濃系 施釉・染付	
63	磁器	坏	(6.8)	4.0	(2.8)	—	45	良好	白	SE6	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
64	磁器	合子	(5.2)	2.4	(2.8)	—	45	良好	白	SE6	肥前系 施釉 外面染付	
65	陶器	碗	(10.1)	5.7	4.7	I	60	良好	淡橙	SE6	京都系か 施釉 外面上絵付(緑・青・白盛)	
66	陶器	爛德利	—	[7.5]	—	HI	15	良好	灰白	SE6	京都信楽系 外面施釉・絵付(鉄絵・緑釉)	
67	陶器	土瓶	(7.6)	[6.8]	—	K	30	良好	灰白	SE6	外面灰釉	
68	磁器	碗	—	[4.5]	(5.2)	—	30	良好	白	SE7	肥前系 施釉・染付 内面蛇の目状釉剥	
69	磁器	碗	(7.5)	6.3	3.7	—	60	普通	白	SE7	掘方 肥前系 施釉・染付	
70	磁器	碗	13.0	5.9	5.0	—	100	良好	白	SE7	肥前系 施釉・染付	
71	磁器	鉢	12.0	6.3	7.0	—	60	良好	白	SE7	肥前系 施釉・染付・色絵(赤・緑)	26-13
72	硬質陶器	皿	19.8	2.2	12.2	—	55	良好	白	SE7	英国産(ジョンソン・ブラザーズ) 施釉・銅版転写染付	27-1
73	磁器	坏	5.0	2.9	(1.8)	—	90	良好	白	SE7	瀬戸美濃系 施釉 内面酸化コバルト染付	
74	磁器	坏	5.0	2.8	1.8	—	95	良好	白	SE7	瀬戸美濃系 施釉・酸化コバルト染付	
75	磁器	坏	4.0	3.6	2.6	—	100	良好	白	SE7	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
76	磁器	德利	1.7	6.4	2.4	—	95	良好	白	SE7	瀬戸美濃系 施釉・染付 小形	
77	陶器	碗	—	[3.3]	(3.8)	E	15	良好	灰白	SE7	掘方 京都信楽系 施釉 外面鉄絵	
78	陶器	乗燭	—	[4.3]	(4.3)	K	70	良好	灰白	SE7	掘方 瀬戸美濃系 底部糸切痕・穿孔 鉄釉	
79	陶器	豆甕	—	[1.9]	3.4	G	30	良好	にぶい橙	SE7	底部糸切痕(右) 柿釉	
80	瓦質土器	蓋	—	3.6	(26.8)	CEHIK	15	普通	にぶい橙	SE7	掘方 砂目底 燻す	
81	瓦質土器	火鉢	(29.2)	22.7	23.8	ACHI	90	普通	にぶい橙	SE7	砂目底 上部変色・摩耗 外面ミガキ・施文	
82	磁器	碗	—	[4.2]	—	—	10	普通	灰白	SE8	掘方 肥前系 施釉(外面鉄釉)	
83	磁器	碗	(12.3)	6.2	4.8	—	40	良好	灰白	SE8	掘方 肥前系 施釉 外面染付 高台内中央に意図的な傷	
84	磁器	碗	(9.3)	[2.9]	—	—	15	良好	白	SE8	掘方 肥前系 施釉 外面色絵(赤)	
85	磁器	碗	—	[4.2]	(3.6)	—	15	良好	白	SE8	瀬戸美濃系 施釉 外面陰刻状施文	
86	磁器	坏	6.2	4.7	2.5	—	95	良好	白	SE8	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
87	磁器	皿	—	[1.7]	(4.6)	—	20	良好	灰白	SE8	掘方 肥前系 施釉 内面釉剥部に絵付(緑)	
88	磁器	坏	(7.0)	1.9	(2.4)	—	20	良好	白	SE8	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
89	磁器	皿	(13.8)	3.9	(8.0)	—	30	良好	白	SE8	掘方 肥前系 施釉・染付	
90	磁器	紅皿	(6.4)	2.4	2.2	—	40	不良	白	SE8	肥前系 型成形 施釉	
91	磁器	紅皿	6.0	1.4	1.9	—	95	良好	白	SE8	瀬戸美濃系 型成形 施釉 外面陰刻状施文	
92	磁器	紅皿	(5.8)	1.8	(1.8)	—	30	良好	白	SE8	瀬戸美濃系 型成形 施釉 外面施文 刻印	
93	磁器	德利	—	[4.5]	2.7	—	30	不良	白	SE8	瀬戸美濃系 外面施釉・色絵(緑・赤) 内面赤色付着物	
94	磁器	蓋	—	[1.9]	(6.4)	—	30	良好	灰白	SE8	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
95	磁器	急須	—	[3.1]	—	—	5	良好	白	SE8	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付	
96	陶器	碗	8.5	5.9	3.2	H	90	普通	灰白	SE8	瀬戸美濃系 緑釉 外面灰釉掛分・押型文	
97	陶器	碗	(8.0)	5.8	(2.4)	K	35	普通	灰白	SE8	京都信楽系 施釉 外面上絵付(緑・赤)	26-14
98	陶器	碗	—	[4.9]	(3.2)	I	40	良好	灰	SE8	掘方 萩焼 内面藁灰釉 外面ピラ掛け	
99	陶器	行平	—	[3.6]	—	I	5	普通	灰白	SE8	外面鉄釉	
100	陶器	鉢	(17.6)	[4.0]	—	I	25	普通	灰白	SE8	大堀相馬系 糠白釉	27-2
101	陶器	緑釉小皿	—	[2.6]	—	HIK	5	良好	灰白	SE8	古瀬戸後期様式 内面〜口縁部灰釉 14c 後	
102	陶器	坏	(5.6)	[2.7]	—	K	15	普通	灰白	SE8	掘方 瀬戸美濃系 灰釉 坩堝転用	
103	陶器	水鉢	—	[6.5]	(15.2)	K	5	良好	灰白	SE8	瀬戸美濃系 灰釉 外面施文・緑釉流掛 墨書	
104	陶器	播鉢	—	[3.3]	—	I	5	良好	灰黄褐	SE8	掘方 志戸呂系 鉄釉 内面播目	
105	瓦質土器	火鉢	—	[3.5]	—	CIK	5	普通	灰白	SE8	外面施文・赤彩	
106	瓦質土器	火鉢	—	[8.6]	—	CGI	5	普通	灰白	SE8	SK258 接合 外面施文・赤彩 一部墨痕	
107	かわらけ	小皿	(8.8)	3.1	(4.0)	EGHI	30	良好	にぶい黄橙	SE8	掘方 底部糸切痕 胎土砂質	
108	かわらけ	小皿	(5.3)	1.7	(3.2)	EHIK	20	普通	にぶい橙	SE8	掘方	
109	磁器	蓋	5.3	2.7	10.4	—	60	良好	白	SE9	掘方 肥前系 施釉・染付	
110	磁器	碗	10.4	5.9	3.6	—	95	良好	白	SE9	瀬戸美濃系 施釉・染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版	
111	磁器	碗	6.2	4.8	3.2	—	55	良好	白	SE9	瀬戸美濃系 施釉・染付	27-3	
112	磁器	坏	—	[1.8]	2.2	—	40	良好	白	SE9	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 内面上絵付(青)		
113	磁器	皿	(14.6)	3.0	8.7	—	50	良好	白	SE9	SK255 接合 肥前系 施釉・染付 漆継痕		
114	磁器	皿	10.5	3.2	5.9	—	90	良好	白	SE9	瀬戸美濃系 施釉・染付		
115	磁器	鉢	14.8	6.1	5.8	—	95	良好	白	SE9	SK207 接合 肥前系 施釉・染付 高台部釘書		
116	磁器	仏飯器	—	[4.1]	(3.8)	—	80	良好	白	SE9	掘方 肥前系 施釉 外面染付		
117	磁器	段重	13.6	6.6	9.4	—	100	良好	白	SE9	肥前系 施釉 外面染付		
118	陶器	坏	(6.7)	3.5	2.3	IK	65	良好	灰白	SE9	京都信楽系 施釉 外面上絵付(赤・緑)		27-4
119	陶器	灯火具	9.0	5.4	5.0	IK	95	良好	にぶい橙	SE9	底部糸切痕(右) 灰釉		
120	陶器	豆甕	(5.2)	4.7	3.2	IK	45	良好	灰白	SE9	掘方 底部糸切痕(右) 柿釉		
121	瓦質土器	目皿	(15.4)	1.3	(15.4)	EGHIK	35	良好	にぶい橙	SE9	掘方 被熱・赤変		
122	陶器	土瓶	(8.6)	8.5	(8.0)	E	20	良好	灰白	SE9	掘方 外面灰釉・白盛絵付		
123	磁器	碗	(8.0)	[6.1]	—	K	40	良好	白	SE10	瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
124	土師質土器	乗燭	4.3	1.5	3.2	AIK	100	良好	にぶい褐	SE10	底部糸切痕(左) 胎土粉質 灯芯上端煤付着		
125	陶器	瓶類	—	[6.0]	(10.0)	I	10	普通	灰黄褐	SE10	掘方 外面鉄釉・底部拭き取り		

第11表 井戸跡出土遺物観察表(2)(第55図)

番号	種別	器種	法量・胎土					遺構	備考	図版		
1	鉄製品	火箸	長[14.3] 厚[0.6] 重20.3					SE2		97-1		
2	銅製品	燭台	縦3.0 横2.1 厚0.05 重1.4					SE3	皿部			
3	鉄製品	蓋	縦[12.8] 横[8.4] 高2.0 厚0.3 重164.2					SE3				
4	鉄製品	刀子	長[11.7] 刃長[6.7] 刃幅2.4 背幅0.3 重26.0					SE8				
5	鉄製品	鳶口	縦3.2 横[10.4] 厚0.6 重78.4					SE9	掘方			
6	鉄製品	鳶口	縦2.9 横[8.3] 厚0.8 重55.4					SE9	掘方			
7	土師質土器	小壺	器高[1.5] 底径1.8 胎土HK					SE2	にぶい橙 60%遺存 底部糸切痕(右)			
8	施釉土器	ミニチュア	口径1.6 器高1.2 底径0.4 重1.6					SE2	坏 完存 胎土白色 京都系 型成型 内外面黄色釉		84-8	
9	施釉土器	ミニチュア	径3.8 高1.4 重13.5 胎土AI					SE6	釜の蓋 完存 橙色 江戸在地系 透明釉		84-9	
10	施釉土器	ミニチュア	口径2.3 器高4.4 底径3.1 胎土IK					SE8 掘方	土瓶 胎土橙色		84-10	
11	土製品	箱庭道具	幅[8.5] 高6.2 厚[3.2] 重57.0 胎土AI					SE1	門 灰白色 京都系 前後合型成型 透明釉一部緑釉		84-7	
12	土製品	泥面子	幅1.6 長1.9 厚0.7 重1.6 胎土IG					SE1	芥子面 にぶい橙色 在地系 型押成型		84-11	
13	土製品	人形	幅3.6 高3.0 厚2.6 重14.3 胎土AHI					SE9	布袋 にぶい橙色 江戸在地系 前後合型成型 中空 彩色(白)			
14	土製品	泥面子	長2.9 幅2.3 厚1.0 重4.0 胎土ACEH					SE9	芥子面 橙色 在地系 型押成型			
15	硝子製品	筭	長[5.8] 幅0.7 厚0.7 重6.4					SE5	中実 上下両端欠 黄褐色		102-7	
16	硝子製品	筭	長[5.7] 幅0.7 厚0.6 重6.5					SE10	中実 上下両端欠 黄褐色		102-7	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取	遺構	備考	図版
17	木製品	板	42.6	23.3	0.5	—	—	—	板目	SE4	孔1 表面墨書	91-2
18	木製品	漆碗	—	—	—	(12.0)	[5.7]	—	横木取り	SE8	内面赤漆 外面黒漆 炭化	
19	木製品	漆碗	—	—	—	10.4	5.0	4.2	横木取り	SE8	内外面赤漆	
20	木製品	漆碗	—	—	—	12.0	[5.0]	—	横木取り	SE8	内外面赤漆 外面金で文様	
21	木製品	釘	7.1	0.8	0.9	—	—	—	削出し	SE8		
22	木製品	浮子	[4.1]	—	—	1.9	—	—	削出し	SE9	中央赤漆 上下黒漆	
23	木製品	曲物	—	—	1.2	(16.8)	—	—	柁目	SE8	底板 内面黒漆 外面赤漆	

遺存する。転用後に穿孔されたものらしいが、詳細な用途は不明である。第56図15は棒状の土製品で、用途は不詳だが生産関連遺物と考えられる。本陣跡では第205・1005号土壌を中心在一定量の出土が確認された。

第9号井戸跡(第49図)

C6-F3・4グリッドに位置し、径2m弱の掘方内に径60cm強の桶が2段遺存していた。掘

方底面まで完掘しているが、根側の桶を支える基礎は確認されなかった。

第54図109～122は出土した陶磁器で、114は見込みに「道光年製」と染付される瀬戸美濃系磁器小皿である。「道光」は清の年号であり1821～50年にあたる。120は陶器の柿釉を施す豆甕で、地方窯で生産されたものと思われる。栗橋宿跡では19世紀以降の遺構から少量出土する。他に

第12表 井戸跡出土遺物観察表(3)(第56図)

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版
			長	幅	厚	重			
1	石製品	砥石	[7.1]	3.6	[3.2]	142.3	SE1	流紋岩 ノコギリ痕 砥面1	
2	石製品	砥石	[6.6]	5.2	1.4	75.5	SE1	流紋岩 ノコギリ痕 砥面2	
3	石製品	砥石	[2.5]	3.7	3.2	34.7	SE1	流紋岩 平ノミ痕 砥面2	
4	石製品	砥石	[9.9]	3.0	2.7	141.3	SE2 掘方	流紋岩 幅広工具痕 ノコギリ痕 砥面4	100-1
5	石製品	石筆	[3.5]	0.9	0.7	4.6	SE2	滑石	101-2
6	石製品	磨石	[3.3]	[2.5]	[1.0]	4.2	SE3	角閃石安山岩 多孔質 自然面使用 1面形成	101-3
7	石製品	磨石	[4.5]	[3.2]	[1.4]	7.9	SE3	角閃石安山岩 多孔質 自然面使用 2面形成	101-3
8	石製品	砥石	[10.9]	[3.9]	1.5	62.9	SE3	ホルンフェルス 刃物痕 砥面3 粘板岩質	100-1
9	石製品	砥石	9.0	[7.7]	2.4	175.6	SE4	ホルンフェルス 刃物痕 砥面5	100-1
10	石製品	砥石	[7.1]	4.7	0.9	59.6	SE4	流紋岩 ノコギリ痕 刃物痕 砥面4	100-1
11	石製品	砥石	[11.3]	7.0	1.3	166.6	SE4	ホルンフェルス 幅広工具痕 ノコギリ痕か 刃物痕 表面細かな刃物痕顕著 砥面2	100-1
12	石製品	砥石	6.3	6.8	3.5	205.1	SE5	石英質砂岩 周縁使用 U字断面の深い使用痕 被熱	100-1
13	石製品	砥石	[12.3]	4.5	3.4	284.0	SE8 掘方	流紋岩 削痕 砥面1 穿孔16(中央に円形の段)裏面銅付着 被熱 生産道具に転用か	100-6
14	瓦	転用砥具	長5.5幅5.4厚1.6重33.7				SE8	平瓦を二次利用 側面2面に瓦本来の面残る	
15	土製品	棒状製品	長[13.6]径3.5重163.2				SE8	胎土HIK 橙 被熱して片側火ぶくれ状・白変	102-4
16	銅製品	銭貨	径23.6厚1.3重2.4				SE3	寛永通宝(新)	
17	銅製品	銭貨	径22.4厚1.0重1.6				SE3	寛永通宝(新)背元	
18	銅製品	銭貨	径23.3厚1.1重2.5				SE3	寛永通宝(新)	
19	銅製品	銭貨	径22.6厚1.4重3.1				SE3	寛永通宝(新)	
20	銅製品	銭貨	径23.6厚1.0重2.4				SE3	寛永通宝(新)	
21	銅製品	銭貨	径23.3厚1.0重2.4				SE3	寛永通宝(新)背足	
22	銅製品	銭貨	径23.2厚1.0重1.7				SE3	寛永通宝(新)	
23	銅製品	銭貨	径23.6厚1.1重2.8				SE3	寛永通宝(古)	
24	銅製品	銭貨	径24.4厚1.0重2.5				SE3	寛永通宝(新)	
25	銅製品	銭貨	径23.1厚1.2重2.0				SE3	寛永通宝(古)	
26	銅製品	銭貨	径27.7厚1.1重3.0				SE3	寛永通宝四文銭 11波	
27	銅製品	銭貨	径28.2厚1.1重3.9				SE3	寛永通宝四文線 11波	

肥前系磁器八角鉢・磁器卵殻手坏(112)が出土しており、19世紀中葉に廃絶しているものと考えられる。掘方からは土師質土器目皿(121)が出土しているが、他には肥前系磁器広東碗とその蓋・京都信楽系陶器小杉碗等、18世紀後葉前後の遺物が多い。第55図5・6は金属製品の鳶口である。13・14は土製品の玩具類で、13は小形の布袋人形である。前後合わせの型成形であるが、底面は別の粘土で塞ぐ。中空で下端に孔が1箇所ある。表面には白色塗布物の痕跡が認められる。14は泥面子である。

第10号井戸跡(第49図)

C6-E3・4グリッドに位置し、径1m強の

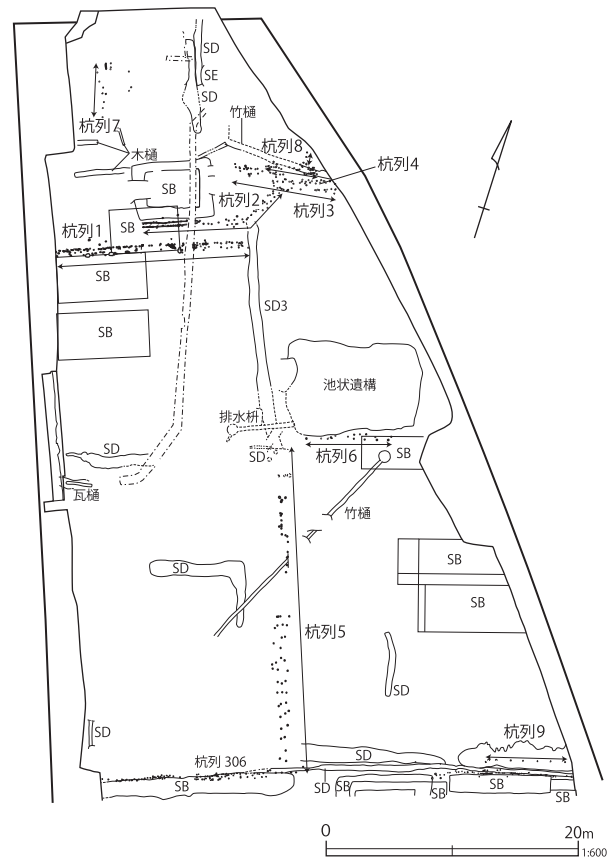
掘方内に径40~50cmの桶が3段積まれていた。最上段の桶の基底部分には瓦が埋め込まれ、桶本体を支えている。より下段の桶にはこのような構造がみられず、最上段の桶が化粧桶に相当する可能性がある。掘方底面まで完掘しているが、根側の桶を支える基礎は確認されなかった。掘方内から肥前系磁器八角鉢、側内から陶器青緑釉土瓶が出土しており、19世紀前葉の構築・使用と考えられる。第54図125は陶器瓶類で、茶色味の強い釉が掛けられる。底部の釉は粗く拭き取られる。志戸呂系陶器に似た胎土だが、別の地方窯産と考えられる。第55図16は硝子製髪飾り類である。

(6) 杭列

杭列は9条検出された。杭列の多くは溝の側板を支える杭が遺存して検出されたものと考えられ、溝跡と同種の遺構と考えられる。側板と杭が残る第3号溝跡はそれが遺存した例で、南側延長部で検出された第5号杭列が同一の遺構と考えられる。第8号溝跡と第306号杭列（『本陣跡Ⅰ』で既報告）も同一遺構とみられる。本来は一つの遺構とするべきだが、混乱を避けるため調査時の遺構名を変えずに報告する。検出位置の概略は第57図に示した。大きくは本陣敷地を画す杭列（第2～5・9号杭列）と、街道沿いの店子町屋内を区画する杭列（第1・7号杭列・第2号杭列の西部）がある。規模等の基本情報は第13表、遺構図面は第58～60図にまとめた。

第1・2号杭列（第58図）

第1号杭列は街道に直行する方向の杭列で、C6-B3グリッド北東端からB1グリッド西部に延びる。本陣西部の店子町屋内を区画する杭列で、東部は第3号溝跡に接続する。サンプリングした杭の長さは30～39cmほどで、角材状のものもあった。第2号杭列はC6-B2・3グリッドに位置する。西部は第1号杭列の約2m北に並行して検出された。東側で第3号溝跡北端と交わり、そこから方向をやや北に変えて延び、第3号杭列と交わる。この部分は本陣敷地境として機能していたようである。部分的に杭で側板を押えた構造が遺存しており、溝として機能していたことが確認できる（第58図模式図）。第1号杭列とは狭い間隔で並走するが、第2号井戸跡との重複関係から、第2号杭列→第2号井戸跡（掘方）→第1号杭列の順に構築されたことが分かる。従って、第1号杭列は19世紀後半以降、第2号杭列は19世紀中葉以前の構築と考えられる。また、第1号杭列は19世紀初頭と考えられる第4号建物跡と近接するが、両者に年代差があり、同時併存では無い。出土遺物は第61・62図に示した。遺構の



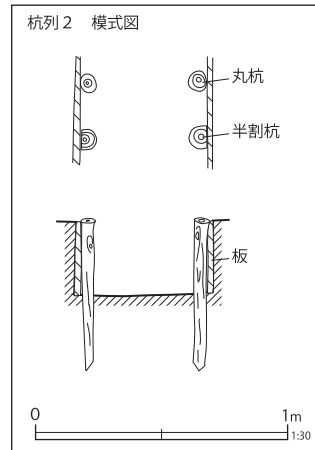
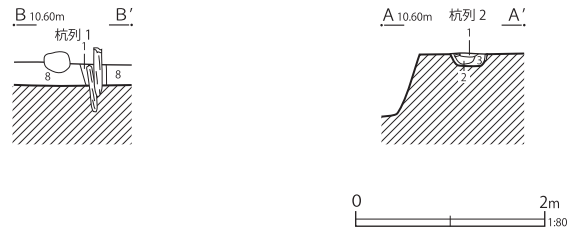
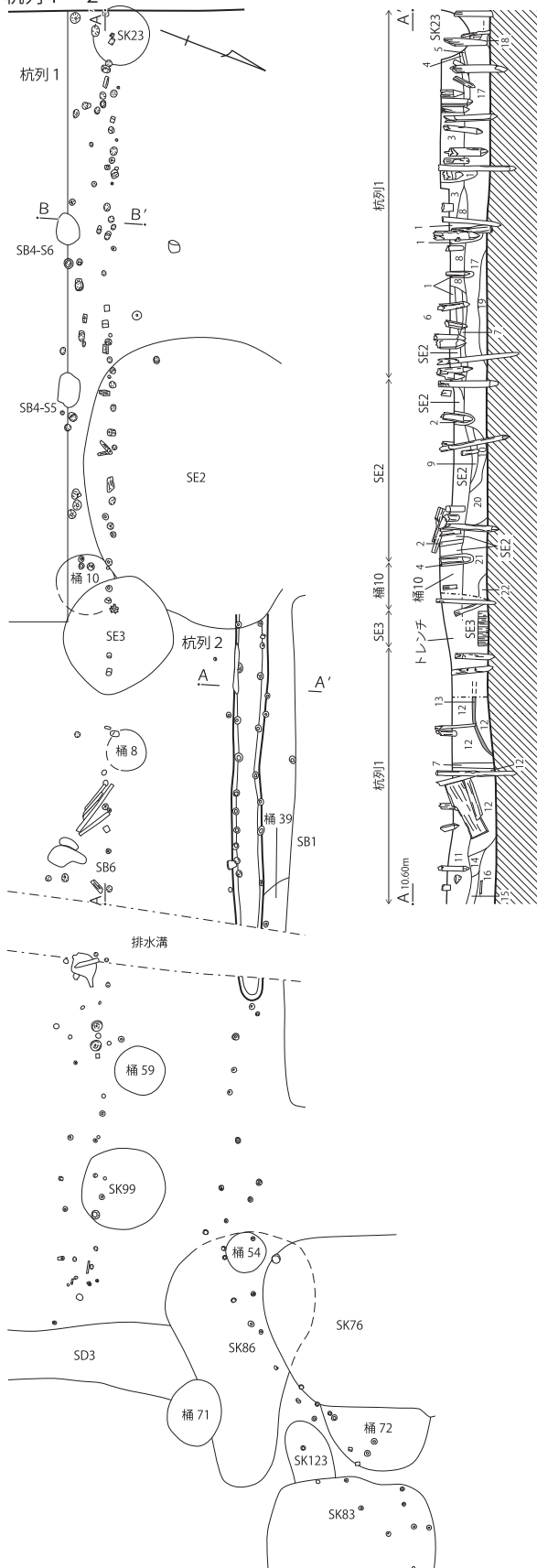
第57図 杭列全体図

第13表 第一面杭列一覧表 単位：m

番号	グリッド	長さ	主軸方向	備考
1	C6-B1/2/3・C1	15.17	N-69° -E	桶8重複 桶10・SE3/2より新 SK23より古
2	C6-B2/3	11.65	N-68° -E N-62° -E	SE2・SK76より古 桶39/72より新
3	C6-A2/3	8.17	N-84° -E	杭列4・桶66/87重複
4	C6-A2/3	4.17	N-74° -E	杭列3・竹樋1重複 SK113・SK181より古
5	C6-D4・E4・F4	24.64	N-18° -W	
6	C6-C4	6.78	N-72° -E	SB13重複
7	C6-A1	5.65	N-20° -W	桶21/22/27/28重複
8	C6-A3	1.16	N-16° -W	
9	C6-E6	6.29	N-73° -E	焼土範囲重複

検出状況から、杭列に帰属するもの以外が含まれている可能性もあるが、便宜上この項で扱う。第61図1は、「小町紅」銘の染付がある肥前系磁器の坏で、紅猪口である。栗橋宿跡での出土量は極めて少ない。第62図5は軒瓦である。瓦当模様の表出は弱く不鮮明である。また、瓦当面下端のカーブが強い点の特異である。6は硝子製髪飾り類で、二本の硝子管を合わせて成形される。先

杭列1・2



第1号杭列

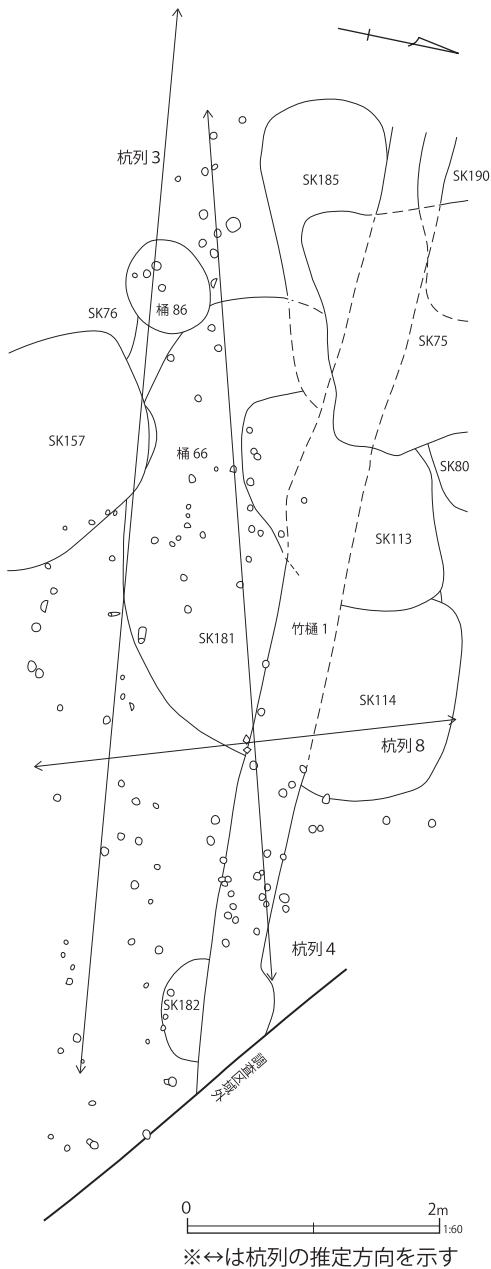
- | | |
|-----------|---|
| 1 暗褐色砂質土 | シルト主体 木質の腐植土層 粘性・しまりあり |
| 2 灰褐色砂質土 | シルト主体 炭化物粒子(φ1~2mm)・シルト粒子(φ3~5mm)少量 粘性なし しまりあり 杭による変色土 |
| 3 灰褐色土 | 炭化物(φ3~5mm)・焼土粒子含む シルト含む 粘性なし しまりあり |
| 4 明灰褐色砂質土 | 炭化物粒子(φ1~2mm)少量 砂多量 粘性・しまりなし |
| 5 灰色砂 | 粘性・しまりなし |
| 6 灰色砂質土 | シルト粒子(φ5~6mm)・褐鉄含む 粘性なし しまり強 |
| 7 暗灰色土 | シルト主体 砂含む 褐鉄粒子(φ1mm)以下少量 粘性あり しまり強 |
| 8 灰褐色砂質土 | シルト主体 炭化物粒子(φ1~2mm)少量 シルト粒子(φ5mm)・褐鉄粒子(φ1~2mm)含む 粘性・しまりあり |
| 9 暗灰褐色土 | シルト主体 焼土粒子(φ3~7mm)少量 粘性・しまりあり |
| 10 灰褐色砂質土 | シルト主体 褐鉄粒子(φ2~3mm)少量 シルト粒子(φ5~10mm)斑状に含む 粘性・しまりあり |
| 11 灰褐色砂質土 | シルト主体 シルトブロック(φ3~20mm)多量 炭化物ブロック(φ5~10mm)少量 粘性・しまりあり |
| 12 暗灰褐色土 | シルト主体 木質多量 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 粘性あり しまりなし |
| 13 暗褐色土 | (炭層) 炭化物ブロック極多量 |
| 14 灰褐色土 | シルト主体 シルトブロック(φ2~3cm)多量 炭化物粒子(φ2~3mm)・褐鉄粒子(φ1mm)少量 粘性・しまりあり |
| 15 灰白色土 | シルト主体 炭化物粒子(φ2~3mm)・褐鉄粒子(φ1mm)少量 粘性・しまりあり |
| 16 暗褐色土 | シルト主体 (焼土、炭層) 褐鉄粒子(φ5~6cm)多量 褐鉄粒子(φ2~3mm)少量 粘性あり しまり弱 |
| 17 灰褐色砂質土 | 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 砂質強 粘性なし しまりあり |
| 18 暗灰褐色土 | 炭化物粒子(φ2~3mm)少量 粘性強い しまりあり |
| 19 灰褐色砂質土 | シルト主体 褐鉄粒子(φ1~2mm)含む 粘性・しまりあり |
| 20 灰褐色砂質土 | 炭化物粒子(φ5~10mm)・褐鉄粒子(φ1~2mm)含む シルト粒子(φ5~10mm)少量 粘性なし しまりあり |
| 21 暗灰褐色土 | 砂質シルト主体 焼土粒子 シルト粒子(φ5mm)斑状に含む 粘性・しまりあり |
| 22 灰白色土 | シルト主体 灰白色シルトブロック(φ8~15mm)極多量 粘性・しまりあり |

第2号杭列

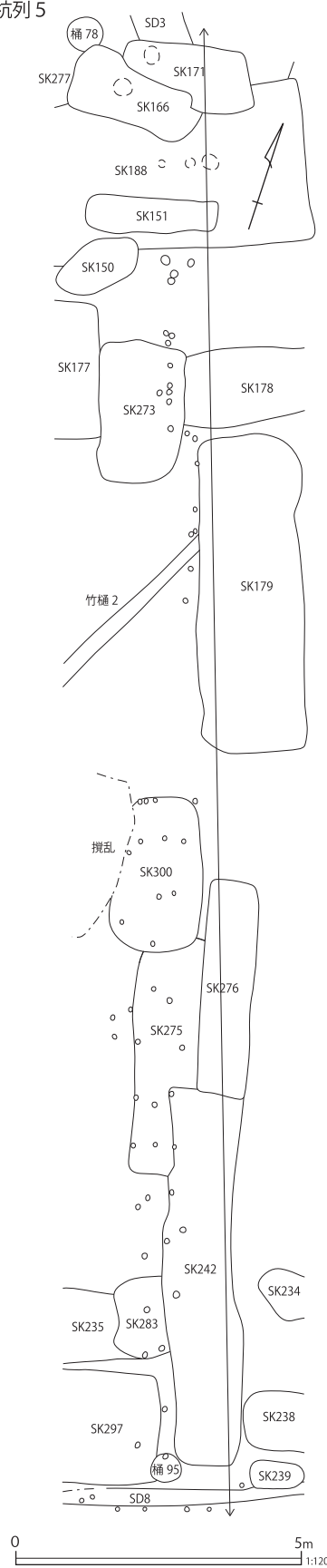
- | | |
|--------|--------------------|
| 1 灰褐色土 | 砂質土で混入物は殆んど含まない |
| 2 黒色土 | 炭化木・木・焼土ブロック多量 |
| 3 黒褐色土 | 焼土・炭化木小ブロック少量 |
| 4 黒褐色土 | 焼土・炭化木小ブロック少量 しまり強 |

第58図 杭列(1)

杭列3・4・8



杭列5



端は耳搔き状に屈曲し扁平になる。

第3・4号杭列

(第59図)

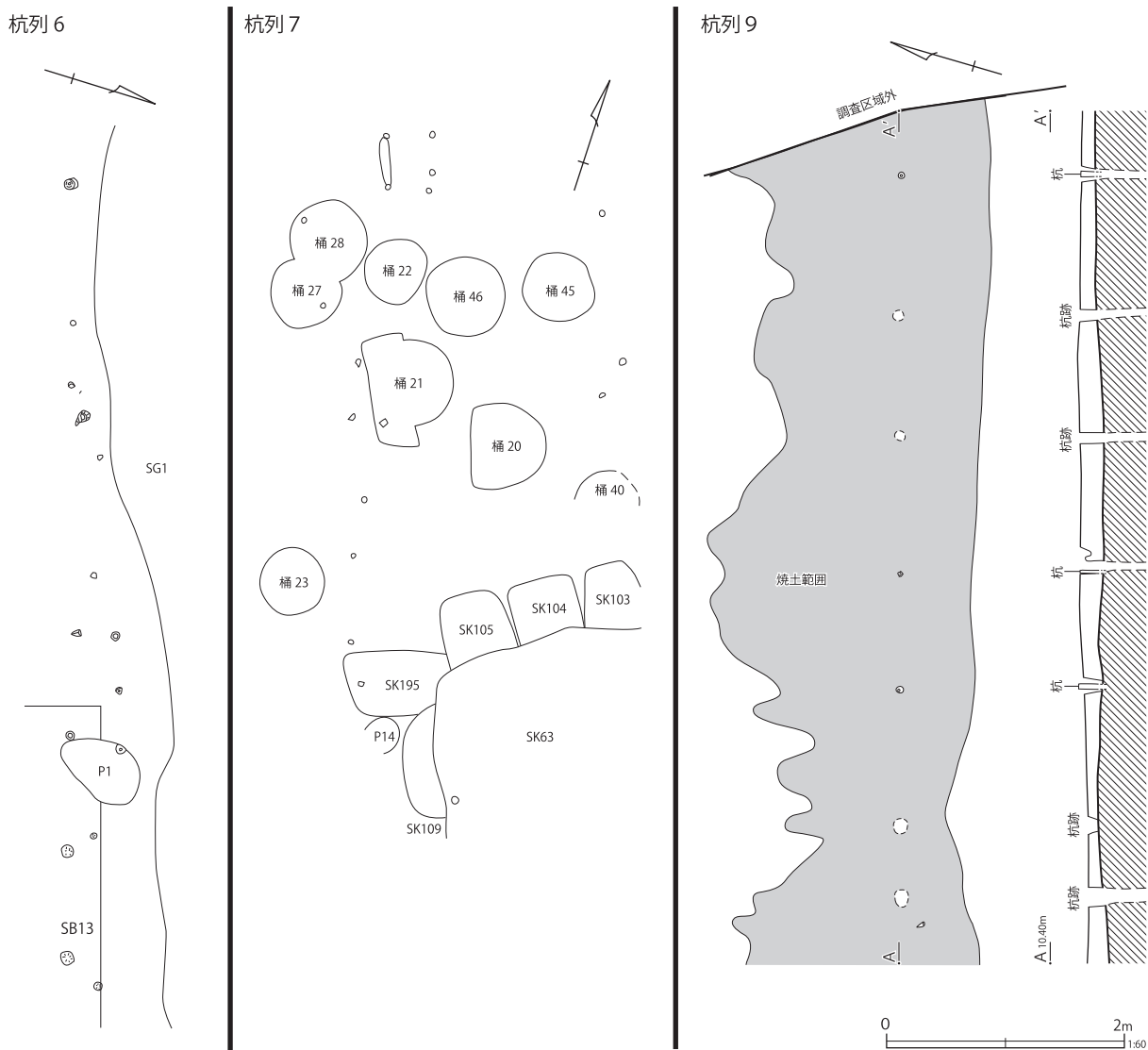
C6-A2・3グリッドから検出された杭列で両者とも東西方向に延びるようだが、杭の位置はやや散漫で走行方向・構造に不確定な部分が多い。恐らく、重複する第1号竹樋と同じ方向に走行するもので、本陣敷地の北側を画すものであろう。

第61図12～15は第3号杭列周辺から出土した陶磁器である。14・15は「紅浅」と上絵付けされた陶器坏である。「小町紅」銘の磁器製紅猪口が稀なのに対し、このタイプの紅坏が栗橋宿跡では多く出土するが、都内の江戸遺跡では出土例が無いようである。紅をめぐる流通の一端を示す遺物である。16・17は京都信楽系陶器の碗と坏であり、上絵付けで彩色される。いずれも強く被熱して黒化している。

第5号杭列 (第59図)

C6-F4グリッドから北に延び、C4グリッド南西で杭の行方が追えなくなる。北側延伸部に第3号溝跡があり、本来

第59図 杭列(2)



第60図 杭列(3)

は同一の遺構であろう。本陣敷地西側と店子町屋の境を画すものであろう。

第6号杭列 (第60図)

C6-C4グリッドから検出された杭列で、本陣敷地内と思われる部分から東西方向に検出された。池状遺構の南端に沿って杭が並ぶが、両者の新旧関係は不明である。本陣敷地内の施設と考えられるが、詳細な性格は不明である。

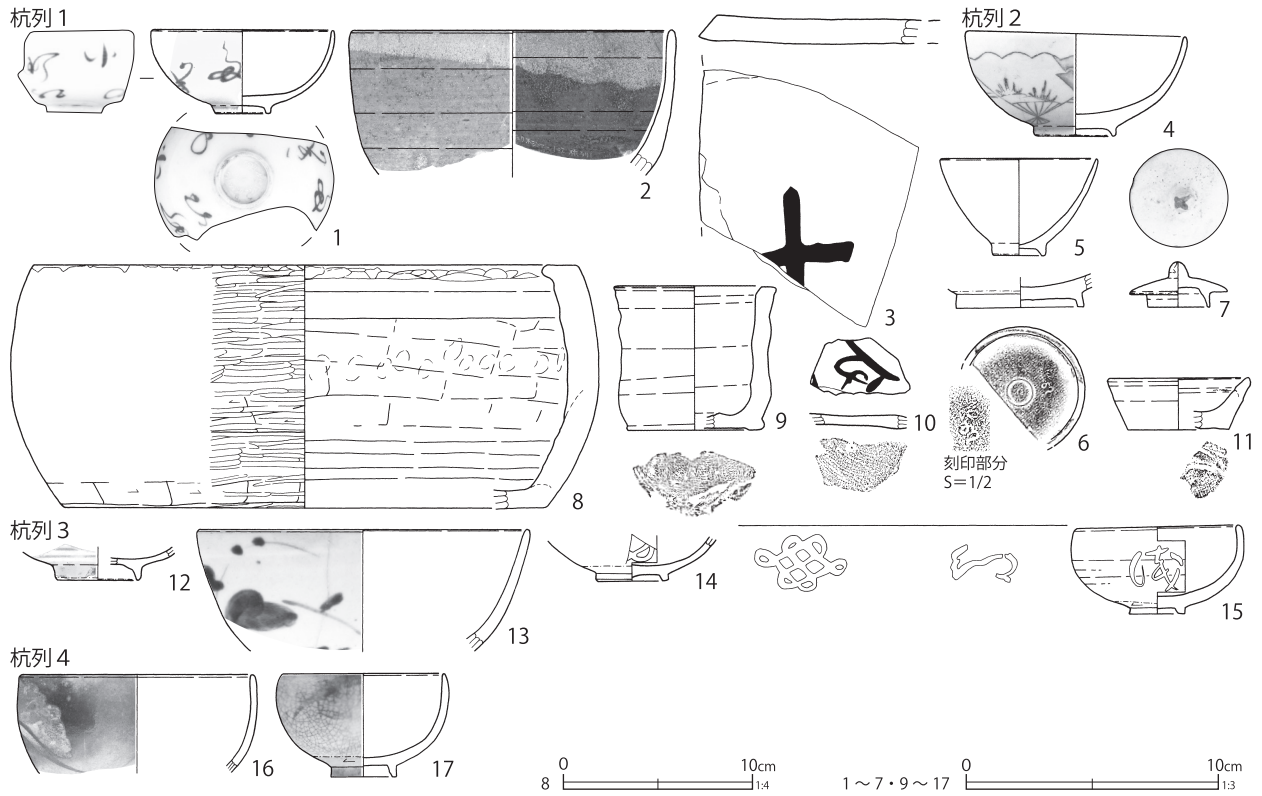
第7・8号杭列 (第59・60図)

第7号杭列は調査区北西側、C6-A1グリッドから検出された杭列で、南北方向に延びる。第8号杭列は調査区北東部、C6-A3グリッドで

検出されたが、北側は調査区外に延び、一部のみ検出された。南北方向の杭列と思われる。両者とも、日光道中がクランクして関所方面に向かう部分の街道と直交しており、店子町屋内の区画溝と考えられる。

第9号杭列 (第60図)

調査区南東部、C6-E6グリッドから検出された東西方向の杭列で、東は調査区外に延びる。位置関係から、第9号溝跡に付属する杭列であった可能性が高い。掘込み面や溝跡との関係から19世紀前葉の構築と考えられ、本陣敷地と南側の町屋との境と思われる。なお、杭列の周囲の窪



第 61 図 杭列出土遺物 (1)

第 14 表 杭列出土遺物観察表 (1) (第 61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	(7.0)	[3.3]	(2.0)	—	40	良好	白	杭列 1	肥前系 施釉・染付 (「小町紅…」) 煤付着	27-5
2	陶器	碗	(12.5)	[5.7]	—	K	30	良好	灰白	杭列 1	瀬戸美濃系 鉄釉 口縁部うのふ釉	
3	瓦質土器	十能	—	[1.1]	—	CHI	5	普通	浅黄橙	杭列 1	底部シワ状痕・墨書「十」か	
4	磁器	碗	8.5	4.1	3.0	—	90	普通	白	杭列 2	肥前系 施釉 外面色絵 (赤・緑)	
5	磁器	坏	(6.1)	3.8	2.0	—	50	良好	白	杭列 2	肥前系 施釉	
6	陶器	碗	—	[1.3]	(5.0)	—	60	普通	灰白	杭列 2	肥前系 灰釉 刻印「清水」	
7	陶器	蓋	—	1.7	2.4	DK	95	良好	にぶい黄橙	杭列 2	上面白土・施釉・鉄絵 最大径 3.8	
8	瓦質土器	火鉢	(28.6)	12.9	(25.5)	CHIK	10	普通	灰白	杭列 2	底部シワ状痕 外面ミガキ 被熱・赤変 口縁部二次敲打	
9	土師質土器	焼塩壺	(5.8)	5.7	(5.3)	AHI	30	普通	にぶい橙	杭列 2	底部糸切痕 胎土粉質	
10	かわらけ	小皿	—	[0.5]	—	AIK	5	普通	にぶい橙	杭列 2	底部糸切痕 胎土粉質 内底面墨書	
11	かわらけ	小皿	(5.4)	2.0	(4.0)	CEHIK	15	不良	にぶい黄橙	杭列 2	底部糸切痕	
12	磁器	碗	—	[1.3]	(3.2)	—	5	良好	白	杭列 3	肥前系 施釉 外面色絵 (赤)	
13	磁器	碗	(13.0)	[4.8]	—	—	15	良好	灰白	杭列 3	肥前系 施釉 外面染付	
14	陶器	坏	—	[1.7]	2.4	I	20	良好	灰白	杭列 3	京都信楽系 施釉 外面上絵付	
15	陶器	坏	6.4	3.5	2.2	IK	100	良好	灰黄	杭列 3	京都信楽系 施釉 外面上絵付 (赤・緑)	27-6
16	陶器	碗	(9.2)	[3.8]	—	K	10	良好	灰白	杭列 4	京都信楽系 施釉 外面上絵付 被熱・黒化	
17	陶器	坏	(6.4)	4.0	(2.6)	—	20	良好	灰白	杭列 4	京都信楽系 施釉 外面上絵付 (赤・緑) 被熱	

みに広く焼土層が堆積した状況がみられた (遺構全体図や第60図では「焼土範囲」と表示)。この焼土範囲は調査区東壁の焼土層 (第6図、基本

土層②の13層) と対応しており、19世紀前葉の火災に伴い形成されたものと考え得る。第9号杭列はこの焼土範囲の上に構築されている。